

# CONFIGURATION MANUAL

---

Version 15.00 – August 2016



XTnano





## 免責事項

本マニュアルは、オリジナルマニュアルXTnano\_configman\_15\_00.pdfの理解の補助用に作成されています。

本マニュアルの内容は、予告なく変更することがあります。

本マニュアルは、正確/最新/信頼できるように注意を払い作成しておりますが、株式会社フォトロンは本マニュアルの内容/品質については如何なる保証も行っておらず、間違い/エラーおよびそれらが原因となり発生した損失や損害については一切責任を負いません。

## 著作権

本マニュアルは、XTnano\_configman\_15\_00.pdfの日本語翻訳版です。

本マニュアルの著作権は、株式会社フォトロンに帰属します。

## 商標

すべての製品およびブランド名は、EVS、または、各所有者の商標または登録商標です。

## 改良要求

本マニュアルの内容に間違いがあれば、株式会社フォトロンまでご連絡下さい。

より良いマニュアル作成のために、ご協力お願いします。





# 目次

目次	-005
新着情報	-009
1. 序文	-011
1.1. EVSサーバー設定の序文	-011
1.2. マニュアル序文	-014
1.3. EVSサーバーの起動	-015
1.4. Webベースインターフェースへのアクセス	-016
2. Multicam Setup	-017
2.1. ユーザーインターフェース概要	-017
2.1.1. Setupエリア概要	-017
2.1.2. ナビゲーションとコマンド	-020
2.2. コンフィグライン	-022
2.2.1. 各章の内容	-022
2.2.2. コンフィグの起動	-023
2.2.3. コンフィグラインの編集	-024
2.2.4. コンフィグラインの名前変更	-025
2.2.5. コンフィグラインのインポートとエクスポート	-026
2.2.6. コンフィグラインの位置の変更	-030
2.2.7. コンフィグラインのコピー/ペースト/削除	-031
2.3. サーバーパラメータ	-032
2.3.1. 章の内容	-032
2.3.2. サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て	-033
2.3.3. パスワード保護を有効/無効にする	-035
2.3.4. サーバーPC LAN接続の設定	-037
2.3.5. サーバー日付と時間の設定	-039
2.3.6. Default Output to VGA/Videoの設定	-040
2.3.7. サーバーRaidの設定	-041
2.4. ライセンスとメンテナンス	-043
2.4.1. オプションコード管理の概要	-043
2.4.2. Options Codes Managementウィンドウ	-044
2.4.3. ライセンスコードの入力と削除	-046
2.5. サーバーメンテナンス	-048
2.5.1. 章の内容	-048
2.5.2. Re(b)oot: EVSサーバーのリブート	-048
2.5.3. (H)ardware check: ハードウェアチェック	-049
2.5.4. (C)lear video disks: クリアビデオディスク	-053
2.5.5. Record Train Maintenance: レコードトレインメンテナンス	-055
2.5.6. E(x)port log files: ログファイルのエクスポート	-057



<b>3. サポートしているコンフィグ</b>	<b>-058</b>
3.1. 一般的な原則	-058
3.1.1. サポートしているコンフィグについて	-058
3.1.2. RECORDとPLAYチャンネルについて	-059
3.1.3. チャンネル割り当ての原則	-060
3.1.4. 拡張コンフィグについて	-062
3.2. SD/HDベースコンフィグ	-063
3.2.1. SD/HDコンフィグ	-063
3.3. SLISMコンフィグ	-065
3.3.1. スーパーモーションコンフィグの一般的な情報	-065
3.3.2. SLISMコンフィグ	-066
3.4. 3Dコンフィグ	-070
3.4.1. 3Dコンフィグの一般情報	-070
3.4.2. 3D標準コンフィグ	-071
3.4.3. 3D SLISMのチャンネル割り当て原則	-072
3.4.4. 3D SLISMコンフィグ	-073
3.5. 1080pコンフィグ	-075
3.5.1. 1080pコンフィグの一般情報	-075
3.5.2. 1080p標準コンフィグ	-076
3.5.3. 1080p SLISMのチャンネル割り当て原則	-077
3.5.4. 1080p SLISMコンフィグ	-078
 <b>4. Multicamコンフィグ</b>	 <b>-080</b>
4.1. ユーザーインターフェース概要	-080
4.1.1. 序文	-080
4.1.2. Multicam Configurationウィンドウ概要	-082
4.1.3. Multicam Configurationウィンドウ内の画面操作と編集	-086
4.1.4. NanoリモコンのSetupメニュー概要	-088
4.1.5. NanoリモコンのSetupメニューの参照と編集	-089
4.1.6. アプリケーションのリポートが必要な時	-090
4.2. Serverタブ	-091
4.2.1. 概要	-091
4.2.2. ビデオコーデックとリファレンス	-092
4.2.3. Phase Definition (位相調整)設定	-103
4.2.4. Interpolation(補間)設定	-105
4.2.5. PC LAN設定	-106
4.3. Channelsタブ	-107
4.3.1. 概要	-107
4.3.2. Channels	-109
4.3.3. オーディオ	-123
4.3.4. タイムコードとデータ挿入	-144
4.4. Networkタブ	-153
4.4.1. 概要	-153
4.4.2. Net Name	-154
4.4.3. Gigabit Connection	-155
4.4.4. Gigabit IP Configuration	-156
4.5. Monitoringタブ	-157
4.5.1. 概要	-157
4.5.2. Multiviewer設定	-158



4.5.3. OSD設定	-163
4.5.4. Monitoring設定	-164
4.6. Protocolタブ	-166
4.6.1. 概要	-166
4.6.2. クリップ識別子	-167
4.6.3. Sony BVW設定	-168
4.6.4. Tally機能	-169
4.6.5. Tally/UMD設定	-170
4.6.6. RS422 VarID設定	-172
4.7. GPIタブ	-175
4.7.1. 概要	-175
4.7.2. GPI Settings	-176
4.7.3. Tally Playlist設定	-180
4.8. Operationタブ	-182
4.8.1. 概要	-182
4.8.2. OSD設定	-185
4.8.3. Audio meters OSD設定	-187
4.8.4. Clips設定	-188
4.8.5. Playlist設定	-192
4.8.6. Protection設定	-195
4.8.7. Push設定	-196
4.8.8. Audio設定	-198
4.8.9. EVS controller設定	-200
4.8.10. Special effects設定	-205
<b>5. モニタリング</b>	<b>-208</b>
5.1. サーバーモニタリング	-208
5.1.1. SERVER MONITORINGウインドウの概要	-208
5.1.2. General Informationウインドウ	-209
5.1.3. Raid and Disk Statusウインドウ	-211
5.1.4. Timecode Statusウインドウ	-213
5.1.5. Timecode Monitoringウインドウ	-216
5.1.6. Log Management	-217
5.2. プロトコルズ	-219
5.2.1. 概要	-219
5.2.2. Sony BVW75	-220
5.2.3. XTENDD35	-223
5.2.4. Odetics	-224
5.2.5. VDCP	-225







# 新着情報

このマニュアル内では、バージョン15.00の新機能と更新機能に、**NEW !**マークを付けています。



# 1. 序文

## 1.1. EVSサーバー設定の序文

### コンフィグモジュール

Multicam Setupアプリケーションは、EVSサーバー上の設定とメンテナンス操作に使用します。

また、どのアプリケーションを起動するかを選択にも使用します。

EVSサーバーは、各種専用アプリケーションで動作します(ビデオサーバー、スローモーション、...)。

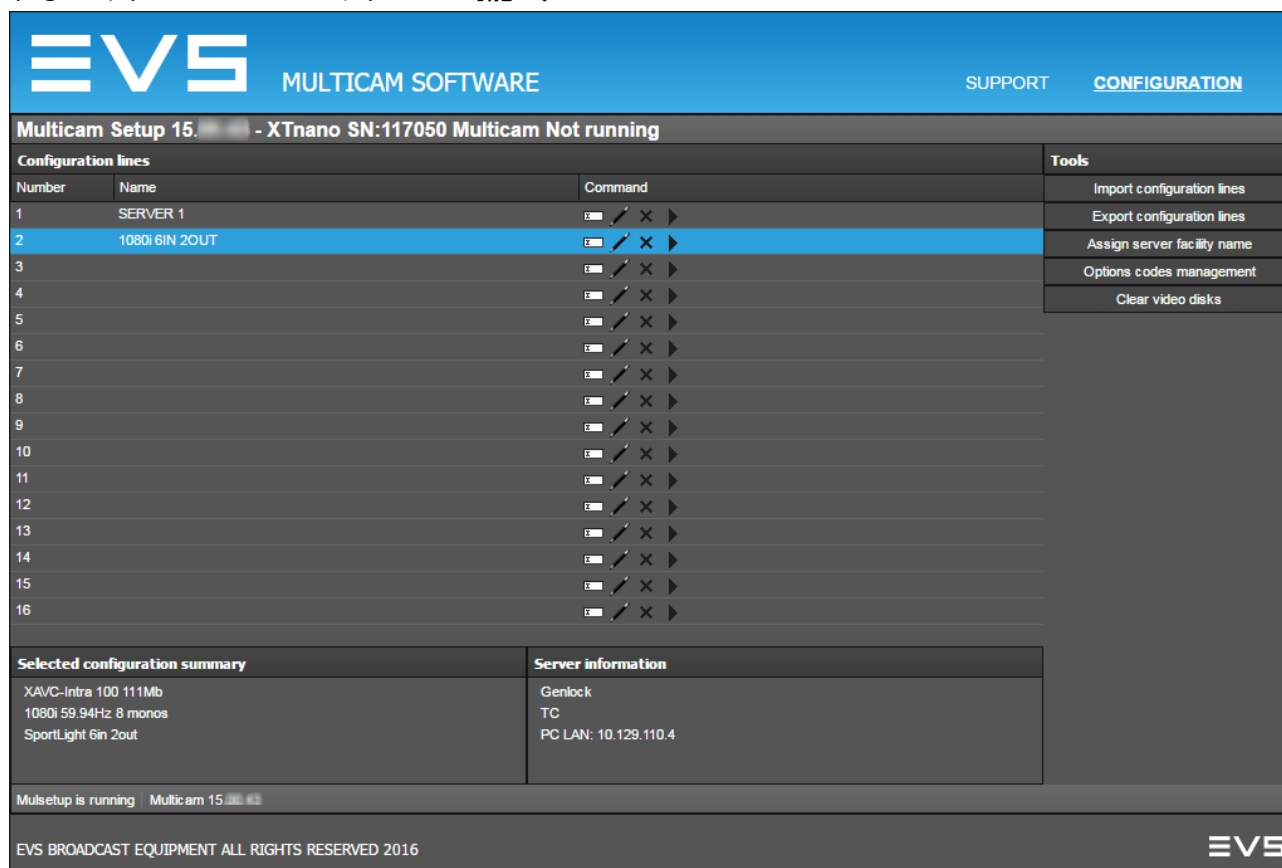
コンフィグモジュールは、このセクション内で説明されるラインに沿って、開発されています。

### 1つのユーザーインターフェースへの統一

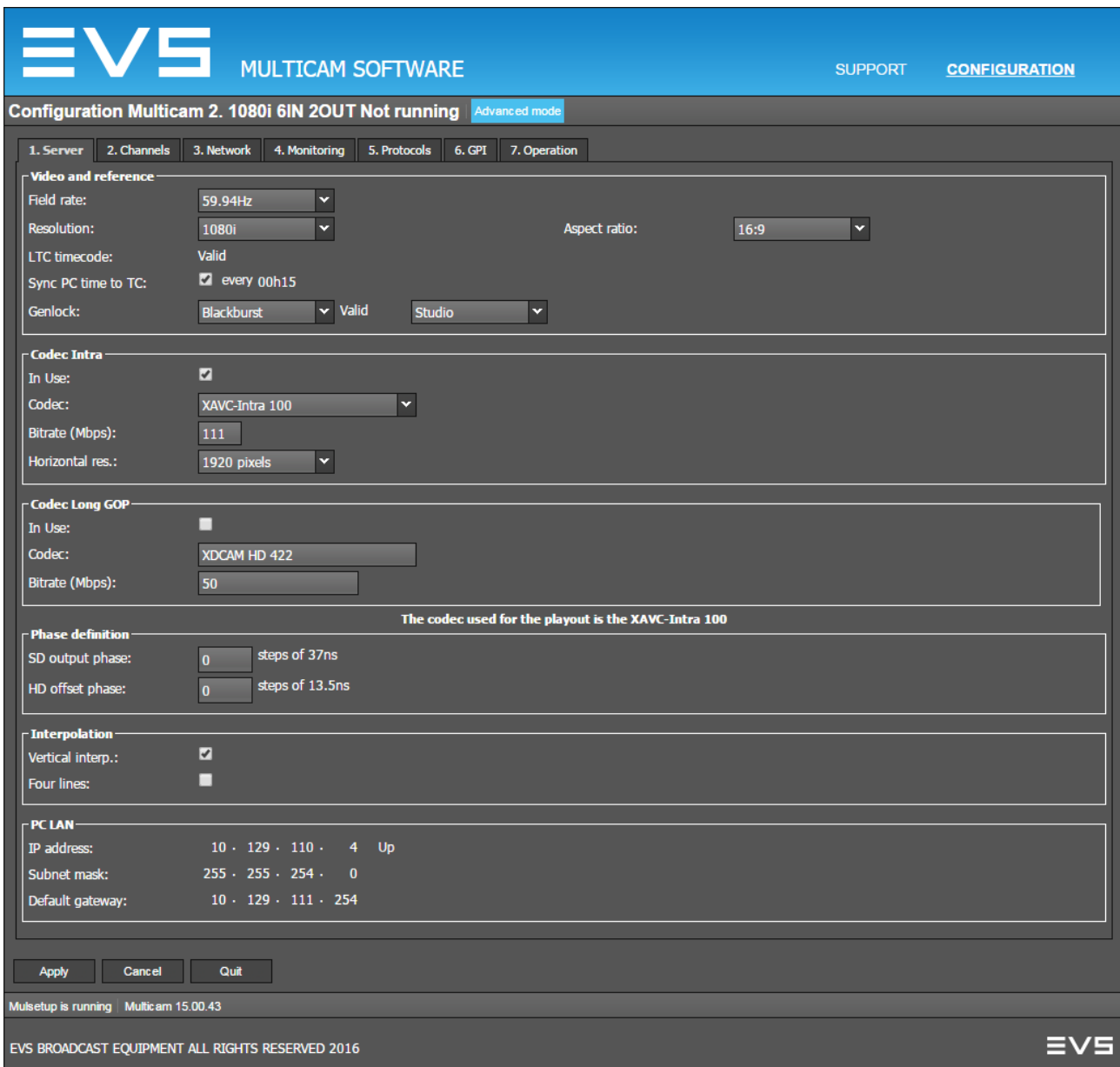
サーバーは、1つのユーザーインターフェースから、全て設定できます。

ユーザーインターフェースは、以下を含んでいます：

- 1つのページ上にあるセットアップセクションは、2つのメインエリアを持ち、ここでコンフィグラインと、よく使われるメンテナンスコマンドへのアクセスが可能です：



- 各コンフィグライン用のConfigurationセクションです。  
全ての設定パラメータに簡単にアクセスできる、7つのタブで構成されています：



## シンプルなユーザーインターフェース

ユーザーインターフェースは、以下のため、シンプルでクリアです：

- Basicとadvanced/パラメータに区分け  
一般的に使用するほとんどのパラメータはbasicモードで表示され、より詳細なパラメータは隠れており、advancedモードに切り替えると表示されます。
- 表示パラメータのフィルタリング  
パラメータは、サーバーの筐体の種類/ビデオ規格/オプションコードに適応しているときのみ、表示されます。

## サーバー動作中にパラメータ変更可能

ほとんどのパラメータ変更は、サーバー動作中に、実行でき、反映されます。



## 簡単なオーディオ設定

オーディオ設定は、以下が可能のため、オープンで簡単に設定できます：

- サーバー動作中に、オーディオパラメータの変更が可能。
- エンベデッド/デジタル/アナログオーディオ出力それぞれに個別の設定が可能。
- Nanoリモコンから、直接、オーディオモニタリング設定が可能。

## サーバー/Web/NANOリモコンから設定可能

EVSサーバーは、以下の3つのツールのいずれかを使って設定可能です：

- サーバーベースアプリケーション(VGA)は、セットアップとコンフィグ用の全ての設定とコマンドを備えています。
- 新しく設計されたWebベースインターフェースは、サーバーベースアプリケーションと同等で、エンジニアがリモートからEVSサーバーを設定できます。
- Nanoリモコンは、以下を持っています：
  - ほとんどの一般的に使用するテクニカル設定にアクセスできるTechnical Setupメニュー
  - オペレーション設定のみを提供するOperational Setupメニュー

以下のテーブルは、各ユーザーインターフェース内で使用可能な機能の概要です：

	EVSサーバ設定		
	Setupウィンドウ	Configurationウィンドウ	
		Technical設定	Operational設定
サーバーベースアプリケーション	Yes	Yes (タブ1～6)	Yes (タブ7)
Webベースインターフェース	Yes (一部のツールコマンドを除く)	Yes (タブ1～6)	Yes (タブ7)
Nanoリモコン	No	Yes (Technical Setup F0)	Yes (Setupメニュー SHIFT+D)

## 1.2. マニュアル序文

### ドキュメント化されたユーザーインターフェース

このマニュアルは、Multicamの設定に使用する全てのユーザーインターフェースを扱っています：  
サーバーベースアプリケーション、Webベースインターフェース、Nanoリモコン。

- 一方では、操作と編集コマンドの情報、ユーザーインターフェースに固有は、別々のセクションで明確に説明しています。
  - 他方では、設定パラメータの参照情報と説明は、全てのユーザーインターフェースに有効な共通セクション内で説明しています。
- 概要では、各ユーザーインターフェース内で、パラメーターが使用可能か？どこにあるか？を示しています。



#### 注意

WEBベースインターフェースは、少し変更されています。  
このマニュアル内では、スクリーンショットは、まだ、更新されていません。

### マニュアル構成

このマニュアルは、2つのセクションで構成されています：

- Multicam Setupウィンドウ専用のセクション、主な機能は：
  - コンフィグラインとその管理方法
  - サーバー管理とメンテナンスに関連する機能
- Multicam Configurationウィンドウ(7つのタブで構成される)専用のセクション、ここで、各コンフィグライン用に設定できる全てのサーバー設定パラメータについて説明しています。  
以下を含んでいます：
  - パラメータの説明
  - 設定に必要なサーバに関連する情報



## 1.3. EVSサーバーの起動

### 序文

EVSサーバーの電源を入れた後、最初のステップはPCブートシーケンスで、ビデオI/Oボードのブートが続き、最後にMulticam Setupアプリケーションが起動します。

### はじめてEVSサーバーを起動する時

EVSサーバーをはじめて使用する前に、以下のタスクを実行しなければなりません：

- EVSサーバーが動作するコンフィグラインを決めます。
- 必要な各コンフィグラインのパラメータを設定します。

このステップでは、とりわけ、選択コンフィグラインのチャンネル構成、オーディオとビデオパラメータを設定します。

### 初期設定後のEVSサーバーの収録開始

初期設定後、コンフィグラインを選択し、ENTERを押し、サーバーを選択コンフィグで起動します。

EVSサーバーは指定コンフィグで起動すると同時に、Loop Recordingプロセスを開始します。



## 1.4. Webベースインターフェースへのアクセス

### 前提

EVSサーバーが起動すると、EVSサーバーと同じネットワーク範囲上のどのコンピュータからでも、Multicam Setup アプリケーションのWebベースインターフェースにアクセスできます。

どのブラウザからでも、Webベースインターフェースを開くことができます。

### 手順

ブラウザ内にWebベースインターフェースを開くには、EVSサーバーのPC LANのIPアドレスを知る必要があります。

ブラウザ内で、以下の URLを入力して下さい:

`http://xxx.xxx.xxx.xxx/cfgWeb/`

xxxは、アクセスしたいEVSサーバーのPC LANのIPアドレスです。



## 2. Multicam Setup

### 2.1. ユーザーインターフェース概要

#### 2.1.1. Setupエリア概要

##### 概要

Multicam Setupウィンドウは、Multicam Setupアプリケーションが起動したら、最初に関くウィンドウです。

これは、EVSサーバーが起動したら表示されますが、まだ、指定コンフィグで収録開始していません。

Multicam Setupウィンドウでは、以下が可能です：

- 各コンフィグラインの参照と管理。
- EVSサーバーの管理とメンテナンスタスクの実行。
- EVSサーバーと選択コンフィグラインの概要情報の参照。

これは、サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのMulticam Setupアプリケーションの両方にあります。

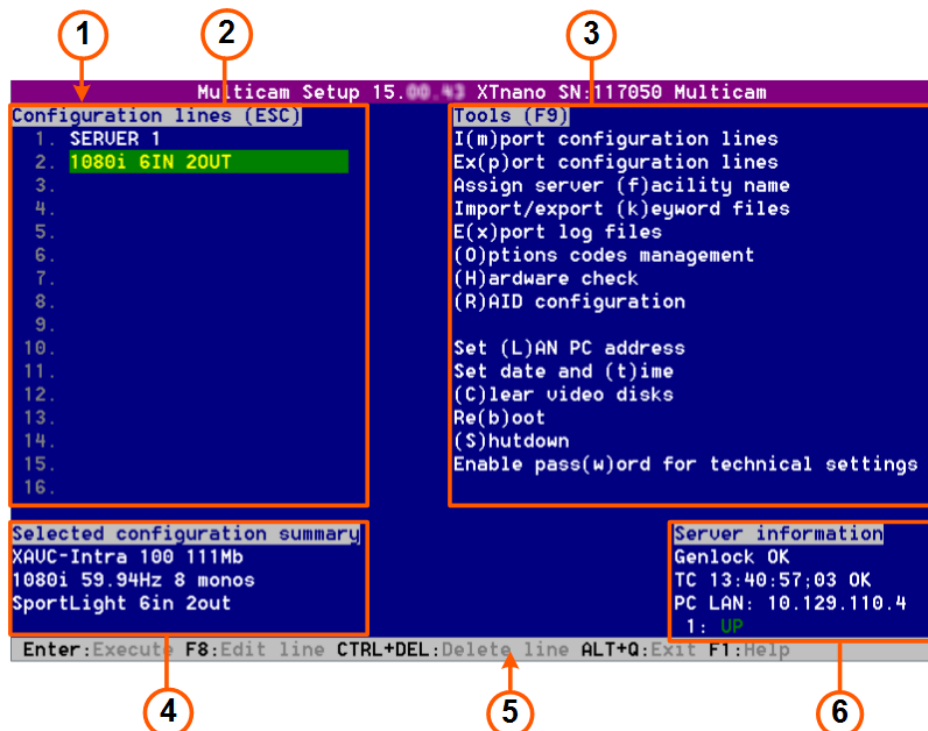
WebベースインターフェースではToolsメニューが少ないコマンドを提供している以外は、両方のユーザーインターフェースは、同じ機能を持っています。

##### ユーザーインターフェース

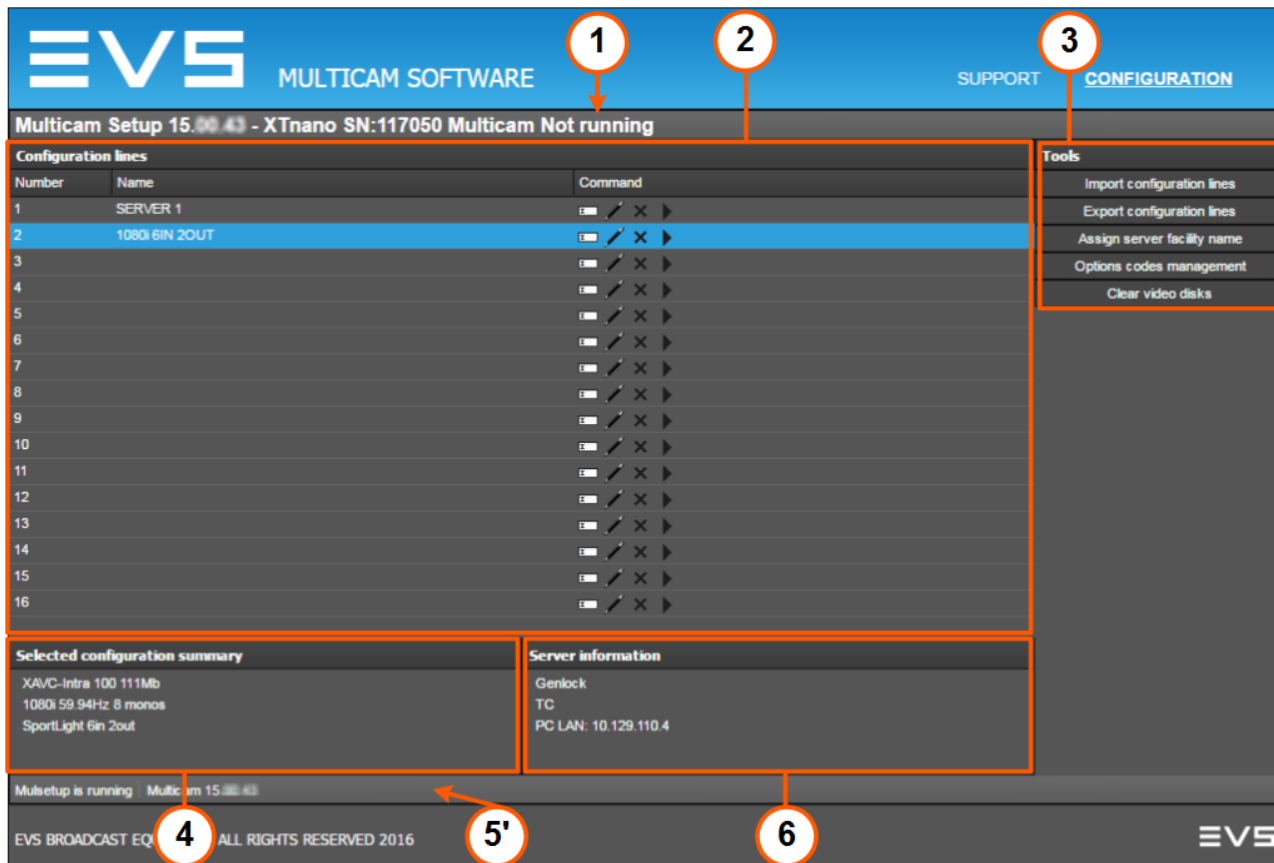
Multicam Setupウィンドウには、以下のハイライトされた6つのエリアがあります。

これらのエリアは、Webベースインターフェースとサーバーベースアプリケーション両方内に、同じ情報を持っています。

以下のスクリーンショットは、サーバーベースアプリケーションのMulticam Setupウィンドウです：



以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のMulticam Setupウィンドウです：



**1** MULTICAM SOFTWARE

**2** [CONFIGURATION](#)

Multicam Setup 15.00.43 - XTnano SN:117050 Multicam Not running

Number	Name	Command
1	SERVER 1	
2	1080i 6in 2OUT	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

**Tools**

- Import configuration lines
- Export configuration lines
- Assign server facility name
- Options codes management
- Clear video disks

**Selected configuration summary**

XAVC-Intra 100 111Mb  
1080i 59.94Hz 8 monos  
SportLight 6in 2out

**Server information**

Genlock  
TC  
PC LAN: 10.129.110.4

Multicam is running Multicam 15.00.43

**4** EVS BROADCAST EQUIPMENT **5'** ALL RIGHTS RESERVED 2016 **6** EVS

## エリア説明

以下のテーブルでは、Multicam Setupウィンドウの各部分を説明しています：

#	エリア名	説明
1.	タイトルバー	タイトルバーでは、以下の情報を表示しています： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Multicamバージョン</li> <li>● サーバー所有者名 (もし、登録していれば)</li> <li>● 筐体タイプ</li> <li>● サーバーシリアル番号</li> </ul>
2.	Configuration lines (コンフィグライン)	EVSサーバーが起動可能な全てのコンフィグを表示します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1台のEVSサーバーで、16コンフィグラインが使用可能です。 コンフィグラインに名前が付いていなくても、デフォルトのコンフィグが設定されています。</li> <li>● 各コンフィグラインは、全ての設定パラメータを含んでおり、EVSサーバーのコンフィグを柔軟に設定することができます。</li> </ul>
3.	Tools (ツール)	このエリアは、サーバー管理とメンテナンス用の主なコマンドを提供します。
4.	Configuration Summary (コンフィグサマリ)	このエリアは、Configuration Linesエリアで選択したコンフィグラインのサーバーパラメータのサマリを表示します。 サマリは、以下の情報を表示します： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コーデックタイプ – ビットレート – ビデオ規格 (各コーデック分)</li> <li>2. ベースコンフィグ – IN/OUT数 – オーディオ数</li> <li>3. サーバー名 – サーバータイプ</li> </ol>
5.	タスクバー	タスクバー(サーバーベースアプリケーション)は、ウィンドウ内の主な動作のコマンドを表示します。
5.	ステータスバー	ステータスバー(Webベースインターフェース)は、以下を表示します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Multicam Setupアプリケーションステータス</li> <li>● 最後に更新した日付と時間</li> <li>● Refresh(更新)ボタン</li> </ul>
6.	Server information (サーバー情報)	このエリアは、EVSサーバーの以下の情報を表示します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● genlockステータス (OKまたはbad)</li> <li>● タイムコードとタイムコードステータス (OKまたはbad)</li> <li>● PC LANのIPアドレス (DHCPがオフ) または DHCP (DHCPがオン)</li> <li>● PC LAN接続のステータス (UpまたはDown)</li> </ul>

**NEW !**



## 2.1.2. ナビゲーションとコマンド

### サーバーベースアプリケーション内

#### 一般ナビゲーション

以下のテーブルでは、Multicam Setupウィンドウ内をナビゲートする一般的なコマンドを示します：

コマンド説明	コマンドキー
カーソルを、Toolsメニューの最初のアイテムに移動	F9
カーソルを、最初のコンフィグラインに移動	ESC
編集可能アイテムリストの中を下に移動 (コンフィグラインとToolsコマンド)	TAB
編集可能アイテムリストの中を上移動	SHIFT+TAB
コマンドの要約を提供するHelpウィンドウを表示	F1

#### コンフィグライン

Configuration Lineエリア内で、コンフィグラインを選択すると、ハイライトされます。

コンフィグライン管理用の主要なコマンドは、以下です：

コマンド説明	コマンドキー
コンフィグラインリスト内を上移動	上矢印(↑)
コンフィグラインリスト内を下移動	下矢印(↓)
選択したコンフィグラインでサーバーを起動	コンフィグラインを選択+ENTER
選択したコンフィグラインの設定を編集するために、 Configurationウィンドウに入る	F8
コンフィグラインの名前変更	CTRL + F1
コンフィグラインの削除	CTRL + DELETE

#### Toolsメニュー


コマンド説明	コマンドキー
ツールコマンドを選択	ショートカットキーを押す (コマンド名内の角括弧[ ]内)
ツールコマンドの呼出し	コマンドを選択+ENTER







## Webベースインターフェース内



### 注意

Webベースインターフェース内で変更を確認するには、ステータスバー内のRefreshボタン  をクリックして、定期的にページを更新して下さい。

## コンフィグライン

コマンド説明	コマンドアイコン
コンフィグラインの名前変更	
コンフィグラインに関連した設定を編集するために、Configurationウィンドウに入る	
コンフィグラインの削除	
対応するコンフィグラインでサーバーを起動	

## Toolsメニュー

Toolsコマンドを呼び出すには、Toolsメニュー内のコマンドをクリックするのみです。  
これにより、対応するウィンドウが開きます。



## 2.2. コンフィグライン

### 2.2.1. 各章の内容

以下のテーブルで、このセクションのトピックを示し、記載されている機能がWebベースインターフェース/サーバーベースアプリケーションから可能かを示します。

内容	章	サーバーベース アプリケーション	Webベース インターフェース
コンフィグの起動	2.2.2	Yes	Yes
コンフィグラインの編集	2.2.3	Yes	Yes
コンフィグラインの名前変更	2.2.4	Yes	Yes
コンフィグラインのインポートとエクスポート	2.2.5	Yes	Yes (1つずつ)
コンフィグラインの位置の変更	2.2.6	Yes	Yes (間接的に)
コンフィグラインのコピー/ペースト/削除	2.2.7	Yes	Yes (間接的に)

## 2.2.2. コンフィグの起動

### 序文

EVSサーバーが初期化されたら、デフォルトでMulticam Setupウィンドウが開き、オペレータが目的のコンフィグラインを選択し起動するまで、そのままです。


### コンフィグラインを手動で起動する方法

#### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインを起動するには、以下を行います：

1. コンフィグラインのリスト内で上矢印(↑)/下矢印(↓)キーを押し、起動したいコンフィグラインがハイライトされるまで移動します。
2. ENTERキーを押します。

#### Webベースインターフェース内

Webベースインターフェース内でコンフィグラインを起動する場合には、コンフィグライン横のLaunchアイコン  をクリックします。

### 自動起動

自動起動を設定すると、Multicam Setupウィンドウが5秒間開いたままであれば、設定したコンフィグラインが自動的に起動します。

自動起動を設定するには、Multicam Setupメニュー内の目的のコンフィグライン上で、F7を押します。

すると、このコンフィグラインは黒色でハイライトされ(緑色ではなくなる)、自動起動が設定されたことが分かります。

これで、次回EVSサーバー起動時に、目的のコンフィグラインが自動的に起動します。

起動するコンフィグラインを変更したい時には、Multicam Setupウィンドウ表示の5秒以内に、キーボード上の↑または↓を押し、自動起動のコンフィグラインからカーソルを移動させます。

すると、Multicam Setupウィンドウが開いたままの状態になり、別のコンフィグラインを選択できます。

## 2.2.3. コンフィグラインの編集

### コンフィグラインの編集方法

#### 序文

オペレータは、編集したいコンフィグラインを選択し、編集が可能です。

1台のEVSサーバーに、16コンフィグラインが設定可能です。

コンフィグラインに名前が付いていなくても、全てのコンフィグラインにデフォルトコンフィグが設定されています。

各コンフィグラインは、全ての設定パラメータを持ち、EVSサーバーの設定を柔軟に行なうことができます。


#### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインを編集するには、以下を行います：

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓)キーを押し、コンフィグラインのリスト上で編集したいラインをハイライトします。
2. F8を押します。  
Configurationウィンドウが、開きます。
3. 設定変更後、ALT+A を押すと、変更内容が反映されます。
4. ESCボタンを押し、Setup ウィンドウに戻ります。

#### Webベースインターフェース内


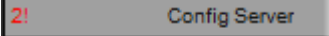
Webベースインターフェース内で、コンフィグラインを編集するには、以下を行います。

1. 編集したいコンフィグラインのEditアイコン  をクリックします。  
Configurationウィンドウが、開きます。
2. 設定変更後、Applyボタンをクリックし、変更を有効にします。  
Quitを押し、Setup ウィンドウに戻ります。

#### 無効なコンフィグ

サーバーベースアプリケーション内では、無効なコンフィグを簡単に検知できます：

- コンフィグラインが無効になった場合、<!>がコンフィグライン脇に表示されます。  
(サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース両方とも)

 または 

- オペレータが、サーバーベースアプリケーションでコンフィグラインを編集するためにF8を押すと、そのラインは無効との表示がポップアップ形式で表示されます。

オペレータがこのメッセージを確認すると、無効なパラメータを含むページが、無効なパラメータが選択された形で表示されます。





## 2.2.4. コンフィグラインの名前変更

### 序文

EVSサーバーの出荷時に、コンフィグラインにはデフォルトの名前が割り当てられています。  
以下の通り、変更が可能です。


### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内では、以下を行います：

1. 上矢印(↑)もしくは下矢印(↓)を押し、名前変更したいコンフィグラインを選択します。
  2. CTRL+F1を押します。  
コンフィグラインがピンク色に表示され、カーソルが最初の文字で点滅します。
  3. 以下を考慮して、コンフィグラインに新しい名前を入力します：
    - スペースバーでは、選択した文字を消去できます。
    - 左矢印(←)と右矢印(→)キーでは、ライン上でカーソルを移動させます。
  4. ENTERを押し、新しい名前を有効にします。
- 新しい名前がコンフィグラインに割り当てられ、全ユーザーインターフェースに反映されます。

### Webベースインターフェース内

Webベースインターフェース内では、以下を行います：

1. 名前変更したいコンフィグライン横の **Rename** ボタン  をクリックします。
  2. **Rename** ダイアログボックス内で、新しいコンフィグ名を入力します。
  3. **OK** をクリックします。
- 新しい名前がコンフィグラインに割り当てられ、全ユーザーインターフェースに反映されます。

## 2.2.5. コンフィグラインのインポートとエクスポート

### コンフィグラインのエクスポート方法



#### 注意

このセクションのスクリーンショットは、コンフィグ名の一例で、お持ちのEVSサーバーには該当しない場合があります。

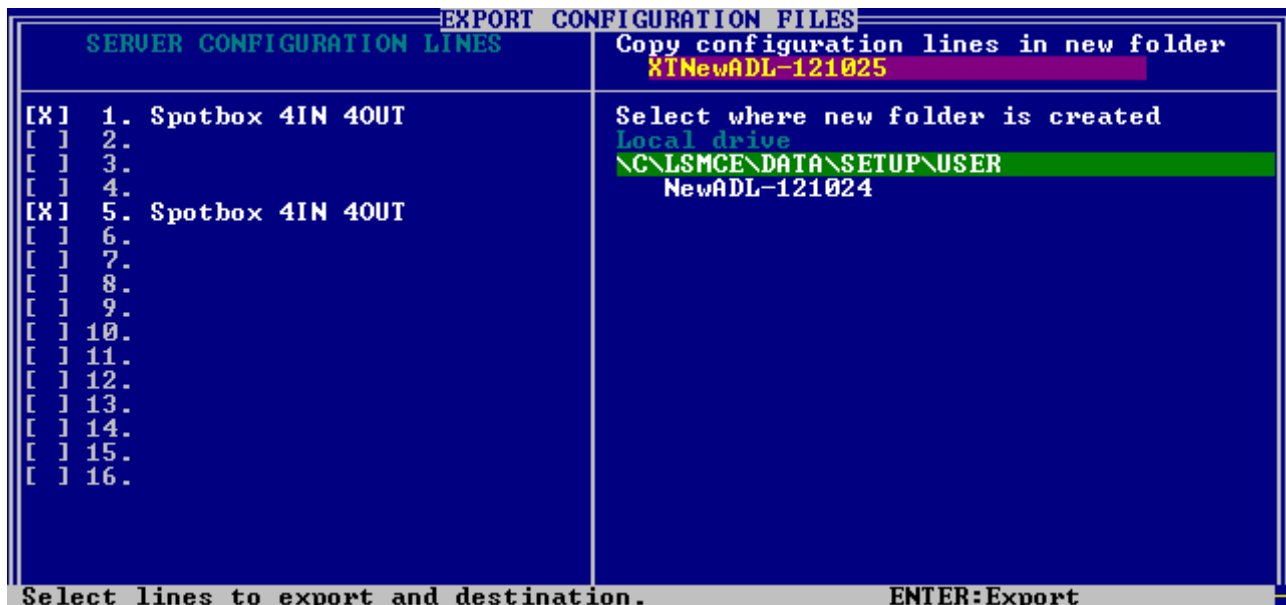
### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーション内で、コンフィグラインをエクスポートする場合には、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウで、Pを押し、**Export Configuration Lines** コマンドを実行します。

Export Configuration Linesウィンドウが開きます：

- 左枠の表示では、エクスポートするコンフィグラインを選択します。
- 右枠の表示では、エクスポートフォルダを作成する、USBキーまたはローカルドライブを選択します。  
C: /LSMCE/DATA/SETUP/USER、またはサブフォルダ。



2. 必要に応じて、コンフィグラインがエクスポートされるフォルダ名の変更を行ないます：

- デフォルトでは、フォルダ名(右上端に表示)は、以下のパターンに従います：

<server facility name\_current date>

日付は、YYMMDD形式です。

- エクスポートするフォルダ名を変更するには、名前を入力します。

この手順は、どの時点でも行なうことが可能です。

3. 必要に応じて、左枠のエクスポートするコンフィグラインの選択を変更します：

- デフォルトでは、×印が全てのコンフィグラインの前に表示されており、全て選択されていることを意味しています。
- 選択を外すには、上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで目的のラインをハイライトさせ、SPACEバーを押します。  
×印が外れ、選択が外れたラインは、薄いグレーで表示されます。

4. TABを押し、右枠にカーソルを移動します。



5. 必要に応じ、exportフォルダが作成される場所を変更します：
  - デフォルトでは、エクスポートフォルダは、USBキーのルート、またはローカルドライブフォルダに作成されます。  
ローカルドライブフォルダ： C: /LSMCE/DATA/SETUP/USER
  - エクスポートフォルダが作成されるフォルダを変更するには、目的のフォルダをハイライトさせます。  
最後にハイライトされたフォルダが、選択フォルダとして設定されます。
6. エクスポートのプロセスを開始するには、**ENTER**を押します。
7. 選択ラインがエクスポートされると(.linファイルとして)、エクスポートを確認するメッセージが表示されます。  
OKボタンをクリックし、メッセージを確認します。

## Webベースインターフェース内



### 注意

Webベースインターフェース内では、コンフィグラインを1つずつ順番にエクスポートする事のみ可能です。

Webベースインターフェース内で、コンフィグラインをエクスポートするには、以下を行います：

1. Multicam Setupウインドウより、Toolsメニューの**Export configuration lines**をクリックします。  
Export configuration linesウインドウが開きます：

Number	Name	Command
1	SPOTBOX IPDP 2REC 4 PLAY	<a href="#">Export</a>
2	LSM 1REC 1PLAY	<a href="#">Export</a>
3	LSM 1REC 2PLAY	<a href="#">Export</a>
4	LSM 2REC 2PLAY	<a href="#">Export</a>
5	LSM 2REC 4PLAY	<a href="#">Export</a>
6	LSM 3REC 1PLAY	<a href="#">Export</a>
7	LSM 3REC 2PLAY	<a href="#">Export</a>
8	LSM 3REC 3PLAY	<a href="#">Export</a>
9	LSM 4REC 2PLAY	<a href="#">Export</a>
10		<a href="#">Export</a>
11	SLSM 1PLAY	<a href="#">Export</a>
12	SLSM 2PLAY	<a href="#">Export</a>
13	SLSM+1REC 2PLAY	<a href="#">Export</a>
14	SLSM+2REC 1PLAY	<a href="#">Export</a>
15		<a href="#">Export</a>
16	SPOTBOX	<a href="#">Export</a>

2. エクスポートしたいコンフィグライン横の、**Export**をクリックします。
3. File Downloadダイアログボックス内で、**Save**をクリックします。
4. エクスポートファイル(.linファイル)を保存する場所を選択し、必要に応じ、ファイル名を変更します。
5. **Save**をクリックします。

エクスポートファイルが、指定した場所に保存されます。

複数のコンフィグラインをエクスポートしたい場合、この操作を、エクスポートしたいコンフィグライン全てに行います。

## コンフィグラインのインポート方法

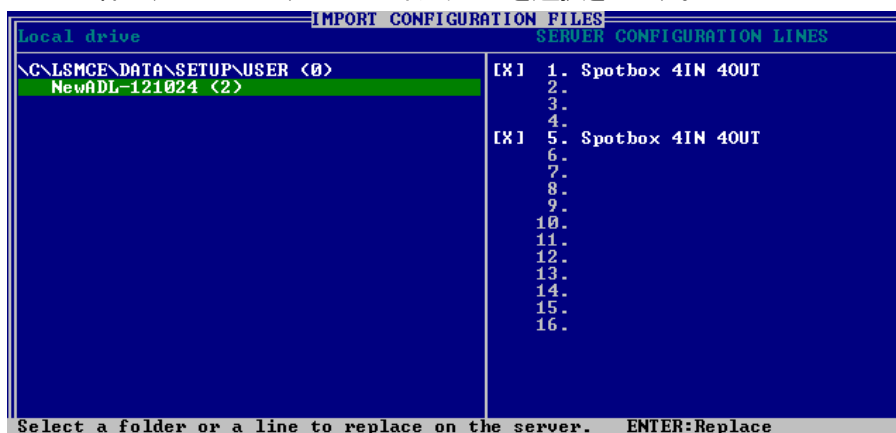
### サーバーベースアプリケーション内



#### 警告

EVsサーバーがパスワードプロテクトされている場合、パスワードを解除して下さい。  
解除しない場合、オペレーションコンフィグのみインポートされます。

1. Multicam Setupウィンドウで、**M** を押し、Import Configuration Linesコマンドを呼び出します。
2. Import Configuration Filesウィンドウが開きます：
  - 左枠で、インポートするコンフィグファイルが含まれるフォルダを選択します。
  - 右枠で、インポートするコンフィグラインを選択をします。



3. 左枠で、**上矢印(↑)**または**下矢印(↓)**キーで、インポートするコンフィグファイルを含むフォルダをハイライトさせます。  
フォルダを選択すると、右枠には、以下が表示されます：
  - インポートされるラインの前に、×印が表示されます。  
ラインはエクスポートファイル内と同様に、同じ場所に、同じファイル名でインポートされます。
4. **TAB**を押し、右枠にフォーカスを移動させます。
5. 必要に応じ、インポートが不要なラインの選択を外します：
  - デフォルトでは、.linファイル内にある全てのコンフィグラインは、EVsサーバーにインポートされます。
  - コンフィグラインを選択から外すには、**上矢印(↑)**または**下矢印(↓)** キーを押し不必要なラインをハイライトさせ、**SPACE/バー**を押します。  
選択を外したコンフィグラインは、薄いグレーで表示され、×印が外れます。
6. **ENTER**を押し、インポートするコンフィグラインの選択を確定します。  
警告メッセージで、どのコンフィグラインがインポートされるか通知され、次の画面では、どの設定を置きかえるか選択できます。
7. 'Yes'を**右矢印(→)**で選択し、**ENTER**を押します。
8. Select settings to replsceウィンドウ内で、インポートしたい設定タイプを選択します：
  - a. **SPACEBAR**を押し、設定タイプを選択もしくは選択から外します。
  - b. **TAB**を押し、次の設定タイプに移動します。
  - c. インポートしたい全ての設定タイプに対し、上記を繰り返します。
9. **ENTER**を押し、インポートプロセスを開始します。



## Webベースインターフェース内



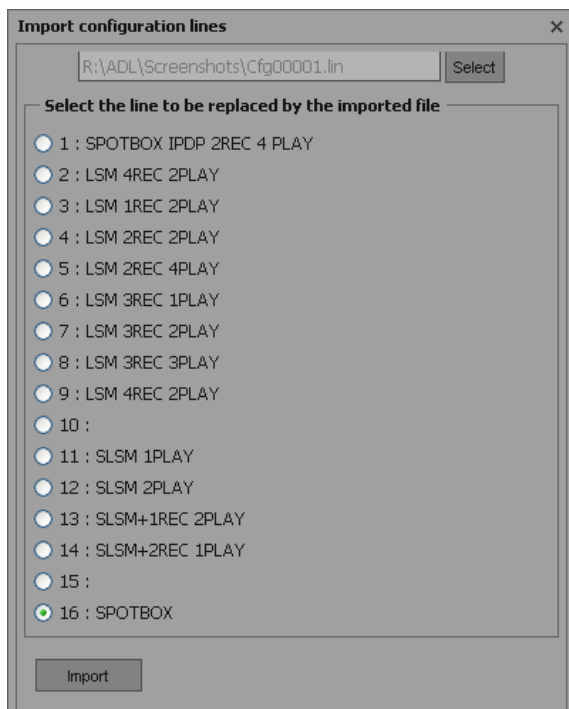
### 注意

Webベースインターフェース内では、コンフィグラインを1つずつ順番にインポートする事のみ可能です。

Webベースインターフェースで、コンフィグラインをインポートするには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウより、Toolsメニュー内のImport configuration linesをクリックします。

Import configuration lineウィンドウが開きます。



2. 上フィールド横のSelectをクリックし、インポートしたいコンフィグファイルを選択します。
3. 置き換えたいコンフィグラインを選択します。
4. Importをクリックします。

コンフィグラインは、選択したコンフィグライン上に、元の名前でインポートされます。



## 2.2.6. コンフィグラインの位置の変更

### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグラインを、リスト内で上下に移動するには、以下を行います：

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓) キーを押し上下に移動し、必要なコンフィグがハイライト表示されるようにします。
2. 以下のいずれかを行います：
  - 選択ラインを上移動するには、CTRL + 上矢印(↑)をクリックします。
  - 選択ラインを下移動するには、CTRL + 下矢印(↓)をクリックします。

### Webベースインターフェース内

この機能は、Webベースインターフェースにはありません。

しかし、インポート/エクスポート機能を使い、ラインの位置を変更できます。

## 2.2.7. コンフィグラインのコピー/ペースト/削除

### コンフィグラインをコピー/ペーストする方法

#### サーバーベースアプリケーション内



##### 警告

別の箇所ラインをコピーすると、選択した箇所のコンフィグは消去されます。

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグをコピー/ペーストするには、以下を行います：

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで移動し、必要なコンフィグがハイライト表示されるようにします。
2. CTRL+C を押し、ラインをクリップボードにコピーします。
3. 上矢印(↑)と下矢印(↓)キーで移動し、ラインをペーストしたい位置へ移動します。
4. CTRL + Vを押し、コンフィグラインを選択した位置にペーストします。
5. ENTER を押し、前のコンフィグラインを、新しいコンフィグラインに置き換えることを確定します。

#### Webベースインターフェース内

この機能は、Webベースインターフェースにはありません。

しかし、インポート/エクスポート機能を使い、ラインの位置を変更できます。

### コンフィグラインの削除方法



##### 警告


コンフィグラインの削除時には、ラインは事前警告なしに削除されます。

#### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、コンフィグラインを削除するには、以下を行います：

1. 上矢印(↑)または下矢印(↓)キーで上下に移動し、必要なコンフィグを選択しハイライト表示します。
  2. CTRL+DELを押し、ラインを削除します。
- コンフィグラインが、直接消去されます。

#### Webベースインターフェース内

Webベースインターフェースでコンフィグラインを削除するには、削除したいコンフィグライン横のDeleteアイコン  をクリックします。

コンフィグラインは、直接削除されます。



## 2.3. サーバーパラメータ

### 2.3.1. 章の内容

以下のテーブルで、この章のトピックを示し、各機能がWebベースインターフェースとサーバーベースアプリケーションそれぞれで対応可能か示します。

内容	章	サーバーベース アプリケーション	Webベース インターフェース
サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て	2.3.2	Yes	Yes
パスワード保護を有効/無効にする	2.3.3	Yes	No
サーバーLAN PCアドレスの設定	2.3.4	Yes	No
サーバー日付と時間の設定	2.3.5	Yes	No
Default Output to VGA/Videoの設定	2.3.6	Yes	No
サーバーRaidの設定	2.3.7	Yes	No



## 2.3.2. サーバーのFacility Name (固有名)の割り当て

### 序文

EVSサーバーに、固有名を割り当てできます。

これにより、EVSサーバーを、シリアルの他に、固有名で識別できます。

この名前は、いかなるコンフィグとも無関係です。

サーバー固有名は、サーバーネット名とは異なります。

(サーバーネット名は、コンフィグパラメータ内で設定されコンフィグ毎に変える事が可能なため)

サーバー固有名は、Multicam Setupウィンドウのタイトルバー/コンフィグウィンドウ/OSD (on-screen display)に表示されます。

**NEW !**



### 注意

固有名を変更したら、ネットワークサービスの再起動が必要です。  
数秒待てば、EVSサーバーに再接続できます。

**NEW !**

### 名前付けルール

サーバー固有名は、PC LAN設定内のhostnameとしても使用されます。

このため、以下のホスト名形式のルールに従わなければなりません：

- 文字は、A-Z、a-z、-のみです。
- ホスト名は、数字またはハイフンで始めることはできません。
- ホスト名は、ハイフンで終わることはできません。
- ホスト名は、ピリオド(フルストップ)で分割できます。

### サーバーベースアプリケーション内

サーバーベースアプリケーションで、サーバー固有名を割り当てるには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウで、Fを押し、**Assign server facility name**コマンドを呼び出します。

以下のダイアログボックスが開きます：



2. サーバー固有名を入力し、ENTERを押します。

もし、サーバー固有名が、ホスト名の名前付けルールに従っていなければ、警告が表示されます。

サーバー固有名が直接登録され、タイトルバーとOSDに表示されます。



## Webベースインターフェース内

Webベースインターフェースで、サーバー固有名を割り当てるには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウより、Toolsメニューの中の**Assign server facility name**をクリックします。

以下のダイアログボックスが開きます：

Assign server facility name

Facility Name :

OK Cancel

2. サーバー固有名を入力し、OKを押します。

もし、サーバー固有名が、ホスト名の名前付けルールに従っていなければ、警告が表示されます。

サーバー固有名が直接登録され、タイトルバーとOSDに表示されます。

## 2.3.3. パスワード保護を有効/無効にする

### EVSサーバーのパスワードを有効にする

#### 序文

管理者は、EVSサーバーをパスワードで保護できます。

このパスワード保護は、許可されないユーザーがコンフィグを変更できないようにします。

なお、オペレーションコマンドの使用からは、保護しません。

パスワード保護は、サーバーベースアプリケーションから、有効/無効にすることができます。

パスワード保護により、ユーザーインターフェースに、以下のような影響があります：

- サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェースいずれのアプリケーションでも、コンフィグパラメータの変更適用にパスワードが要求されます。
- Nanoリモコン上では、Technical Setupメニューは使用できません。

### EVSサーバーでパスワードを有効にする方法

EVSサーバーで、パスワードを有効にするには、以下を行います：

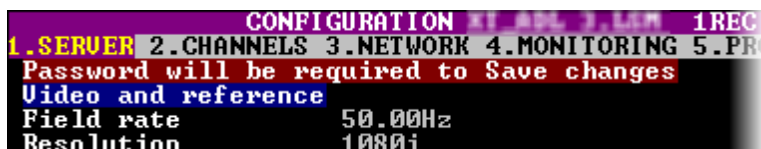
1. Multicam Setupウィンドウで、**W** を押し、Enable passwordコマンドを呼び出します。  
警告メッセージが、表示されます。
2. 警告メッセージを、確認して下さい。  
右矢印→キーを押し'Yes'を選択し、ENTERを押し、パスワード保護を有効にします。

パスワード保護機能は、全てのユーザーインターフェース内、全てのコンフィグライン上の全てのコンフィグパラメータに、直接、有効になります。

### コンフィグパラメータの変更を有効にする


#### サーバーベースアプリケーション内

パスワード保護が有効になると、Multicam Configurationウィンドウ内の各コンフィグタブの上に、以下のメッセージが赤色で表示されます：





コンフィグパラメーターの変更を適用するには、コンフィグパラメータの変更を保存する初回に、パスワードの入力を求められます。

## Webベースインターフェース内

パスワード保護が有効になると、Multicam Configurationウィンドウは完全に薄暗い色に変わり、鍵がかかったアイコン  がウィンドウの上に表示されます：

コンフィグパラメータの変更を適用するには、以下を行います：

1. ロックアイコン  を、クリックします。
2. 表示されたダイアログボックス上で、パスワードを入力します。
3. OKを押します。

ロックされたアイコンが、鍵の開いたアイコン  に変わり、パラメーターの変更が可能となりブラウザから保存できます。

## EVSサーバーのパスワードを無効化する

パスワード保護が一旦有効になると、サーバーベースアプリケーションからのみ、以下の手順で無効化できます：

1. Multicam Setupウィンドウで、**W**を押し、Enable passwordコマンドを呼び出します。

以下の、パスワード保護を解除する警告メッセージが表示されます：



2. 右矢印(→)キーを押し'Yes'を選択し、ENTERを押します。
3. 開いたダイアログボックス内にパスワードを入力して、ENTER を押し確定します：



パスワード保護が、全てのユーザーインターフェースから解除されます。

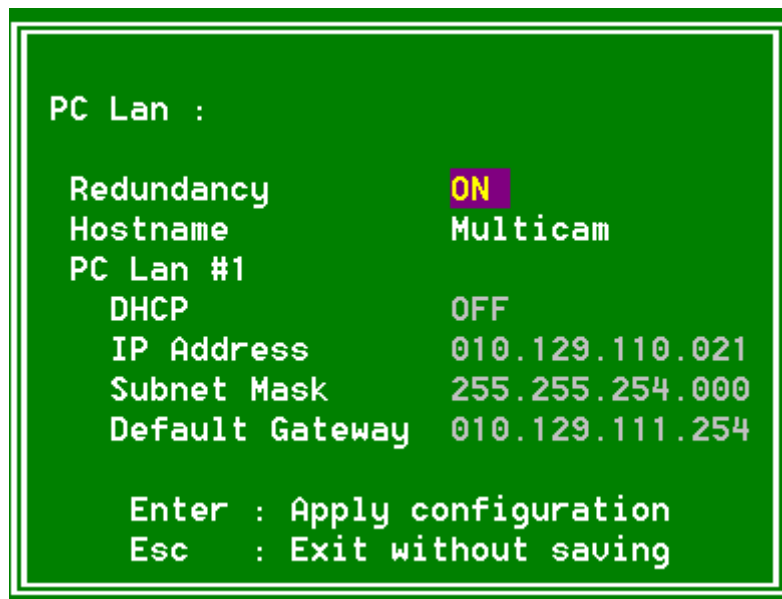
## 2.3.4. サーバーPC LAN接続の設定

### NEW ! 序文

EVSサーバーのH3XPボードの内部スイッチモジュールは、PC LANネットワークの多くの機能を提供します。スイッチのおかげで、サーバーは、PC LAN冗長化を提供でき、今回DHCPをサポートしました。

サーバーベースアプリケーション->Toolsエリア->Set LAN PC addressオプションから、PC LAN接続を設定できます。

以下のウィンドウは、Redundancy = ON、DHCP = OFFでのSet LAN PC addressダイアログボックスです：



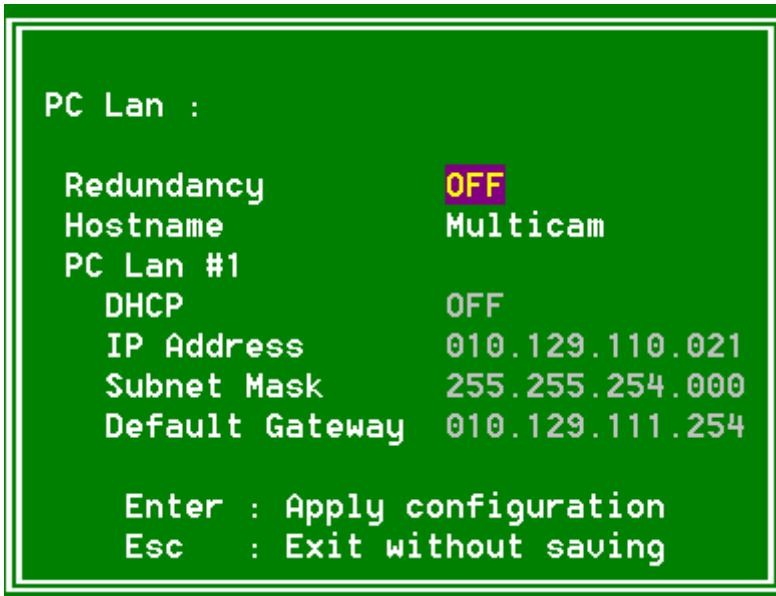
```
PC Lan :

Redundancy      ON
Hostname        Multicam
PC Lan #1
  DHCP          OFF
  IP Address     010.129.110.021
  Subnet Mask    255.255.254.000
  Default Gateway 010.129.111.254

Enter : Apply configuration
Esc   : Exit without saving
```

## NEW ! PC LAN接続の設定方法

1. Multicam Setupウィンドウ内で、Lを押し、Set LAN PC addressコマンドを呼び出します。  
以下のウィンドウが開きます：



```

PC Lan :

Redundancy          OFF
Hostname            Multicam
PC Lan #1
  DHCP              OFF
  IP Address        010.129.110.021
  Subnet Mask       255.255.254.000
  Default Gateway   010.129.111.254

Enter : Apply configuration
Esc   : Exit without saving
  
```

2. このウィンドウ内で、TABをクリックしてRedundancyフィールドを選択し、Space/バーを押し、冗長性をオン/オフします。  
冗長性をONにすると、PC LAN #1がダウンしたら、PC LAN #2が自動的に交代します。
3. TABをクリックしてDHCPフィールドを選択し、Space/バーを押し、DHCPをオン/オフします。  
DHCPをオンにしたら、システム上のDHCPサーバーがPC LAN #1に、自動的にIP Address、Subnet Mask、Default Gatewayを割り当てます。  
ステップ5に移動します。  
もし、DHCPがオフなら、手動で、IP Address、Subnet Mask、Default Gatewayを割り当てる必要があります。  
ステップ4に移動します。
4. TABをクリックして、IP Address、Subnet Mask、Default Gatewayフィールドを選択して、値を入力します。
5. ENTERを押し、PC LAN設定を適用します。

PC LAN設定は、デフォルトで、自動的に、全てのコンフィグラインに適用され、コンフィグラインの設定内では、読み取り専用フィールドになります。

これは、Multicam Setupモジュールからのみ、設定できます。

### 注意

Hostnameは、編集できません。

これは固有名と同じでなければならないため、Assign server facility nameオプション経由で固有名を編集して変更できます(Multicam Setupモジュール内にあります)。

名前は、ホスト名形式に従わなければなりません。

## 2.3.5. サーバー日付と時間の設定

### 序文

Set Date and Timeコマンドでは、サーバーベースアプリケーションのMulticam Setupウィンドウから、システム時間と日付を調整できます。

このコマンドは、Webベースインターフェースにはありません。



### 注意

収録開始後すぐには、システム日付と時間を表示するウィンドウで、パラメーターの変更ができます。

### サポートされているフォーマット

サポートされている日付のフォーマットは、DD-MM-YYYYで、以下は例です：

- 15-03-2011: 2011年3月15日

サポートされている時間のフォーマットは、hh:mm:ss で、以下は例です：

- 22:58:00: 22時58分00秒 (24時間表示)

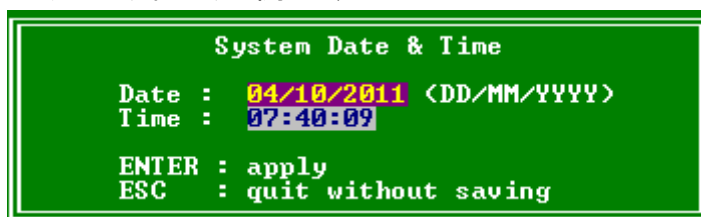
有効でないフォーマットを入力すると、警告メッセージが表示されます。

### システム日付と時間の設定方法

Multicam Setupアップウィンドウから、システム日付と時間の設定を行なうには、以下を行います：

1. Multicamセツアップウィンドウ内で、Tを押し、System date and timeコマンドを呼び出します。

以下のウィンドウが開きます：



2. このウィンドウで、以下を入力します：

- 日付を、DD/MM/YYYY形式で
  - 時間を、hh:mm:ss形式で (24時間表示)
- TABで、フィールド間を移動します。

3. ENTERを押し、変更内容をシステムの日付と時間に反映します。

ここで入力した日付と時間は、収録を開始すると、自動的に反映されます。

## 2.3.6. Default Output to VGA/Videoの設定

### 序文

PCブートとI/Oブートの間に、ビデオドライバーがロードされます。

Default Output to VGA/Video コマンドで、ビデオ表示を、以下のいずれかのモードに変更します：

- VGAモード
- B&W ビデオモード

このモードは、VGAコネクタ上にコンポジットのビデオ信号出力を送り、付属のVGA <=> BNC アダプタを使用して、標準コンポジットのビデオモニター上にVGA画面を表示します。



### 注意

収録開始後でも、ALT + BACKSPACEで、モード切り替えできます。

### デフォルト出力の変更方法

Eを押すと、モードがトグルし、デフォルトの出力モードを切り替えます。

Multicam Setupウィンドウに表示されるパラメーターは、現在のアクティブ値です。

これは、表示されているパラメーターがDefault to VGA'なら、アクティブなモードはVGAモードとなります。



## 2.3.7. サーバーRaidの設定

### 序文

EVSサーバーが起動すると、サーバーRaidが自動的に検知され、デフォルト設定に基づきビルドされます。

Raid Configurationウィンドウで、デフォルトのRaidコンフィグを確認/変更できます。

このウィンドウは、サーバーベースアプリケーションからのみ使用可能です。



### 注意

HDDは、EVSサーバー用に特別に設定されているため、EVS支給のHDDのみ使用可能です。

### Raid Configurationウィンドウ概要

Raid Configurationウィンドウは、Multicam Setupウィンドウよりアクセス可能で、Rを押し、Toolsメニューから、Raid Configuration コマンドを呼び出します：

ウィンドウ上部の、Requested configurationエリアには、デフォルトのRaidコンフィグが表示されます。

このエリア内で、デフォルトのRaidコンフィグを変更できます。

詳細は、下部の編集可能なパラメータで確認できます。

Current Configurationエリアは、Raid Configurationウィンドウの下部にあり、Raidとディスクのステータス情報を提供します。

```

RAID configurationlticam Setup 11.000.45 XT2+ SN:26410 XT_ADL
Requested configuration
Use Internal only
1 (5+1) raids + 0 spare(s)

Current configuration
Use Internal only
RAID type
1 (5+1) raids + 0 spare(s)
RAID status
01 ---
EXT4 ---
EXT3 ---
EXT2 ---
EXT1 ---
INT2 01 01
INT1 01 01 01 01
External Arrays Status
EXT4
EXT3
EXT2
EXT1
Disks status Display raids Highlight RAID 01
EXT4 ---
EXT3 ---
EXT2 ---
EXT1 ---
INT2 01 01
INT1 01 01 01 01
Legend OK Disconnected Rebuilding Spare Not present
<Tab>Edit <Esc>Quit

```

### デフォルトのRaidコンフィグ

初回起動時、ソフトウェアが、以下の設定を使用して、RAIDをビルドします：

- 内部と外部ストレージが検出されると、両方を使用します。
- (5+1)のRaid コンフィグ + 最大5 台のスペアのコンフィグを使用します。

最初に、全てのRaidがビルドされます。

残りのディスクは、スペアディスクとして使われます。

Raidの構築は、内部のアレイから開始し、外部のアレイへ継続します。

Raidは、複数のハードウェアアレイをまたがって作成可能です。



## Request configuration

### 概要

Request configuration内では、デフォルトRaidコンフィグ内の以下のパラメータを変更できます：

- 内部/外部ストレージの使用
- スペアディスクの使用
- 使用するRaid数

これらのパラメータを変更するには、**TAB** を押し目的のフィールドを選択し、**SPACE BAR**で目的の数値を選択/必要な値を入力します。

### フィールドの説明

以下のテーブルでは、Raid Configurationウィンドウ内のRequested configurationエリア内で編集可能なフィールドについて、説明しています。

フィールドは、表示されるシーケンスの中で記述しています。

TABキーを押して、選択可能です。

フィールド名	説明
Storage type	利用するストレージタイプを指定します。 内部と外部の両方のストレージタイプが有効な場合、以下が有効です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Internal only</li> <li>● External + Internal</li> <li>● External only</li> </ul>
Number of raids	利用したいRaid数を指定します。 使用したいRaid数を、入力します。
Raid configuration type	Raid コンフィグタイプを指定します。 ソフトウェアは、2つのRaidコンフィグを管理できます： <ul style="list-style-type: none"> <li>● (4+1): HDD5台のRaid</li> <li>● (5+1): HDD6 台のRaid</li> </ul>

### Current configuration

このエリアでは、EVSサーバーが収録中の、Raidのステータスの表示に使用されます。



## 2.4. ライセンスとメンテナンス

### 2.4.1. オプションコード管理の概要

#### 序文

ソフトウェアアプリケーション/特定のソフトウェアオプションを起動するには、ソフトウェアだけでなくライセンスキー (Multicamでは、'ライセンスコード') も必要で、これは、オプション毎/システム毎に個別です。

ライセンスキーには、デモ目的の一定期間有効なテンポラリーライセンスと、無期限のパーマネントライセンスがあります。

ライセンスキーは、Options codes managementウィンドウから管理します。  
このウィンドウは、サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェース両方より使用可能です。



#### 注意

テンポラリーライセンスコードが失効する2週間前から、もしくは失効すると、システムは、Multicam Setupウィンドウが開いた際、警告を出します。

#### Options Codes Managementウィンドウへのアクセス

サーバーベースアプリケーションでOptions codes managementウィンドウを開くには、Multicam Setupウィンドウで、Oを押します。

WebベースインターフェースでOption codes managementウィンドウを開くには、Multicam SetupウィンドウからToolsメニュー内のOptions code managementをクリックします。

## 2.4.2. Options Codes Managementウィンドウ

### サーバーベースアプリケーション内

以下の通り、画面は3つのエリアに分かれていて、以下の情報を含みます：

```

Key settings
System ID      32030      Serial number 32030      User CDO
Chassis type  XTnano      PSU type     Standard
Key date and time are 21/05/12 15:51:05

Options
0      Full options
2      Demo <25/09/12> Authorize SD configurations
3      Demo <25/09/12> Authorize HD configurations
4      Demo <25/09/12> Authorize video configuration changes
8      Demo <25/09/12> DUCPRO HD Codec
9      Demo <25/09/12> DUCPRO 50 Codec
23     Demo <25/09/12> 3D Dual-Link
30     Demo <25/09/12> XRec
80     Demo <25/09/12> XTnano Open config
81     Demo <25/09/12> XTnano 1 PLAY
82     Demo <25/09/12> XTnano 2 PLAY
86     Demo <25/09/12> XTnano 2nd remote
87     Demo <25/09/12> XTnano Mix
88     Demo <25/09/12> XTnano Production screens
101    Demo <25/09/12> Server base open config

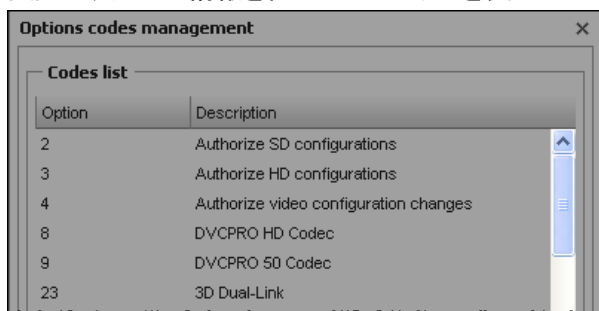
Validation code - - -

<ALT-F>Update from local file      <ALT-U>Update from USB key      <Esc>Quit
  
```

エリア	説明
上部	<p>EVServerに関するキー設定一覧：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>System ID</b>： ハードウェアキーのIDコードで、ライセンスコードの計算に必要です。</li> <li>● <b>Serial number</b>： サーバー本体のシリアル番号で、本体背面でも確認できます。</li> <li>● <b>User</b>： ユーザー名は情報としてのラベルです。</li> <li>● <b>Chassis type</b>： 本体のタイプ。 この値が間違っている場合には、システムの音声とビデオルーティングが正しく動作しません。</li> <li>● <b>PSU type</b>： 本体に搭載されているPSUのタイプ： Standard(標準)、もしくはhot swap(ホットスワップ)。</li> <li>● <b>Key date and time are</b>： テンポラリーライセンスの失効日時。 パーマネントライセンスが適用されると、無効になります。</li> </ul>
中部	<p>サーバー筐体に適用されている、全てのコード。 表示内容は、コード番号 + ライセンスタイプ + コード名 です。 * ライセンスタイプは、permanent、demo、not granted</p>
下部	<p>新しいライセンスコードを、手動で入力するエリアです。 ファイルから新しいライセンスコードをインポートするコマンドが、記載されています。</p>

## Webベースインターフェース内

画面は、以下の情報を含む2つのエリアを表示しています：



エリア	説明
中部	サーバー筐体で有効な全てのライセンスコードが表示されます。 (ライセンスキーが適用され、有効なもの) 各コード名の横には、コード番号が表示されています。
下部	新しいライセンスコードを手入力、もしくはライセンスコードファイルをアップロードするエリア。

## 2.4.3. ライセンスコードの入力と削除

### 序文

機能を有効にするため新しいライセンスコードをリクエストすると、EVSからは、以下のフォームでライセンスが発行されます：

- 1つのxxxxx.CODファイル  
(xxxxx = サーバーのシリアル番号で、このライセンスが生成された対象のサーバー)。  
Option codes managementウィンドウから、このファイルを適用します。

- ライセンスコード  
Option codes managementウィンドウ内で、手入力します。  
ライセンスコードを入力すると、対応するオプション/機能は、収録開始時に自動的に有効になります。  
サーバーをリブートする必要はありません。

### COD ファイルから、ライセンスコードを入力する方法

#### サーバーベースアプリケーション内

新しいライセンスコードを、CODファイルで適用するには、以下のいずれかを行います：

1. CODファイルをUSBキーにコピーして、それをEVSサーバーのUSBポートに接続します。
2. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。
3. 同時に、ALT+Uキーを押します。

または、

1. 手動で、.CODファイルを、EVSサーバーのC:¥ドライブにコピーします
2. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。
3. 同時に、ALT+Fキーを押します。

ライセンスコードが、.COD ファイルより読み取られ、システムに適用されます。  
コードに対応するラインの横に、ライセンスタイプ、有効期限、など、が表示されます。

#### Webベースインターフェース内

新しいライセンスコードを、CODファイルで適用するには、以下のいずれかを行います：

1. COD ファイルを、PCよりアクセス可能なドライブにコピーします。
2. Multicam Setupウィンドウから、Toolsメニュー内のOptions code managementをクリックし、Options code managementウィンドウを開きます。
3. Browseボタンをクリックし、.CODファイルを選択し、Openをクリックします。
4. Submitをクリックします。

ライセンスコードは、ローカルファイルより読み込まれ、システムに反映されます。  
新しいコードに対応するラインが、コードリストに追加されます。

## キー番号で、ライセンスコードを入力する方法

### サーバーベースアプリケーション内

新しいライセンスコードを、キー番号で入力するには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウから、Oを押し、Options codes managementウィンドウを開きます。
2. コードを、入力します。

自動的に、Validation Codeフィールド内に入力されます：



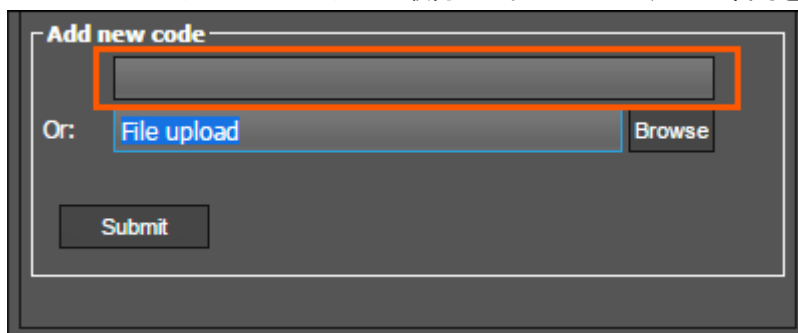
3. ENTERを押します。

コードに対応するラインの横に、ライセンスタイプ、有効期限、など、が表示されます。

### Webベースインターフェース内

新しいライセンスコードを、キー番号で入力するには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウから、Toolsメニュー内のOptions code managementをクリックして、Options code managementウィンドウを開きます。
2. Add new codeグループボックスの最初のフィールド内に、コード番号を入力します：



3. Submitをクリックします。

新しいコードに対応するラインが、コードリストに追加されます。

## ライセンスコードの削除方法

サーバーベースアプリケーションから、ライセンスコードの削除が可能です。

以下を行います：

1. 上矢印(↑)と下矢印(↓)キーを押しオプションリストの中で移動し、削除するオプションを選択します。
2. オプションを選択したら(白色でハイライトされます)、キーボード上で同時にCTRL+ DELETE を押します。
3. ENTERを押し、オプションの削除を適用します。



## 2.5. サーバーメンテナンス

### 2.5.1. 章の内容

以下のテーブルでは、この章のトピックを示しており、各機能がWebベースインターフェースとサーバーベースアプリケーションで利用可能かを示しています。

内容	章	サーバーベース アプリケーション	Webベース インターフェース
Re(b)oot: EVSサーバーのリブート	2.5.2.	Yes	No
(H)ardware check: ハードウェアチェック	2.5.3.	Yes	No
(C)lear video disks: クリアビデオディスク	2.5.4.	Yes	No
Record Train Maintenance: レコードトレインメンテナンス	2.5.5.	Yes	No
E(x)port log files: ログファイルのエクスポート	2.5.6.	Yes	No

### 2.5.2. Re(b)oot: EVSサーバーのリブート

EVSサーバーが収録開始していない場合、Multicam SetupウィンドウからBを押し、右矢印(→)とENTERを押し、確定します。

EVSサーバーが該当コンフィグで起動している場合、ClipもしくはPlaylistページ内にいる場合はALT+Qを押し、そしてENTERを押し、確定します。



## 2.5.3. (H)ardware check:ハードウェアチェック

### ハードウェアチェックの概要

#### 目的

ハードウェアチェック中には、以下の処理が実施されます:

- EVSサーバーにインストールされているボードに関する情報の取得と確認
- ビデオディスクアレイに記録されたデータが有効かの確認

ハードウェアチェックは、サーバーベースアプリケーションからのみ有効です。



#### チップ

ハードウェアチェックは、不良ディスク交換後の、ビデオとオーディオ情報のリビルドにも使用します。

### プロセス

ハードウェアチェックは、サーバーのブートプロセスと同じステップとチェックを行います:

1. MTPCチェック
2. H3XPチェック
3. Video Codecチェック
4. Quadブート
5. GbEダウンロード
6. Diskチェック
7. Dataロード

Multicam Setupウィンドウ内で、Hを押し、ハードウェアチェックを起動すると、システムは自動的にテストプロセスを開始します。

BOOT.H3Xウィンドウ内に、次々にステップが表示されます。

テストプロセスは、H3XPボードの初期化で完了します。

ハードウェアチェックの最後に、ハードウェアのリビジョン情報が表示されます。

この情報は、bootwins.log内に記録されます。



## ディスクエラーと切り離し

### 切り離し

ビデオレイドアレイの1つのディスクがエラーを起こした場合、Multicamは自動的に該当ディスクを切り離し、パリティディスクを使い欠損しているデータをリビルドし、ビデオとオーディオデータブロックをアプリケーションに供給します。オペレータは通常通り作業が継続でき、メッセージ"!Raid"が全てのモニタリング出力上に表示されます。

ディスクが切り離される度に、以下のメッセージが表示されます：

- 不良ディスクが、スペアディスクの場合：

"Warning: a spare disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks.

At the next opportunity

please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

- 不良ディスクが、RAIDに含まれている場合：

"Warning: a disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity

please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

### 終了

Multicam終了時に、警告を表示し1つのディスクが切り離された事をオペレータに思い出させ、ビデオRAIDの修復にハードウェアチェックを行うように導きます。

これは、スペアディスクが使用可能でも、表示されます：

- 不良ディスクがスペアディスクの場合：

"Warning: a spare disk has been disconnected. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"

- 不良ディスクがRAIDに含まれている場合：

"Warning: a disk has been disconnected. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue"



## 再起動

MulticamをRAIDリビルドなしで再起動すると、bootwins中に、以下のような、ディスク種別に適応したメッセージが表示されます：

- スペアディスクに問題がないとき：

[ Bad ] SEAGATE ST9300603SS                      3SE10H1J      0006      279GB 02 07

- スペアディスク全てに問題があり、RAIDが完了されないとき：

[ Bad ] SEAGATE ST9300603SS                      3SE10H1J      0006      279GB 02 07

WARNING !!! Tray XX is missing 1 disk(s) to be complete

そしてMulticamに入ると、別のスペアディスクが使用可能でも、別のメッセージが表示されます：

- 不良ディスクがスペアディスクの場合：

“Warning: a spare disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue”

- 不良ディスクがRAIDに含まれている場合：

“Warning: a disk has been disconnected. The system will operate normally on the remaining disks. At the next opportunity please consider replacing the faulty disk. It can be identified in the Shift-F5 screen or in the EVS – RAID configuration menu. [Enter]=Continue”

オペレータは、**ENTER**を押し、4 ディスク（コンフィグ“4+1”）/ 5ディスク（コンフィグ “5+1”）で通常操作を行う、または、ソフトウェアを終了して、Multicam Setupウィンドウに戻りハードウェアチェック診断を行ないます。

## ログの採取

オペレーション中のディスクの切り離しが、ディスクのエラーによるものではなく、サーバーに原因があると疑う場合には、ディスクが切り離されたセッション終了後、すぐにハードウェアチェックを実行しなければなりません。

RAIDをリビルドしないよう注意し、同時に**ALT+L** キーを押し、

ログファイル C:\%LSMCE%\DATA\LOG\%SCSILOGを生成し、EVSへ詳細な分析の為送付して下さい。

この手順は、オペレーション中にディスクが切り離された場合のみ有効で、システムブート中に切り離されたディスクに対しては有効ではありません。

## リビルドプロセス

### 序文

XTnanoサーバーは、RAIDのリビルドを行なうことができます。

このプロセスは、Multicamアプリケーションが起動していないとき(オフラインリビルドがより早く行なわれます)、または、Multicamアプリケーション動作中(オンラインリビルドは遅くなります)に行えます。

### 切り離しプロセス

ソフトウェアは、意図しない動きをするディスクを切り離します。

2つのオプションがあります：

- 切り離されたディスクを取り外し、サーバーを再起動する。
  - Multicamアプリケーションを開始します。  
リビルドプロセスが自動的に開始されます。
  - EVSメニューよりハードウェアチェックを開始し、リビルドを起動します。  
プロセスは、オフラインで開始されます。  
オペレータは、リビルドが完了するまで待つ、または、キャンセル(延期してMulticamアプリケーションを開始できます(この場合には、オンラインでリビルドは実行されます))。
- ハードウェアチェック内でリビルドを開始して、強制的にディスクを再接続できます。  
プロセスは、オフラインで行われます。  
オペレータは、リビルドが完了するまで待つ、または、キャンセル(延期してMulticamアプリケーションを開始できます(この場合には、オンラインでリビルドは実行されます))。



#### 注意

リビルドプロセス中にエラーが検出されると、リビルド終了後にメッセージが表示され、RAIDが正しくリビルドされなかったことをオペレータに警告します。  
この状態では、システムは4ディスク (4+1コンフィグ)/5ディスク (5+1コンフィグ)での動作を継続します。  
5、6ディスクで起動したい場合には、ディスクを再交換し、再度リビルド/全クリップの消去を行ないます。

クリップ/トレインを再取得する必要がない場合には、RAIDのリビルドは必要はありません。  
この場合には、ハードウェアチェック内で、このオプションを持つメッセージが表示されたら、'Clear All Clips'を選択します。

RAIDアレイをリビルドしない/クリップを消去しない場合には、EVSサーバーは4、5ディスクのみで動作を続け、Multicamアプリケーションの開始/終了時に警告が表示されます。  
通常のオペレーションは 4、5ディスクで可能ですが、さらにもう1台のディスクが故障すると、システムは停止し全てのビデオとオーディオデータは失われます。



#### 警告

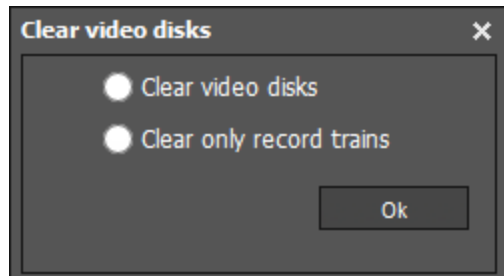
デフォルトでは、オンラインリビルドプロセスは、ディスク帯域の10%を使用します。  
変更したい場合には、EVSのサポートに問い合わせして下さい。

## 2.5.4. (C)lear video disks: クリアビデオディスク

### 序文

Clear video disks機能は、RAIDディスクアレイからのメディアの削除に使用します。

これは、Multicam Setupウィンドウから開いたClear video disksダイアログボックス内でアクセスできます：



選択したオプションにより、以下を削除します：

- 全てのビデオディスク上のクリップとレコードトレイン (Clear video disks)
- レコードトレインのみ (Clear only record trains)

### いつ、何のために、クリア操作が要求されるか？



#### 注意

クリア操作が必要な場合には、Multicam内に、警告メッセージが表示されます。

下記の表は、クリア操作が必要な場合と、どのクリア操作が必要かを表しています：

クリア操作が必要なとき	クリア操作
一般的なメンテナンス	必要に応じて選択
レコードトレインメンテナンス	Clear only record trains
Multicam14からMulticam12.05以下へのダウングレード	Clear video disks
H3XPからH3Xへの入れ替え	Clear video disks
H3X管理のSASTレイからH3XP管理のSASTレイへの入れ替え	Clear video disks



## サーバーベースアプリケーションでのクリップ/トレインのクリア方法

サーバーベースアプリケーションでクリアビデオディスクを行うには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウ内で、**C**を押し、**Clear Video Disks**コマンドを呼び出します。
2. 選択可能なオプションを選び、**ENTER**を押します。  
すると、確認メッセージが表示されます
3. 右矢印(→)、**ENTER**を押し、**Yes**を選択し、削除を確定します。  
または、**ENTER**を押して削除をキャンセルします。



### 注意

**Clear Video Disks**コマンド後に、サーバーが再起動されない限り、コマンドは、**Undo Clear Video Disks At Next Start** にトグルしています。  
これは、**Clear Video Disks**のリクエストをキャンセルできるようにするためです。

## Webベースインターフェースでのクリップ/トレインのクリア方法

Webベースインターフェースでクリアビデオディスクを行うには、以下を行います：

1. Multicam Setupウィンドウ内で、Toolsエリアから**Clear Video disks**コマンドをクリックし、**Clear Video Disks**ウィンドウを開きます。
2. 選択可能なオプションを選択し、**OK**を押します。  
確認メッセージが表示されます。
3. **Yes** をクリックして削除を確定させる、または **No**をクリックして削除をキャンセルします。



## 2.5.5. Record Train Maintenance: レコードトレインメンテナンス

### レコードトレインフィールドカウンタが一杯になるのを防ぐ

レコードトレインは、カウンタを使い、サーバー内の記録された各フィールドを識別します。

このカウンタは、サーバーを連続して使用した時には、

2年8ヶ月: 50 Hz

2年3か月: 59.94 Hz

で、オーバーフローします。

フィールドカウンタが限界に達すると、レコーダーとプレーヤーが停止します。

現在のファイルを閉じ、クリアビデオディスクすることなく/Multicamを終了することなく、新しいファイルを開始できます。

(以前のMulticamのバージョンでは、クリアビデオディスクが必要でした)

### フィールドカウンタのリセット方法

Multicam Setupウィンドウ/Multicam Configurationウィンドウから、フィールドカウンタをリセットできます:

Multicam Setupウィンドウからリセットするには、以下を行います:

1. **Clear video disk** ダイアログボックスに移動します。
2. **Clear only record trains**を選択します。

Multicam Configurationウィンドウからリセットするには、以下を行います:

1. VGAで、**SHIFT+F5**を押し、**Server Monitoring**ウィンドウを開きます。
2. **General Information**ページ (ページ1)で、**Reset record train** コマンドを選択します。

### フィールドカウンタメンテナンスの影響

フィールドカウンタのメンテナンス中:

- プレーヤー: ローカルクリップ使用中 は、影響ありません。
- プレーヤー: リモート(XNet)サーバーからの素材を使用中は、影響ありません。
- リモートサーバー上での、フィールドカウンタメンテナンス中のサーバーのレコードトレインの再生は、影響を受けます。

フィールドカウンタのメンテナンス実施後:

- 全てのトレインが消去されますが、クリップ/プレイリストは消去されません。
  - Multicamは、メンテナンス操作前に起動していたレコーダーを再起動します。
  - Multicamは、メンテナンス操作前に起動していたプレーヤーを再起動します。
- 各プレーヤーで利用中のレコードトレインは、変わりません。



## 自動事前警告

フィールドカウンタが限界に達するとレコーダーとプレーヤーが停止するため、事前に警告が自動的に発行されます:

- カウンターオーバーフローの、12 週前、8～4週前まで毎週、VGA上に警告が表示されます。
- 4週前から毎日VGA上に警告が表示され、全てのPGMのOSD画面上に"!Rec" 警告が表示されます。
- 前日には、OSDの警告が点滅します。

## フィールドカウンタのオーバーフロー

フィールドカウンタがオーバーフローになると:

- Multicamは、レコーダーとプレーヤーを停止します。
- Multicam は、VGA/ OSD/LSM上にエラーメッセージを出します。
- オペレータは、ディスク上で使用可能な全ての素材で、クリップのブラウズ/作成が可能です。





## 2.5.6. E(x)port log files: ログファイルのエクスポート

トラブル調査用のログファイル取得には、Multicam SetupウィンドウからXショートカットキーを押し、挿入したUSBキーにログファイルをエクスポートします。

**Export log file** コマンドを呼び出すと、USBキーのルートフォルダ上に .zipファイルが作成されます。

これは、以下を含んでいます：

- EVSサーバーのC: ¥LSMCE¥DATAフォルダに保存されている全てのファイル
- コンフィグラインの設定を含むエクセルスプレッドシート

エクスポート後、メッセージボックスが表示されEVSサーバーのログを消してよいか確認されます。

Yesを選択すると、C: ¥LSMCE¥DATA¥LOGと、C: ¥LSMCE¥DATA¥DUMP フォルダのデータが消去されます。

ログファイルは、XNet Monitorからもエクスポートできます。



## 3. サポートしているコンフィグ

### 3.1. 一般的な原則

#### 3.1.1. サポートしているコンフィグについて

##### 一般性

EVSサーバーでサポートしている主なコンフィグは、下記のWebページで確認できます：

<http://www.evs.com/backpanel/index.html#>

XTnanoサーバーは、下記のコンフィグタイプをサポートしています：

- SD/HD 標準とSLSMコンフィグ
- 3D 標準とSLSMコンフィグ
- 1080p 標準とSLSMコンフィグ

これらのコンフィグは、以下で使用可能です：

- 4チャンネルモード
- 6チャンネルモード
- 8チャンネルモード

##### 必要条件と制限事項

- PLAYチャンネルのMix on one channel機能は、使用できません。

## 3.1.2. RECORDとPLAYチャンネルについて

### RECORD、PLAYチャンネル数

コンフィグのRECORDとPLAYチャンネル数は、Channelsタブ内、Base設定内で設定します。

使用可能なRECORD、PLAYチャンネル数は、筐体、インストールされているライセンス、動作しているコンフィグにより異なります。

- SportLightモード： EVSサーバーは、Nanoリモコンで制御します。
- Serverモード： EVSサーバーは、業界標準プロトコルで制御されます。

以下のテーブルでは、両方のモードで使用可能なチャンネルの最小/最大数を示します：

	XTNano (V3X)	
	SportLight	Server
最大 # チャンネル	8	8
最小 # REC	1	0
最大 # REC	6	6
最小 # PLAY	1	0
最大 # PLAY	2	4

#### 注意

前記で記載されている制限により、以下のセクションで記載されているコンフィグのうち、SportLightまたはServer モードでのみ有効なものがあります。

### クリップとレコードトレインの互換性

- クリップは、SuperLSMクリップを含み、全てのMulticamのコンフィグ間で互換です。
- レコードトレインは、LSMモード内でRECORDチャンネル(カメラ)が増えない限り、互換です。

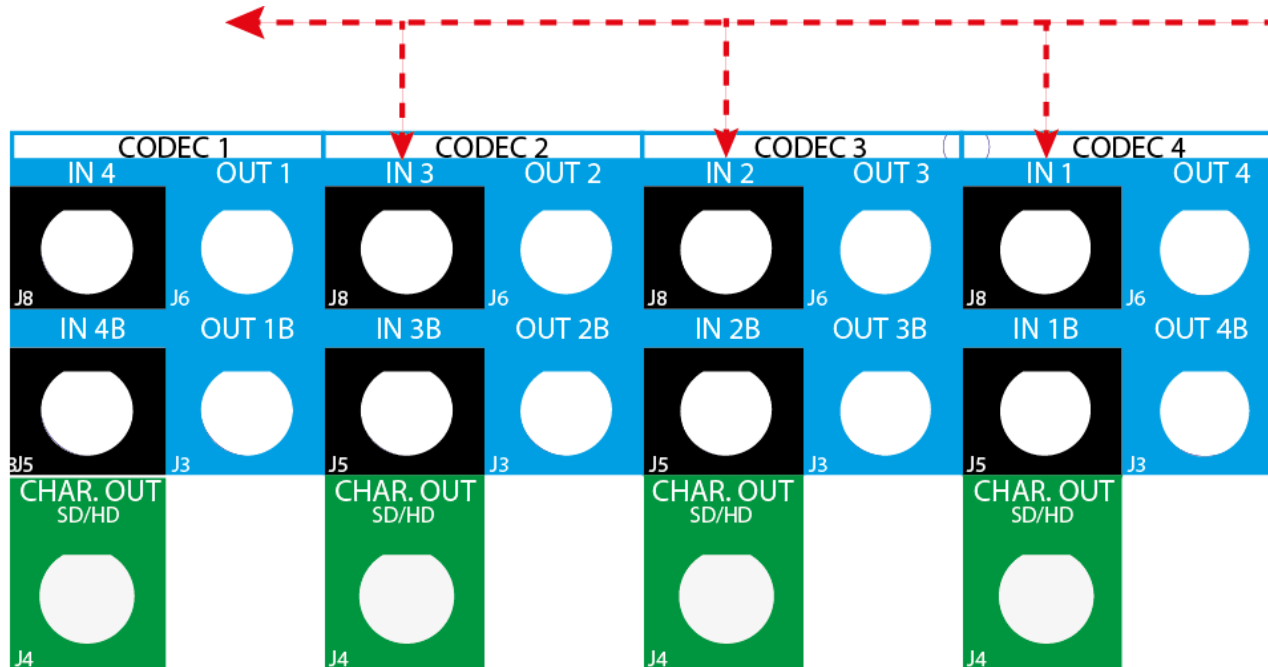
例

- 1REC → 2REC： レコードトレインは、失われます。
- 4REC → 3REC： レコードトレインは、保持されます。
- レコードトレインは、Spotboxモードでは、常に保持されます。  
(RECORDトレインの数の増減の影響は受けません)

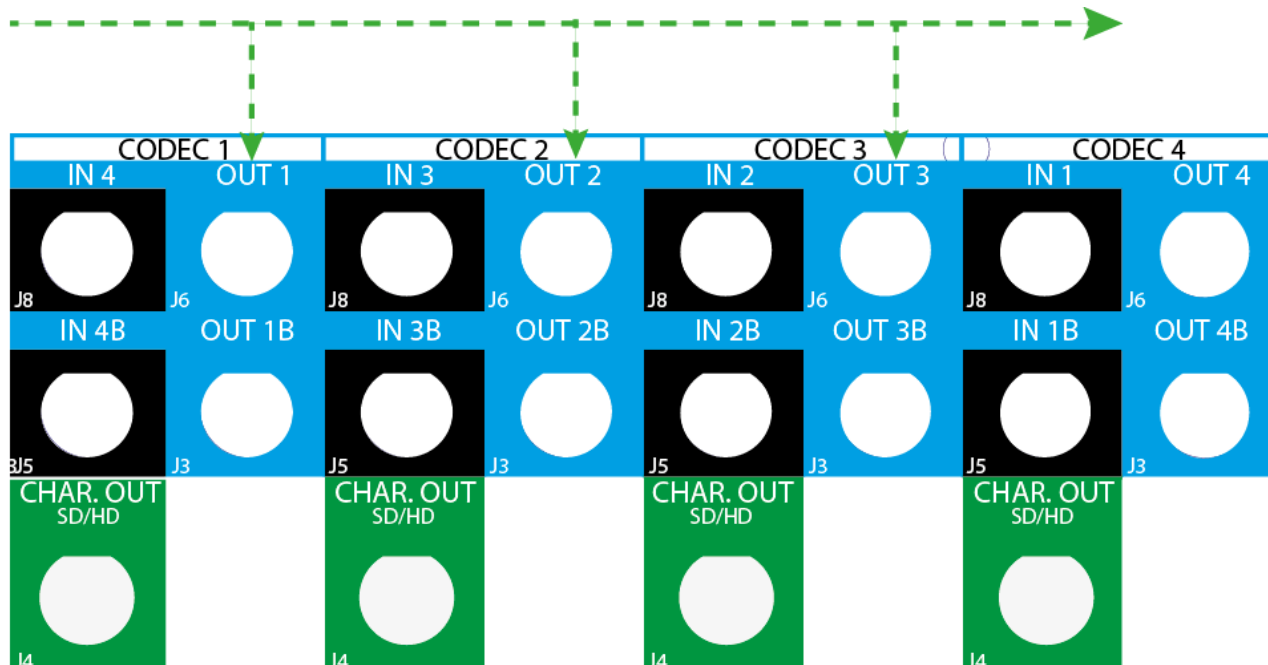
### 3.1.3. チャンネル割り当ての原則

以下の原則は、全てのコンフィグに適用され、全てのEVSサーバーで有効です：

- RECORDチャンネル (INコネクタ)は、常に右から左に割り当てられます。

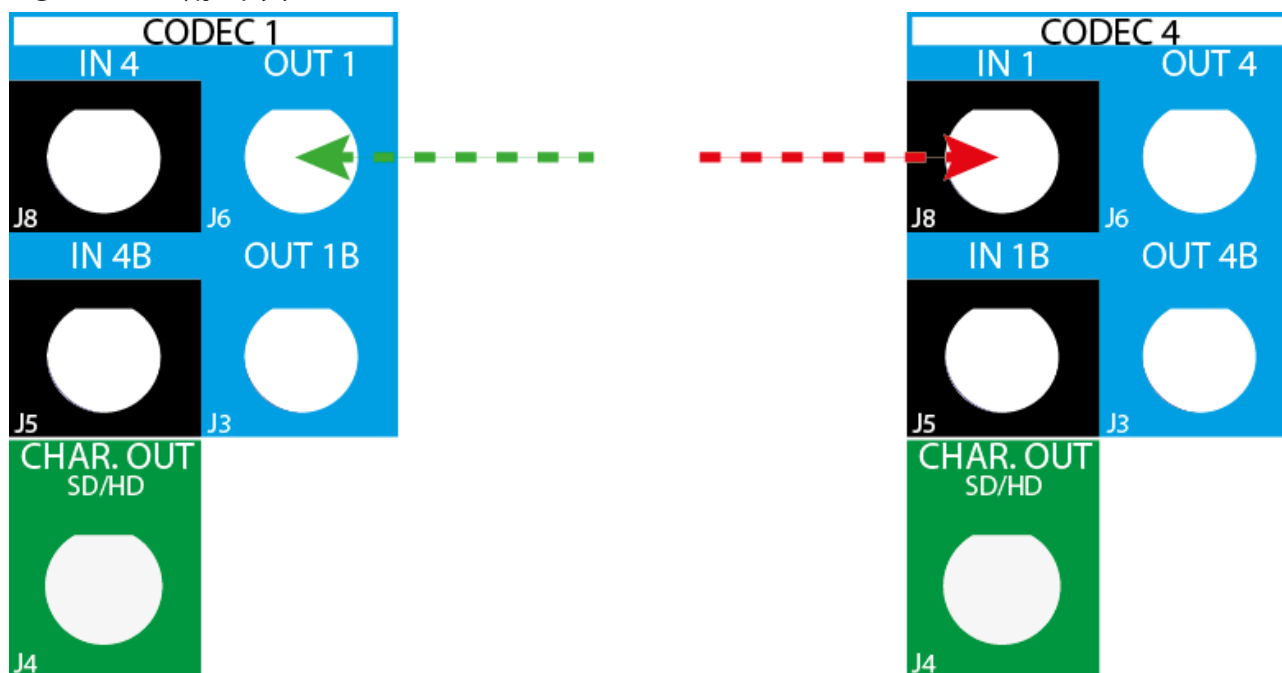


- PLAYチャンネル (OUTコネクタ)は、常に左から右へ割り当てられます。



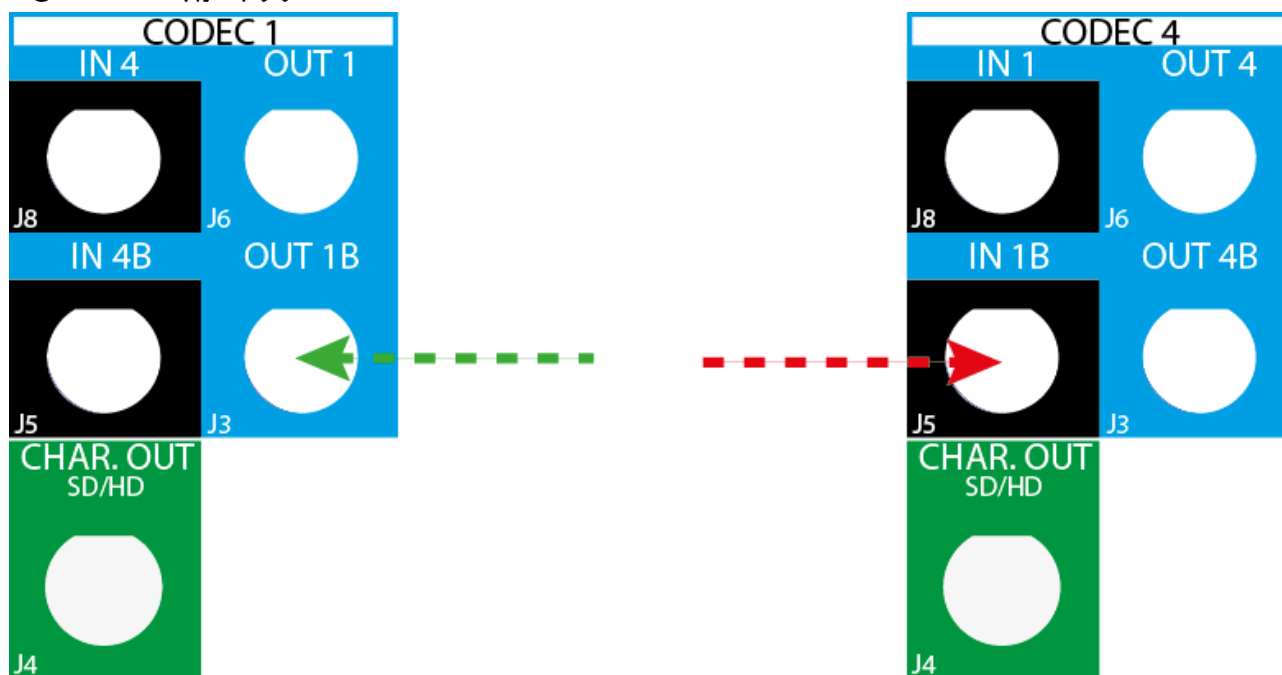
- この章のテーブル内に記載されているV3Xボードのprimary(プライマリ)リンクは、コーデックモジュールの上部のコネクタに該当します。

- J8: IN用コネクタ
- J6: OUT用コネクタ



- この章のテーブル内に記載されているV3Xボードのsecondary(セカンダリ)リンクは、コーデックモジュールの中、下部のコネクタに該当します。

- J5: IN用コネクタ
- J3: OUT用コネクタ





## 3.1.4. 拡張コンフィグについて

### 定義

6-と8-チャンネルモードに分類されるコンフィグでは、独立したレコーダ用にV3Xモジュールのセカンダリリンクを使用します。

8-チャンネルライセンスを持つサーバーは、全ての非拡張と6-チャンネルコンフィグでも動作します。

### 必要条件と制限事項

下記の**必要条件**は、拡張チャンネルモードに適用されます：

- 6-チャンネルモードは、ライセンスコード30 (XRecコード) が必要です。
- 8-チャンネルモードは、以下が必要です：
  - ChannelMaxライセンスコード34 (SportLightモード、Serverモード)
  - H3XPボード、A3Xボード内蔵

### 6-チャンネルモードにおける接続の原則

6-チャンネルモードでは、以下の手順での配線が必要です：

1. PLAYチャンネルは、左から右へ。
2. RECORDチャンネルは右から左へプライマリリンクに配線し、左のコーデックモジュールで既にPLAYチャンネルで使われているものは除きます。
3. 残りのRECORDチャンネルを右から左に、セカンダリリンクに配線します。

### 8-チャンネルモードにおける接続の原則

#### 原則

8-チャンネルモードでは、下記のルールに従って接続します：

- Codecモジュールは、PLAYまたはRECモードとしてのみ動作します。  
そのため、コンフィグは、偶数のPLAY/RECORDチャンネルを持ちます。
- RECORDチャンネルに最大バンド幅を許可するため、PLAYチャンネル用に使用するコーデックの数は、できるだけ最小限にします。

### 標準とSLSM Dualコンフィグ

8-チャンネルモードでは、標準とSLSM (Dual)コンフィグは、以下の順番で接続します。

この一般的なルールには、例外があります。

1. RECORDチャンネルを、右から左に配線します：
  - 最初のRECORDチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
  - 残りのRECORDチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。
2. PLAYチャンネルを、左から右へ配線します：
  - 最初のPLAYチャンネルの半分を、プライマリリンクに接続します。
  - 残りのPLAYチャンネルを、(プライマリリンクを使用している)セカンダリリンクに接続します。



## 3.2. SD/HDベースコンフィグ

### 3.2.1. SD/HDコンフィグ

#### 序文

以下のテーブルでは、SD/HD XTnanoサーバーで可能なコンフィグとBNCのコネクタがどのように配線されるべきかを示しています。

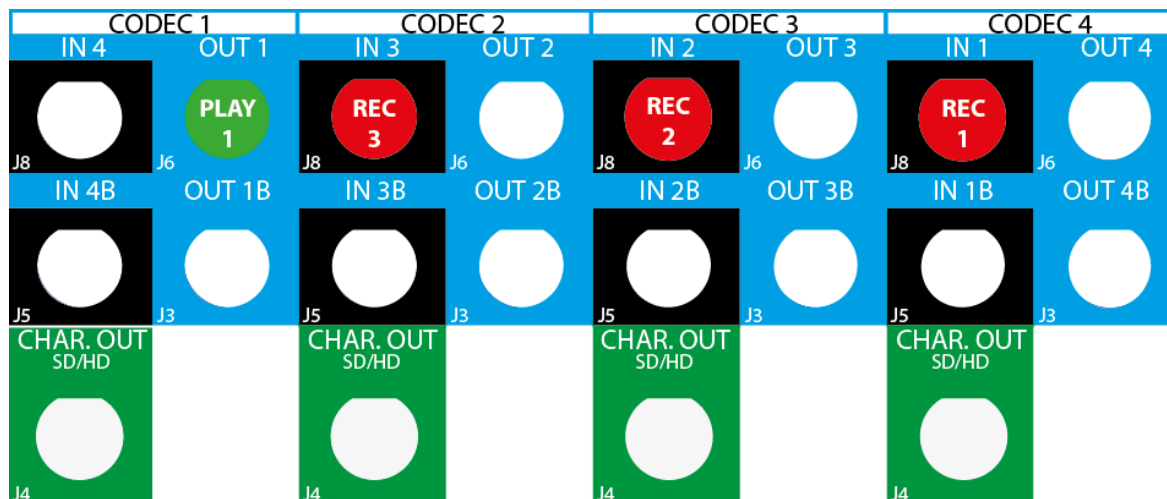
6-チャンネルモードは、ライセンスコード30 (XRecコード) が必要です。

8-チャンネルモードは、ライセンスコード34 (ChannelMaxコード) が必要です。

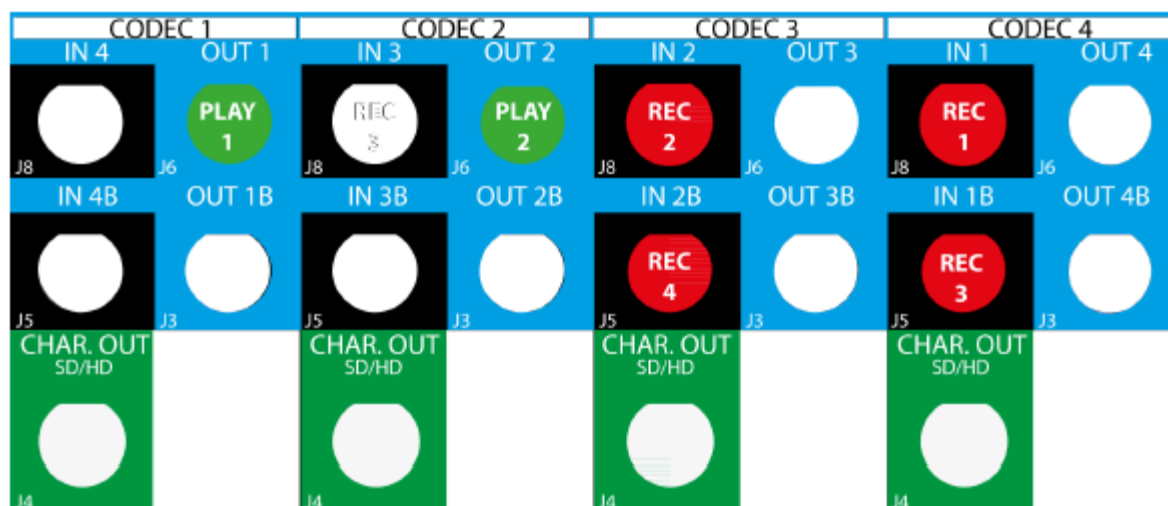
#### Available Configurations

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#REC	#PLAY	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
4-チャンネルモード									
1	0							REC1	
2	0					REC2		REC1	
3	0					REC2		REC1	
4	0	REC4		REC3				REC1	
1	1	PLAY1						REC1	
1	2	PLAY1		PLAY2				REC1	
1	3	PLAY1		PLAY2		PLAY3		REC1	
2	1	PLAY1				REC2		REC1	
2	2	PLAY1		PLAY2		REC2		REC1	
3	1	PLAY1		REC3		REC2		REC1	
0	1	PLAY1							
0	2	PLAY1		PLAY2					
0	3	PLAY1		PLAY2		PLAY3			
0	4	PLAY1		PLAY2		PLAY3		PLAY4	
6-チャンネルモード									
2	3	PLAY1		PLAY2		PLAY3		REC1	REC2
4	1	PLAY1		REC3		REC2		REC1	REC4
4	2	PLAY1		PLAY2		REC2	REC4	REC1	REC3
8-チャンネルモード									
6	2	PLAY1	PLAY2	REC3	REC6	REC2	REC5	REC1	REC4

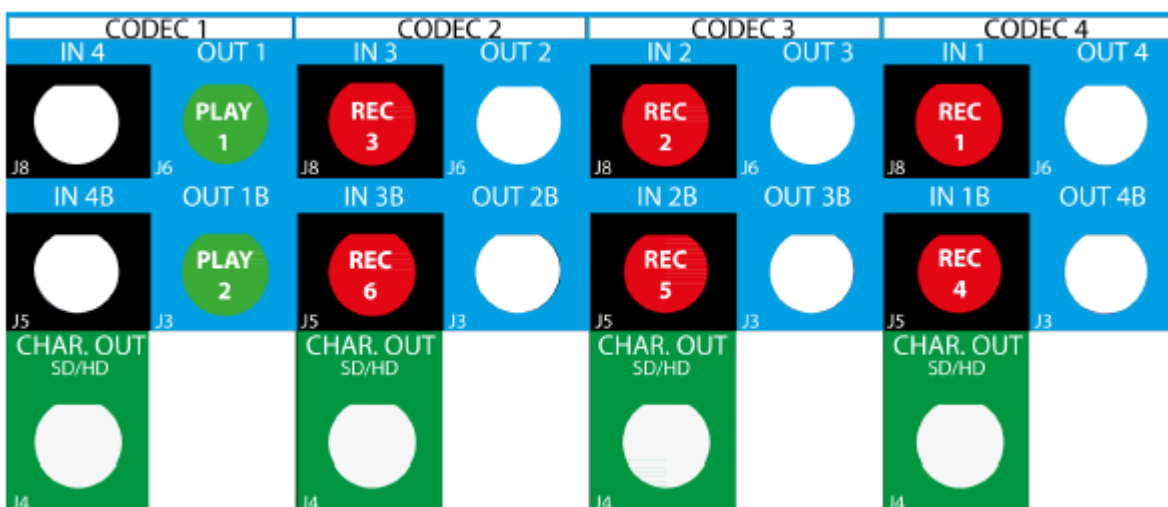
### Example in 4-Channel Mode (3REC + 1PLAY)



### Example in 6-Channel Mode (4REC + 2PLAY)



### Example in 8-Channel Mode (6REC + 2PLAY)







## 3.3. SLSMコンフィグ

### 3.3.1. スーパーモーションコンフィグの一般的な情報

#### コンセプト

スーパーモーションカメラは、2倍速～3倍速カメラの事を言い、標準カメラの 2、3倍のフレームレートで収録します。

#### 序文

スーパーモーションカメラの収録素材は、直接EVSサーバーに収録されます。

カメラのフェーズ数が、EVSサーバー上で使用する物理RECORDチャンネル数を直接決定します。

2倍速カメラは、2つの物理RECORDチャンネルを使い(V3Xのプライマリもしくはセカンダリ)、3倍速カメラは、3つの物理RECORDチャンネルを使い、それ以降も同様です。

#### 必要条件

SLSM 2x-3x コンフィグは、全ての SD コーデックでネイティブにサポートされています。

SLSM 2x-3x コンフィグは、全ての HD コーデックでネイティブにサポートされています。

これらのコンフィグは、以下の条件を満たせば、有効になります：

- ライセンスコード 110 (Super Motion) が有効
- ベースコンフィグが、SportLight



#### 注意

SLSM 6x と10xコンフィグは、ライセンスコード 26 (Umotion Only)でも、サポートされています。



## 3.3.2. SLISMコンフィグ

### 序文

#### SLISM の原則

この章では、XTnanoサーバーで可能な2、3フェーズSLISM コンフィグについて説明します。

SLISM2フェーズコンフィグでは、2倍速カメラのスーパーモーション収録は、1つの論理チャンネルと考慮されますが、2本の物理チャンネルです。

SLISM3フェーズコンフィグでは、3倍速カメラのスーパーモーション収録は、1つの論理チャンネルと考慮されますが、3本の物理チャンネルです。

#### テーブルと例について

この章では、XTnanoで可能なSLISMコンフィグと、背面パネルの例について記載しています。

テーブルと例は、選択コンフィグにおけるBNCのコネクターの配線を示しています。

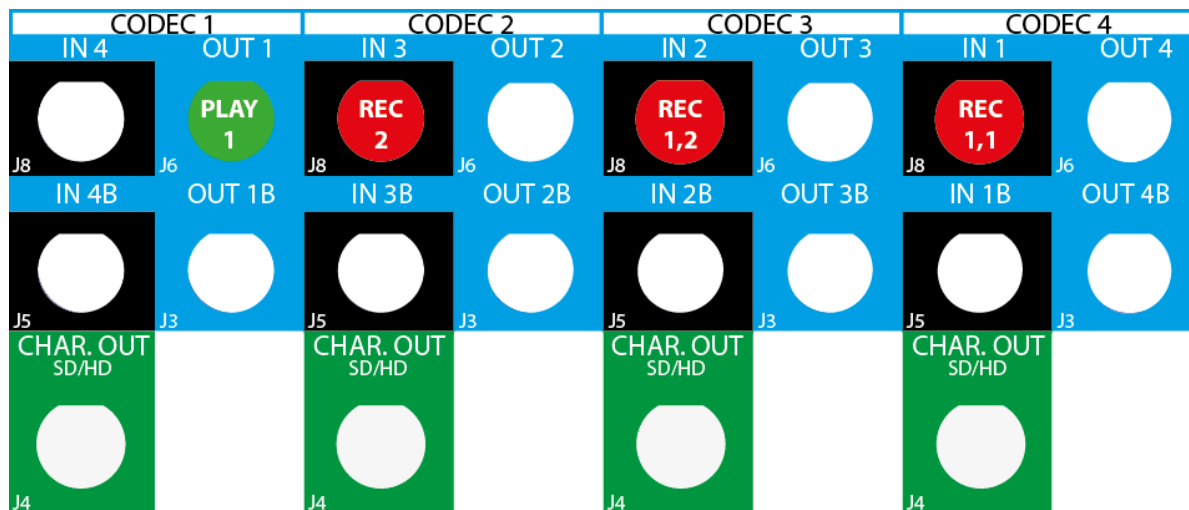
6-チャンネルモードコンフィグは、コーデックモジュールのセカンダリリンクを、独立したRECORDチャンネルとして使用します。

これは、指定状態でのみ、使用可能です。

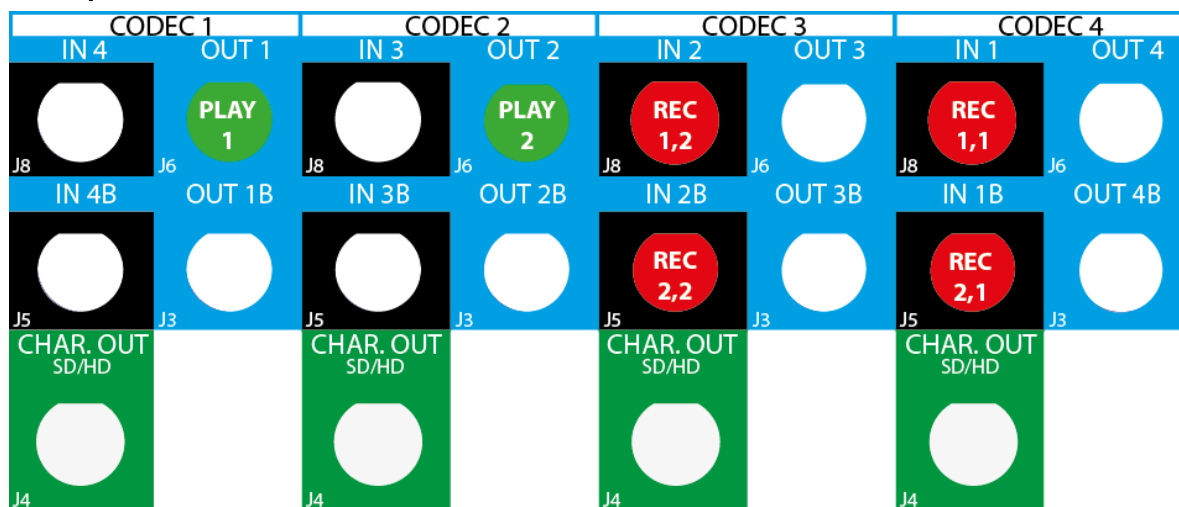
## SLSM 2x Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#REC	#	#	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
SLSM	REC	PLAY	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
2x										
4-チャンネルモード										
1	0	1	PLAY1				REC1、2		REC1、1	
1	0	2	PLAY1		PLAY2		REC1、2		REC1、1	
1	1	1	PLAY1		REC2		REC1、2		REC1、1	
6-チャンネルモード										
1	2	1	PLAY1		REC2		REC1、2		REC1、1	REC3
1	2	2	PLAY1		PLAY2		REC1、2	REC3	REC1、1	REC2
2	0	1	PLAY1		REC2、1		REC1、2		REC1、1	REC2、2
2	0	2	PLAY1		PLAY2		REC1、2	REC2、2	REC1、1	REC2、1

### Example in 4-Channel Mode (1SLSM 2PH + 1REC + 1PLAY)



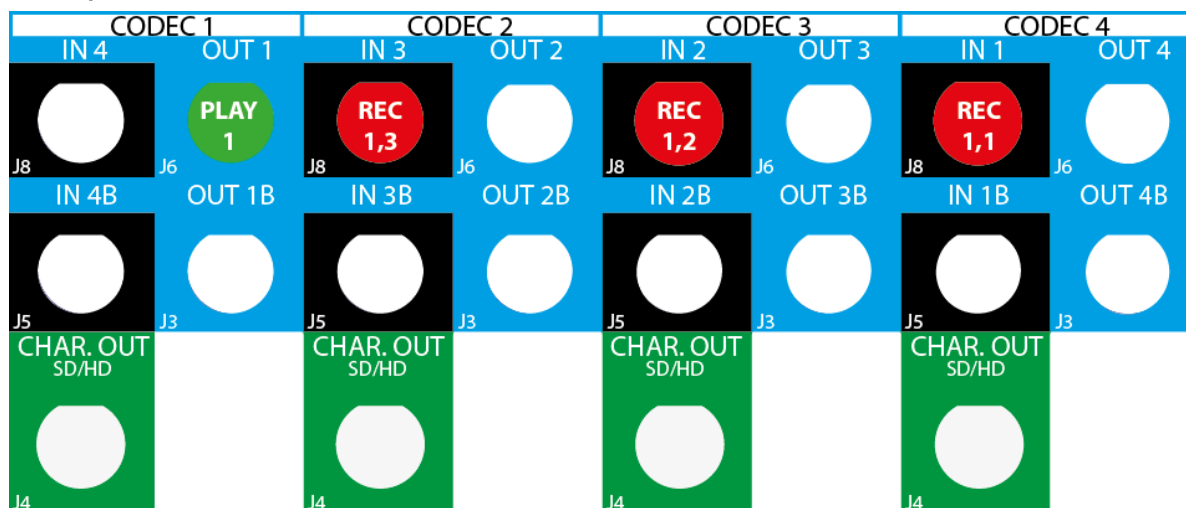
### Example in 6-Channel Mode (2SLSM 2PH + 2PLAY)



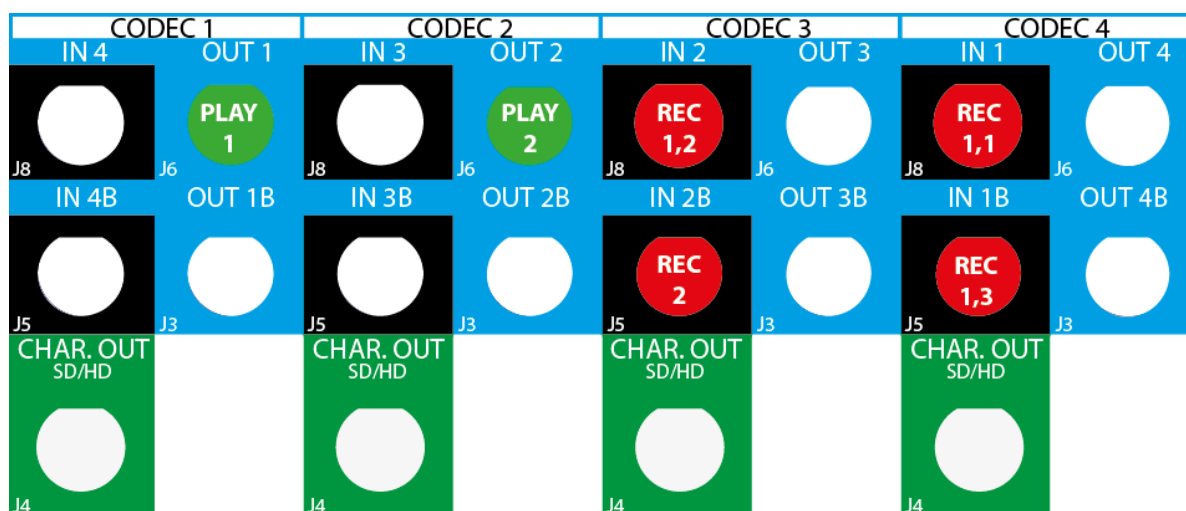
## SLSM 3x Configurations

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#REC	#	#	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.	Prim.	Sec.
SLSM	REC	PLAY	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.	Ch.
3x										
4-チャンネルモード										
1	0	1	PLAY1		REC1、3		REC1、2		REC1、1	
6-チャンネルモード										
1	1	1	PLAY1		REC1、3		REC1、2		REC1、1	REC2
1	1	2	PLAY1		PLAY2		REC1、2	REC2	REC1、1	REC1、3
8-チャンネルモード										
1	3	2	PLAY1	PLAY2	REC1、3	REC4	REC1、2	REC3	REC1、1	REC2

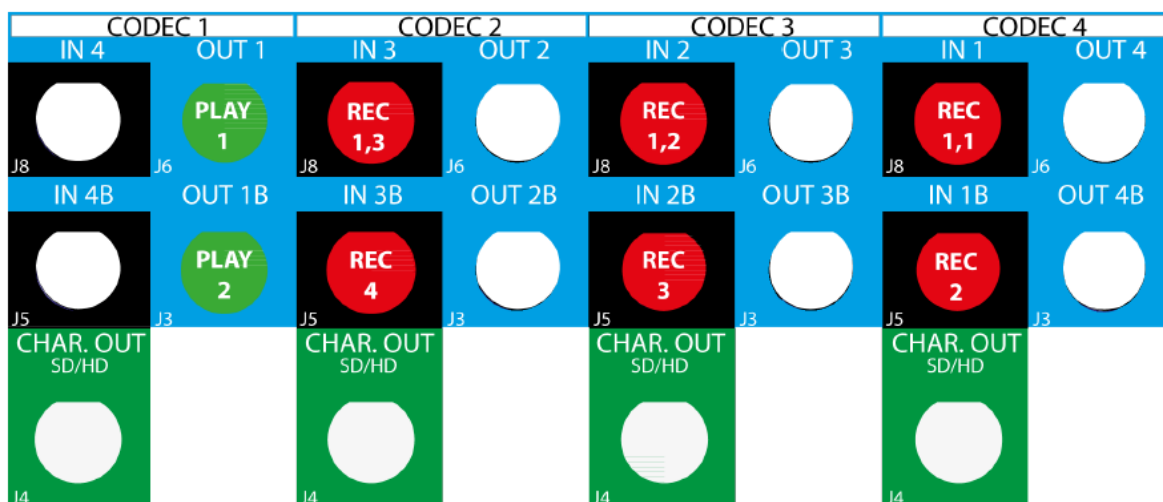
### Example in 4-Channel Mode (1SLSM 3PH + 1PLAY)



### Example in 6-Channel Mode (1SLSM 3PH + 1REC + 2PLAY)



## Example in 8-Channel Mode (1SLSM 3PH + 3REC + 2PLAY)





## 3.4. 3Dコンフィグ

### 3.4.1. 3Dコンフィグの一般情報

#### 要件

3Dは、以下のソフトウェアの要件を満たす時利用可能です：

- ライセンスコード23または 24が有効。
- 3Dのパラメーターが、Yesに設定。
- 3G/Dualパラメーターが、適切な値に設定。

#### 接続

リアパネルにおいて、3Dは、以下のインターフェイスのうちの1つで接続されます：

- Dual Linkインターフェース：  
2本のケーブル(1つの論理チャンネルに該当)を、コーデックモジュールの両方のコネクタ(例: N1とN1B)に接続。
- 3Gインターフェース：  
1本のケーブル(1つの論理チャンネルに該当)を、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続。

V3Xボード上では、3D接続は、下記のように接続されます：

- V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリリンク (COD A、COD B) は、背面への接続が何であろうと使用されます (Dual Link もしくは 3G)。

### 3.4.2. 3D標準コンフィグ

#### 可能なコンフィグ

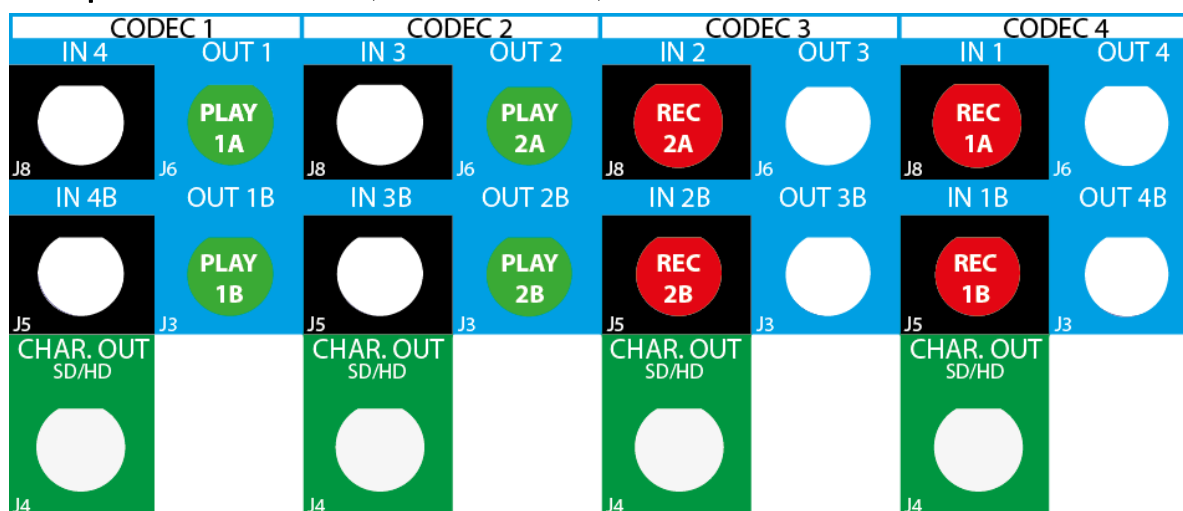
以下のテーブルは、XTnanoサーバーの標準カメラでの3Dコンフィグを示します。

V3Xボードのコーデックモジュールのレベルでの、チャンネル割り当てを示しています。

背面パネルに接続されるケーブルのタイプ(Dual Linkまたは、3G)にかかわらず、有効です。

#REC	#PLAY	IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
		Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
1	0							REC1A	REC1B
2	0					REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
3	0			REC3A	REC3B	REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
4	0	REC4A	REC4B	REC3A	REC3B	REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
1	1	PLAY1A	PLAY1B					REC1A	REC1B
1	2	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B			REC1A	REC1B
1	3	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B	PLAY3A	PLAY3B	REC1A	REC1B
2	1	PLAY1A	PLAY1B			REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
2	2	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B	REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
3	1	PLAY1A	PLAY1B	REC3A	REC3B	REC2A	REC2B	REC1A	REC1B
0	1	PLAY1A	PLAY1B						
0	2	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B				
0	3	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B	PLAY3A	PLAY3B		
0	4	PLAY1A	PLAY1B	PLAY2A	PLAY2B	PLAY3A	PLAY3B	PLAY4A	PLAY4B

#### Example in 3D Dual Link (2REC + 2PLAY)





### 3.4.3. 3D SLSMのチャンネル割り当て原則

3Dの標準とSLSMの組み合わせコンフィグは、以下のリアパネルコネクタ割り当ての個々のルールに従います：

- **3D Dual Link:**

最初のケーブルをコーデックモジュールのプライマリコネクタに、2番目のケーブルを同じコーデックモジュールのセカンダリコネクタに、接続します。

- **3D 3G (single link):**

1本のケーブルを、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続します。

背面パネルの接続タイプにかかわらず、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリとセカンダリ両方のチャンネルが使用されます。

- **SLSM2倍速コンフィグ**

1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、2つの物理チャンネルと同様となります。

- **SLSM3倍速コンフィグ**

1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、3つの物理チャンネルと同様となります。



### 3.4.4. 3D SLISMコンフィグ

#### SLISM 2x Configurations

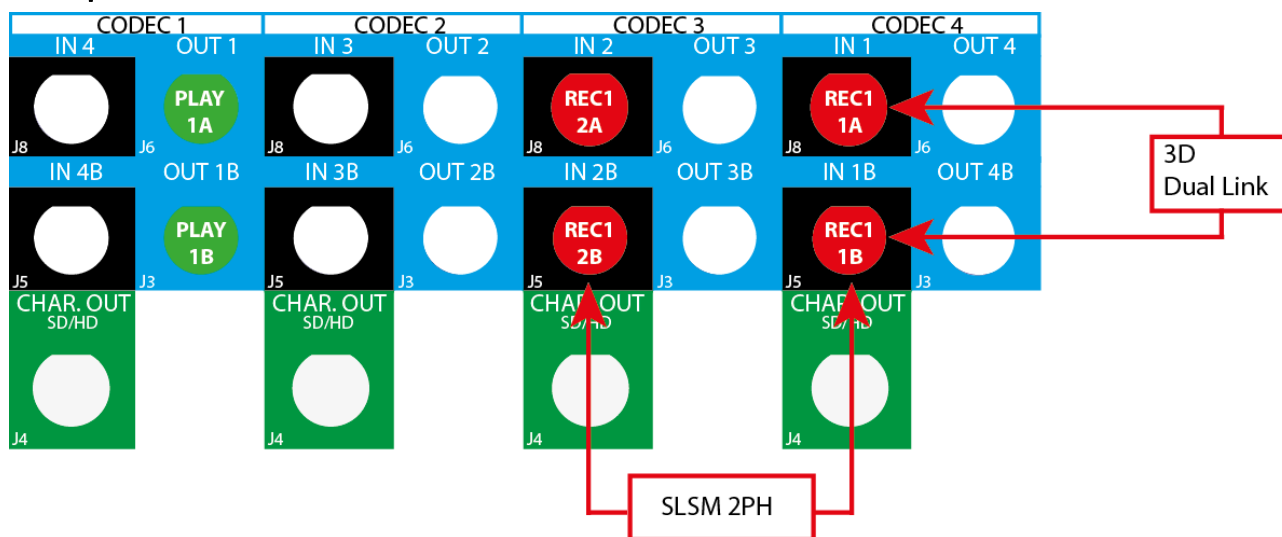
以下のテーブルは、XTnanoサーバーのSLISM 2xの3Dコンフィグです。

V3Xボードのコーデックモジュールのレベルでの、チャンネル割り当てを示しています。

背面パネルに接続されるケーブルのタイプ(Dual Linkまたは、3G)にかかわらず、有効です。

#REC SLISM 2x	# REC	# PLAY	IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
			Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
1	0	1	PLAY 1A	PLAY 1B			REC 1、2A	REC 1、2B	REC 1、1A	REC 1、1B
1	0	2	PLAY 1A	PLAY 1B	PLAY 2A	PLAY 2B	REC 1、2A	REC 1、2B	REC 1、1A	REC 1、1B
1	1	1	PLAY 1A	PLAY 1B	REC 2A	REC 2B	REC 1、2A	REC 1、2B	REC 1、1A	REC 1、1B

#### Example in 3D Dual Link (1SLISM 2x + 1REC + 1PLAY)





## SLSM 3x Configurations

以下のテーブルは、XTnanoサーバーのSLSM x3 3Dコンフィグを示しています。

V3Xボードのコーデックモジュールのレベルでのチャンネル割り当てを示しています。

背面パネルに接続されるケーブルのタイプ(Dual Linkまたは、3G)にかかわらず、有効です。

#REC SLSM 3x	# REC	# PLAY	IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
			Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
1	0	1	PLAY 1A	PLAY 1B	REC 1、3A	REC 1、3B	REC 1、2A	REC 1、2B	REC 1、1A	REC 1、1B



## 3.5. 1080pコンフィグ

### 3.5.1. 1080pコンフィグの一般情報

#### 序文

Multicam 14.00(以降)で動作するEVSサーバーは、少なくともH3XとV3Xボードを内蔵しているため、1080pで動作しているEVSサーバーは、サーバー上の1つのファイルにフル1080pビデオをネイティブにエンコード/デコードします。これにより、トランスコードなしで、ファイルの相互運用性を提供します。

#### 要件と制限

1080pは、以下のソフトウェアの要件を満たす時有効です：

- ライセンスコード21 またはもしくは 22が有効。
- 3G/Dualのパラメータが、適切に設定。

1080pは、AVC-Intra、XAVC-Intra、Avid DNxHD、Apple ProRes 422コーデックのみをサポートしています。

#### 接続

##### リアパネルにおいて：

1080pは、以下のインターフェイスのうちの1つで接続されます：

- Dual Linkインターフェイス：  
2本のケーブル(1つの論理チャンネルとして認識される)が、コーデックモジュールの両方のコネクタ(例 N1とN1B)に接続されます。  
このインターフェイスは、拡張コンフィグでは、サポートされません。
- 3G インターフェイス：  
1本のケーブル(1つの論理チャンネルとして認識される)が、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続されます。

##### V3Xボード上では：

1080p接続は、下記のように接続されます：

- 4-または6-チャンネルコンフィグ：  
V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリチャンネル(COD A)のみが、使用されます。  
フル1080pのビデオは EVS serverに1つのファイルとして保持されるため、セカンダリチャンネルへの接続は、不要となります。  
この場合、V3Xコーデックモジュールの両チャンネルのエンコード/デコードdecoding容量は、バンド幅の制限なしで使用されます。

## 3.5.2. 1080p標準コンフィグ

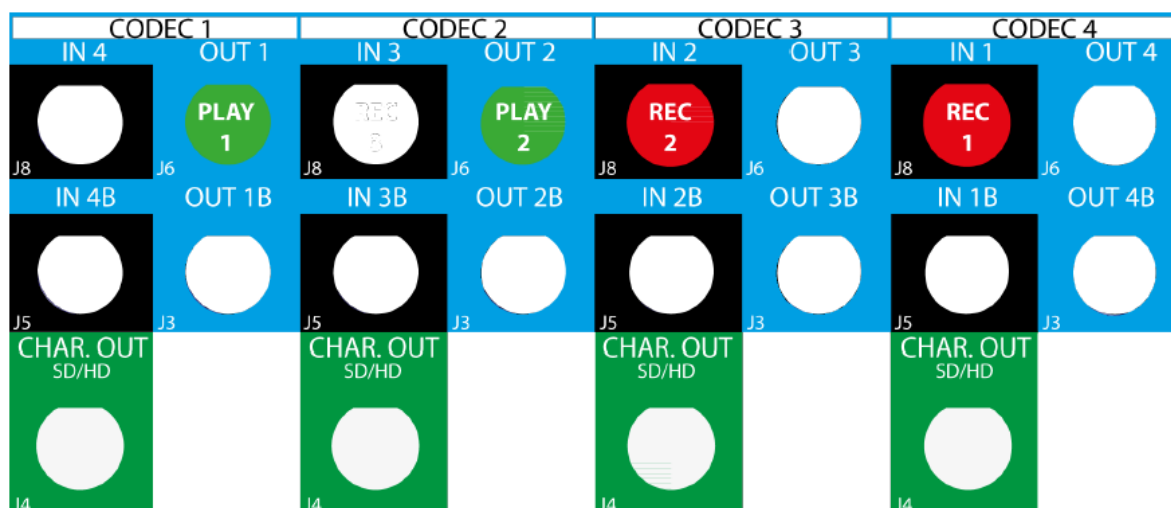
### 使用可能なコンフィグ

以下のテーブルは、XTnanoサーバの標準カメラの1080pコンフィグを示しています。

3Gケーブルの背面パネルへの接続方法を示しています。

		IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#REC	#PLAY	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
4チャンネルモード									
1	0							REC1	
2	0					REC2		REC1	
3	0			REC3		REC2		REC1	
4	0	REC4		REC3		REC2		REC1	
1	1	PLAY1						REC1	
1	2	PLAY1		PLAY2				REC1	
1	3	PLAY1		PLAY2		PLAY3		REC1	
2	1	PLAY1				REC2		REC1	
2	2	PLAY1		PLAY2		REC2		REC1	
3	1	PLAY1		REC3		REC2		REC1	
0	1	PLAY1							
0	2	PLAY1		PLAY2					
0	3	PLAY1		PLAY2		PLAY3			
0	4	PLAY1		PLAY2		PLAY3		PLAY4	

### Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (2REC + 2PLAY)



### 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



### 3.5.3. 1080p SLSMのチャンネル割り当て原則

1080pとSLSMコンフィグの組み合わせでは、背面パネルのコネクタ割り当てに、以下のルールが適用されます：

- **1080p Dual Link:**

最初のケーブルをコーデックモジュールのプライマリコネクタに、2番目のケーブルを同じコーデックモジュールのセカンダリコネクタに、接続します。

- **1080p 3G (single link):**

1本のケーブルを、コーデックモジュールのプライマリコネクタに接続します。

背面パネルの接続タイプにかかわらず、1080p 4チャンネルコンフィグ(4Uサーバー)では、V3Xボードのコーデックモジュールのプライマリチャンネルのみが使用されます。しかし、V3Xコーデックの両チャンネルのデコード/エンコード能力を、使用します。

- **SLSM2倍速コンフィグ**

1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、2つの物理チャンネルと同様となります。

- **SLSM3倍速コンフィグ**

1つのSLSM収録が1つの論理チャンネルとなりますが、3つの物理チャンネルと同様となります。

### 3.5.4. 1080p SLISMコンフィグ

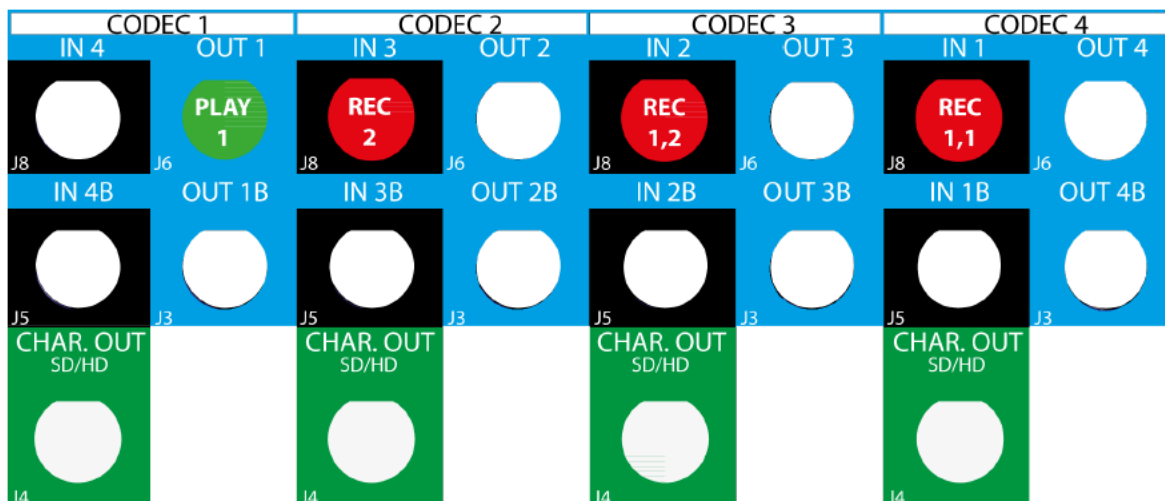
#### SLISM 2x Configurations

以下のテーブルは、XTnanoサーバーにおける1080p SLISM 2xのコンフィグを示しています。

3Gケーブルの背面パネルへの接続方法を示しています。

#REC SLISM 2x	# REC	# PLAY	IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
			Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
1	0	1	PLAY 1				REC 1、2		REC 1、1	
1	0	2	PLAY 1		PLAY 2		REC 1、2		REC 1、1	
1	1	1	PLAY 1		REC2		REC 1、2		REC 1、1	

#### Example in 1080p 3G (1SLISM 2x + 1REC+ 1PLAY)



#### 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

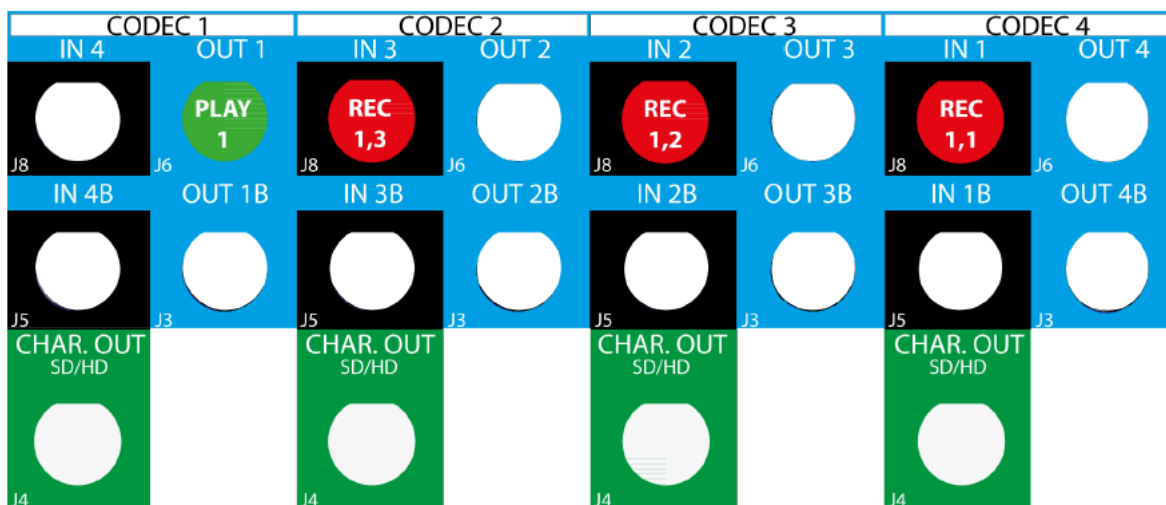
しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。

## SLSM 3x Configurations

以下のテーブルは、XTnanoサーバーにおけるSLSM 3x 1080pコンフィグを示しています。  
3Gケーブルを、リアパネル上にどのように接続すればよいかを示しています。

			IN4/OUT1		IN3/OUT2		IN2/OUT3		IN1/OUT4	
#REC SLSM 3x	# REC	# PLAY	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.	Prim. Ch.	Sec. Ch.
1	0	1	PLAY 1		REC 1, 3		REC 1, 2		REC 1, 1	

### Example in 1080p 3G in 4-Channel Mode (1SLSM 3x + 1PLAY)



#### 注意

Dual Link接続インターフェースの同様のコンフィグで、リアパネルのプライマリとセカンダリリンク両方が配線される場合があります。

しかし、フル1080pコンフィグでは、プライマリチャンネルのみが使われます。



## 4. Multicamコンフィグ

### 4.1. ユーザーインターフェース概要

#### 4.1.1. 序文

##### 序言

##### 最初のステップとしてのコンフィグ

Mlticamを使用する前に、オペレーターは、Multicam Configurationウィンドウ内で、全ての必要なパラメータを設定すべきです。

クリップが特定のパラメータで保存され、後でパラメータを変更しても、前に作成したクリップとプレイリストは変更されません。

##### コンフィグの注意点

大半のパラメータは工場出荷プリセット状態で、EVSスタッフのアドバイスなしに変更しない事をお勧めします。パラメータの不適切に設定すると、システムの誤作動を招くことがあります。

##### 有効なパラメータ

様々なコンフィグを設定するのに、サーバータイプ/サーバー筐体に有効なパラメータ/パラメータ値と、アクティブなライセンスコードが必要です。

##### ユーザーインターフェース比較

EVSサーバーは、以下の3つのインターフェースより設定可能です：

- Multicam Configurationウィンドウ (サーバーベースアプリケーション)
- Multicam Configurationウィンドウ (Webベースインターフェース)
- TechnicalとOperational Setupメニュー (NANOリモコン上、もしあれば)

サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのインターフェース内のMulticam Configurationウィンドウは、ほぼ同等です。

しかし、Nanoリモコンのパネル内で、Technical Setupメニュー内では最も使われる設定が利用可能で、Operational Setupメニュー内では全てのオペレーション設定が使用可能です。





以下のテーブルでは、それぞれのインターフェースで有効な機能を示します：

	Configurationウィンドウ	
	テクニカル設定	オペレーション設定
サーバーベースアプリケーション	Yes (タブ1-6)	Yes (タブ7)
Webベースインターフェース	Yes (タブ 1-6)	Yes (タブ7)
Nanoリモコン	Yes(部分的に) (Technical Setup : F0)	Yes (Setup Menu : SHIFT+D)

## コンフィグパラメータ概要

Multicamコンフィグ内の各章の最初のトピックでは、使用可能なパラメータの概要を提供し、パラメータを探す方法を提供します。

- サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース内のベーシック/アドバンスビュー
- Nanoリモコン上のTechnical Setup/Operational Setup内

## Nanoリモコンとサーバーベースアプリケーションでの同時変更

Nanoリモコンでパラメータが変更され、そのパラメータがサーバーベースアプリケーションのConfigurationページ内で変更したパラメータと競合しない場合、VGA上に以下のメッセージが表示されます。

'The configuration has been modified by another user without any conflict.  
Your copy has been updated with these modifications'

Nanoリモコンでパラメータが変更され、そのパラメータがサーバーベースアプリケーションのConfigurationページ内で変更したパラメータと競合する場合、VGAまたはLCD上に以下のメッセージが表示されます。

ユーザーが了承すると、設定は更新されます。

'The configuration has been modified by another user.  
Do you want to load it and lose your modification?'



### 警告

Nanoリモコン上でこのメッセージが表示され、ユーザーがNo(Clearボタン)を選択すると、Nanoリモコン上の変更が保存されます。

しかし、VGAでの変更適用は、ユーザーがOperational Setupメニューから抜けるとロードされます。  
(例外: メッセージ表示後、VGAで変更したフィールドが、NANOリモコン上で変更/適用された場合)



## 4.1.2. Multicam Configurationウィンドウ概要

### 序文

サーバーベース/ウェブベースのインターフェースでは、各コンフィグファイルに関連する全てのサーバー設定が1つのウィンドウ内にグループ化されています: Multicam Configurationウィンドウ。

指定コンフィグでサーバーが起動していない場合、Multicam Configurationウィンドウでは、Multicam Setupウィンドウ内のどのコンフィグでも設定可能です。

指定コンフィグでサーバーが起動している場合、Multicam Configurationウィンドウでは、動作中のコンフィグの設定が可能です。

Multicam Configurationウィンドウは、両方のインターフェース内で、同じ方法で構成されています:

- 7つのタブより、構成されています。
- 各タブは、1つ以上のページを持っています (サーバーベースアプリケーション)。
- 各タブは、1つのページ上に、全ての設定を表示します (Webベースインターフェース)。
- ページ/タブ上の設定は、固有の名前を持つフィールドグループで構成されます。

### Multicam Configurationウィンドウへのアクセス

#### サーバーベースアプリケーション内


サーバーが収録開始していない時、Multicam SetupウィンドウからMulticam Configurationウィンドウへアクセスするには、以下を行います:

1. コンフィグラインリスト内で、↑(上矢印)または↓(下矢印)キーを押し、選択したいコンフィグがハイライトされるまで上下に動かします。
2. F8を押します。

Multicam Configurationウィンドウが開きます。

サーバー収録中に、Clips/PlaylistウィンドウからMulticam Configurationウィンドウにアクセスするには、SHIFT+F2を押します。

#### Webベースインターフェース内

サーバーが収録開始していない時、Multicam SetupウィンドウからMulticam Configurationウィンドウへアクセスするには、設定したいコンフィグラインのEditアイコン  をクリックします。

Multicam Configurationウィンドウが開きます。

サーバー収録中には、Webベースインターフェースインターフェース上に、Multicam Configurationウィンドウが直接表示されます。

動作中のコンフィグを、直接変更できます。



## 表示モード

Multicam Configurationウィンドウ内の設定は、通常使用されるかどうかにより、basic/advanced設定に分類されています。

その結果、2つの表示モードがあります：

- Basic(ベーシック)モード
- Advanced(アドバンスド)モード

ベーシックモードを選択すると、ページ上の一部の設定が表示されなくなる、またはページを表示なくなります。

サーバーベースアプリケーションで表示モードを変更するには、F3を押します。

Webベースインターフェースで表示モードを変更するには、

表示モードラベル

Basic mode

または

Advanced mode

をクリックします。



## ユーザーインターフェース

### サーバーベースアプリケーションのユーザーインターフェース

以下のスクリーンショットは、サーバーベースアプリケーションでの、Multicam Configurationウィンドウの第1タブ、第1ページを、アドバンスモードで表示しています：

- タイトルバーは、選択されているコンフィグを表示し、コンフィグが立ち上がったか(起動中)、そうでないか(停止中)かを表示します。
- 選択されたタブは、ピンク色に表示されます。
- タブ内の現在のページとページ番号は、右上の隅に表示されます。
- 表示モード(ベーシックかアドバンスか)も、右上の隅に表示されます。

```

CONFIGURATION Facility Name 10. NOT RUNNING
1.SERUER 2.CHANNELS 3.NETWORK 4.MONITORING 5.PROTOCOL 6.GPI 7.OPERATION
1/2 Advanced Mode

Video and reference
Field rate      59.94Hz
Resolution      1080i
LTC timecode    08:23:41:19 OK
Sync PC time to TC Yes every 00h15
Genlock         Blackburst OK Studio

Codec Intra
In Use          Yes
Codec           AVID DNxHD 145
Bitrate <Mbps>  145
Horizontal res. 1920 pixels

The codec used for the playout is the AVID DNxHD 145

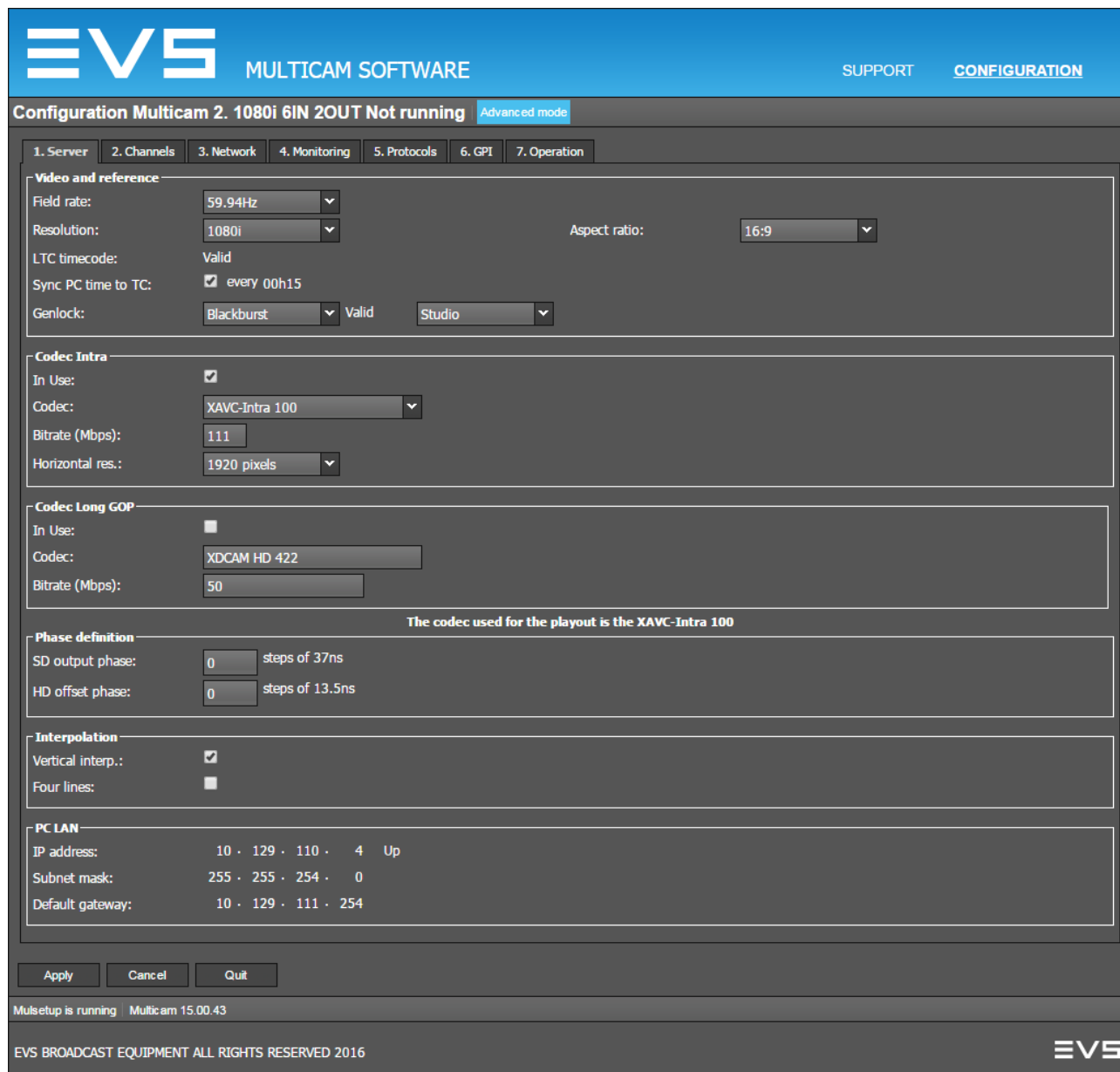
ALT+A:Apply F3:Basic/Advanced Esc:Quit PgUp/PgDn:Change page F1:Help

```

## Webベースインターフェースのユーザーインターフェース

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースの、Multicam Configurationウィンドウの第1タブを、ベーシックモードで表示しています：

- 上部ラインは、選択されているコンフィグ名を表示し、コンフィグが立ち上がったか(起動中)、そうでないか(停止中)かを表示します。
- 選択されたタブは、少し薄い灰色で表示されます。
- 表示モード (ベーシックかアドバンスト)は、上部のラインに表示されます。



## 4.1.3. Multicam Configurationウィンドウ内の画面操作と編集

### サーバーベースアプリケーション内

#### 操作コマンド

以下のテーブルでは、Multicam Configurationウィンドウ内の操作方法を示します：

コマンド説明	コマンドキー
タブの選択	CTRL + tab 番号
あるタブから別のタブに移動する方法 (タブが選択されると、紫色にハイライトされる)	LEFT ARROW / RIGHT ARROW
有効なタブのページ内を上下に移動	PAGE DOWN または PAGE UP
編集可能な設定リスト内を下に移動	TAB
編集可能な設定リスト内を上を移動	SHIFT + TAB
ベーシックとアドバンスの表示モードの切り替え	F3

#### 編集コマンド

以下のテーブルでは、Multicam Configurationウィンドウ内の、フィールドが選択された時の(TABキーを使って行ないます)、コンフィグ設定の編集コマンドを示しています。

テキストフィールド内では、直接値を入力できます。

コマンド説明	コマンドキー
数値を増やす (もしくはリストの中で、次の値を表示)	スペースバー
数値を減らす (もしくはリストの中で、前の値を表示)	SHIFT+スペースバー
テキストフィールド内で、カーソルを移動	SHIFT+ → /←
選択設定の値をリセット	F5
選択コンフィグの現在のタブの全設定の全値のリセット	CTRL+F5
選択コンフィグの全てのタブの全設定の全値のリセット	CTRL+SHIFT+F5
変更を適用	ALT+A
変更を適用せずコンフィグ画面より出る	ESC、ENTER



## リスト内の値の有効化

設定の中には、値を有効にする必要があるものもあります。

例： Operationタブ内のページの選択(receive pages、protect pages)。

有効になったページは青色になり、無効化されたページはハイライトされません。

値のリストを有効にするには、以下を行います：

1. 値一覧を、TABキーで選択します。  
値一覧が選択されると、有効になった値は青色にハイライト、無効化された値はピンク色にハイライトされます。
2. キーボード上では、有効にしたい値数値/文字を打ち込みます。  
すると、青色にハイライトされます。
3. 変更をALT+Aで反映し、確定します。

## Webベースインターフェース内

### 操作と編集コマンド

Webベースインターフェースの操作と編集コマンドは、Webベースインターフェースではよく使われるコマンドです。

有効なコマンドボタンは、以下の通りです：

コマンド説明	コマンドキー
アドバンスト表示モードを有効にする	Basic mode
ベーシック表示モードに戻る	Advanced mode
変更を反映	Apply
変更をキャンセル	Cancel

## サーバーとWebベースインターフェース内

### 変更された値の表示と確認

一度変更されると、変更が反映されない限り、フィールド値は青色で表示されます。

一貫性のないもしくは矛盾するフィールド値のチェックは、この段階では行いません。

変更を反映すると、以下が起きます：

- 変更した値は、チェックされます。  
設定値に一貫性がない場合、ここでエラーメッセージが表示されます。
- 確定された値は、元の色に戻ります。
- 一貫性のない箇所は、以下の通り表示されます：
  - 一貫性のない値は、赤色表示されます。
  - 警告メッセージで、問題のあるフィールド値を示します。
  - サーバーベースアプリケーションを使っていると、一貫性のないフィールド値を含んでいるページを表示します。

## 4.1.4. NanoリモコンのSetupメニュー概要

### 序文

SportLightモードで操作するとき、Nanoリモコン上で使用可能なTechnicalとOperational Setupメニューで、以下を設定できます：

- よく使われるテクニカル設定（Technical Setupメニュー内）
- 全てのオペレーション設定（Operational Setupメニュー内）

設定に割り当てられた値は、変更すると、すぐに保存されます。

### Technical Setupメニューへのアクセス

Technical Setupメニューにアクセスするには、Main SetupページよりF0を押します。

Technical Setupメニューが、第1ページで開きます。

Technical Setupは、セクションとサブセクションに分けられており、Tx.yという名前で、xがセクション番号、yがサブセクション番号を表します。

このマニュアル内のMulticam Configurationウィンドウの全てのタブに該当するセクションで、Technical Setupメニュー内で利用可能な設定を一覧表示しているテーブルの概要と各設定を確認できる章を確認できます。



#### 注意

NanoリモコンのSetupメニューは、EVSサーバーのコンフィグと有効なライセンスコードに従って動的に調整されます。

従って、Nanoリモコン上で利用可能な設定は、Setupメニュー内で固定した位置を持っていません。

### Operational Setupメニューへのアクセス

Operational Setupメニューにアクセスするには、以下を行います：

1. Playlistモードにいる場合、まずRECORDを押し、このモードを抜けます。
2. **SHIFT + MENU** を押して、Mainメニューに移動します：

			Setup
1PGM+PRV	2/3 PGM		

3. **SHIFT + D** を押しSetupを選択し、Operational Setupメニューに入ります。

Operational Setupメニューは、セクションとサブセクションに分けられており、x.yという名前で、xがセクション番号、yがサブセクション番号を表します。



## 4.1.5. NanoリモコンのSetupメニューの参照と編集

### 序文

設定の参照及び編集方法は、Technical SetupメニューとOperational Setupメニューで、同じです。  
参照と編集コマンドについて、以下で説明します。

### 参照コマンド

以下のテーブルでは、NanoリモコンのSetupメニュー内の参照コマンドを示します：

コマンド説明	コマンドキー
別セクションへの移動（セクション内にいるとき）	SHIFT+セクションに対応する F_ キー
セクション内で、次のページに移動する セクションの最終ページにいる場合には、次のセクションの最初のページに移動します	F10
セクション内で、前のページに移動する セクションの最初のページにいる場合には、前のセクションの最終ページに移動します	F9
Setupメニューを出る	Menu
ジョグを使い、セクションページをスクロールする	ENTER (設定が選択されていないとき)+ jog

### 編集コマンド

以下のテーブルでは、NanoリモコンのSetupメニュー内の設定変更コマンドを示します：

コマンド説明	コマンドキー
セクションの中の設定の選択	目的の設定に対応するF_ キー
設定値の変更	ジョグホイールを回す
設定値の変更の確定	ENTER
選択設定にデフォルト値をリストア	CLEAR +目的の設定に対応するF_ キー
全Setupメニュー上のデフォルト値をリストア	CLEAR + F0
Setupメニュー内の変更を確定する (メニューから出る時メッセージに答える)	MENU
Setupメニュー内の変更をキャンセルする (メニューから出る時メッセージに答える)	CLEAR
Setupメニュー内に留まる (メニューから出る時メッセージに答える)	ENTER



## 4.1.6. アプリケーションのリブートが必要な時

### 序文

アプリケーションのリブート後にのみ、パラメータの変更が有効になる場合があります。

以下のパラメータを変更したら、メッセージにより、Multicamのリブートが必要と告げられます。

パラメータは以下にまとめられていますが、リブートが必要な際には、パラメータの説明が表示されます：

タブ名	設定名
Serverタブ	一部のビデオとリファレンス設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Field rate: フィールドレート</li> <li>● Resolution: 解像度</li> <li>● LTC timecode: タイムコード</li> </ul>
Serverタブ	全てのcodec: コーデック設定
Serverタブ	全てのPC LAN設定 (Multicam Setupウィンドウからのみ編集可能)
Channelsタブ	一部の基本設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Inputs: 入力</li> <li>● Outputs: 出力</li> <li>● Base config: コンフィグ</li> </ul>
Channelsタブ	1つのオーディオ設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Number of tracks: トラック数</li> </ul>
Channelsタブ	1つのレコーダー設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>● REC capacity: 記録容量</li> </ul>
Networkタブ	全てのGigabit設定： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Gigabit connection: 接続</li> <li>● Gigabit IP configuration: IP設定</li> </ul>



## 4.2. Serverタブ

### 4.2.1. 概要

Serverタブは、ビデオコーデック/規格、タイムリファレンス、フェーズ設定、補間、PC LANに関連する設定をカバーしています。

以下のテーブルでは、Serverタブについて示しています。

設定が可能なら、対応するカラム内に x印が付けられています:

- basic/advancedモード (サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース)
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内 (T1.X)

設定名	Basic	Advanced	Technical Setup
<b>Video and reference設定</b>			
Field rate	X	X	–
Resolution	X	X	–
Aspect ratio	X	X	–
LTC Timecode	X	X	–
Sync PC Time to TC	–	X	–
Genlock	X	X	–
<b>Codec設定</b> (Intra)			
Codec	X	X	–
Bitrate	X	X	–
Horizontal Res./Recorded Lines	–	X	–
<b>Phase definition設定</b>			
SD output phase	–	X	X
HD offset phase	–	X	X
HD output phase	–	X	X
SD offset phase	–	X	X
<b>Interpolation設定</b>			
Vertical interp.	–	X	X
Four Lines	–	X	X
<b>PC LAN設定</b>			
IP Address	X	X	–
Subnet Mask	X	X	–
Default Gateway	X	X	–

## 4.2.2. ビデオコーデックとリファレンス

### Video and reference設定

#### ユーザーインターフェース

Video and reference設定は、サーバーベースアプリケーション(第1ページ)とWebベースインターフェース内のServerタブ上で可能です。

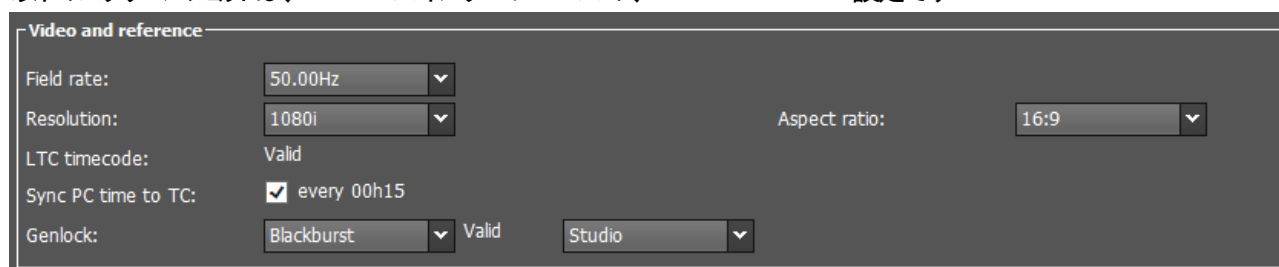
これらの設定は、NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内にはありません。



#### 警告

ほとんどのVideo and reference設定(Sync PC time to PCとGenlock以外の全て)は、設定変更を反映させるために、アプリケーションのリブート(操作画面からALT+Q)が必要です。

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースの、Video and reference設定です：



#### Field Rate (フィールドレート)

説明	フィールドの周波数 (Hz)。 フィールドレートと解像度で、ビデオ規格を決定。
値	50.00 Hz (PAL) – デフォルト値 59.94 Hz (NTSC) 59.94 Hz (J)

#### Resolution (解像度)

説明	縦方向の解像度 (映像の上から下へ見える、白から黒及び黒から白へのトランジションの数 (ピクセル +タイプ)。 フィールドレートと解像度の両方が、ビデオ規格に該当します。 XTnanoサーバーでは、該当するライセンスコードが有効であれば、SDとHDのビデオ規格を利用できます
値	SD: ● 525i ● 625i HD: ● 720p ● 1080i ● 1080p (コード21 または 22でのみ有効)



## Aspect ratio (アスペクト比)

説明	入力ビデオ信号の素材に対し、アスペクト比を設定します。
値	以下の値が有効です： SD： ● 16:9 ● 4:3 ● 4:3 Letterbox: 黒縞が映像の上下に表示され、最大幅を補間します。 ● 16.9 Pillarbox: 黒縞が映像の左右に表示され、欠けているピクセルを補います。 HD： ● 16:9 ● 16.9 Pillarbox
デフォルト値	16: 9

## LTC Timecode (タイムコード)

説明	EVSサーバーに供給されるLongitudinal timecode (ビデオとは別トラックに保存されるタイムコード情報) とタイムコードステータス。
値	タイムコードは、hh:mm:ss:frで提供されます。 (サーバーベースアプリケーション上のみ) タイムコードのステータスは、 'OK' もしくは 'Valid'、'BAD'、'LOST'、'DRIFT' (EVSサーバーで設定されます)。

## Sync PC Time to PC (PCの時間をTCIに同期させる)

説明	PC時間をタイムコードと同期するか、またどの程度の頻度で同期させるかを設定します。
値	Synchronization (同期): Yes/No Frequency (頻度): デフォルトは '00h15' (編集不可)

## Genlock

説明	Genlock信号のタイプ、ステータス、フレームシンクロナイザーモードを指定します。
値	Type (タイプ): 'Blackburst (ブラックバースト)' または 'Tri-Sync (3値)' (SDでは常にBBです) Status (ステータス): 'OK' または 'Valid' または 'BAD' (EVS サーバーで設定) Mode (モード): 'Studio' (ビデオ信号シフト補正なし)、または 'Resync' (ビデオ信号シフト再同期)



## Codec (コーデック)設定

### 序文

XTnanoサーバーは、同時に、レコードトレインを、1つのコーデックタイプでエンコード可能です。  
Multi-essenceは、サポートされていません。

### ユーザーインターフェース

Codec(コーデック)設定は、サーバーベースアプリケーション(1番目のページ)とWebベースインターフェース内のServerタブ上にあります。

これらの設定は、NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内にはありません。



#### 警告

コーデック設定は、変更を有効にするには、アプリケーションのリブートが必要です。  
(オペレーションウィンドウから、ALT + Q)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースでの、Serverタブ上のCodec設定を示しています：

### Codec (Codec Intra)

説明	ビデオ信号の圧縮/伸張使用するアルゴリズム。 Intraコーデックでは、現在のフレームに含まれる情報に関連して、排他的に圧縮されます。
値	SD: <ul style="list-style-type: none"> <li>● Mjpeg (SD)</li> <li>● IMX</li> <li>● DVCPPro 50</li> </ul> HD: <ul style="list-style-type: none"> <li>● Mjpeg EVS (HD)</li> <li>● Mjpeg Standard (HD)</li> <li>● Mpeg 2 Intra (HD)</li> <li>● Avid DNxHD 120、185、185x (50Hzのみ)</li> <li>● Avid DNxHD 145、220、220x (59.94Hzのみ)</li> <li>● Apple ProRes 422、422LT、422 HQ</li> <li>● DVCPPro HD</li> <li>● AVC-Intra 100</li> <li>● XAVC-Intra 100</li> </ul>
デフォルト値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IMX (SD)</li> <li>● Avid DNxHD 120 (HD 50Hz)</li> <li>● Avid DNxHD 145 (HD 59.94Hz)</li> </ul>

**注意**

EVSサーバーがAVC-Intraコーデックで動作するように設定した時には、送出に、XAVC-Intraコーデックも使用可能です。

逆も、同様に、可能です。

**Bitrate (ビットレート)**

説明	メガビット処理数/秒 (Mbps)。 ビットレートは、コーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。

**Horizontal Res. (HD) (水平解像度)**

説明	映像の左から右へ見える、白から黒及び黒から白へのトランジションの数(ピクセル) 設定値は、ビデオ規格とコーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。

**Recorded Lines (SD) (収録ライン数)**

説明	映像の上から下まで記録されるライン数。 設定値は、ビデオ規格とコーデックに依存します。
値	関連する章を参照下さい。



## 使用可能なコーデック

### 序文

コーデックが使えるか否かは、主に、該当するライセンスコードが適用されているか否かによります。

### Codec Intra

Intraコーデックは、該当するライセンスコードが有効な時に使えます。

XTnanoサーバーでは、購入時に1つIntraコーデックを選択します。

### ライセンスコード

以下のテーブルは、XTnanoサーバーで利用可能なコーデックとライセンスコードの関係を示しています。

XTnanoサーバーでは、購入時に1つIntraコーデックを選択します。

SD コーデック	V3Xコーデックボード
IMX	コード <sup>11</sup>
Mjpeg (SD)	コード <sup>10</sup>
DVCPro 50	コード <sup>9</sup>

HD コーデック	V3Xコーデックボード
Mjpeg Standard (HD)	コード <sup>10</sup>
Mjpeg EVS (HD)	
Mpeg-2 Intra (HD)	コード <sup>12</sup>
Avid DNxHD®	コード <sup>5</sup>
Apple ProRes 422、422 LT、422 HQ	コード <sup>6</sup>
DVCPro HD	コード <sup>8</sup>
AVC-Intra	コード <sup>13</sup>
XAVC-Intra HD	





## コーデック関連情報

### ビットレートと記録ライン数 (SD 525i)

コーデックタイプ	SD Mjpeg Standard	SD IMX (D10)	DVCPPro 50
ビットレート	20–100 Mbps	30; 40; 50 Mbps	50 Mbps
デフォルトビットレート	30 Mbps	30 Mbps	50 Mbps
記録ビデオライン	496 lines (L16–23; L278–525) デフォルト	512 lines (L7–262; L270–525)	480 lines (L23–262; L285–524)
	480 lines (L23–262; L286–525)		
	512 lines (L7–262; L270–525)		

### ビットレートと記録ライン数 (SD 625i)

コーデックタイプ	SD Mjpeg Standard	SD IMX (D10)	DVCPPro 50
ビットレート	20–100 Mbps	30;40;50 Mbps	50 Mbps
デフォルトビットレート	30 Mbps	30 Mbps	50 Mbps
記録ビデオライン	576 lines (L23–310; L336–623) デフォルト	608 lines (L7–310; L320–623)	576 lines (L23–310; L335–622)
	592 lines (L15–310; L328–623)		
	608 lines (L7–310; L320–623)		



## ビットレートと水平解像度 (HD 720p 50Hz)

コーデック	HD Mjpeg EVS	HD Mjpeg Standard	HD Mpeg-2 Intra	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100	DVCPPro HD
ビットレート (Mbps)	20-320	20-320	20-260	111	100
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100
水平解像度	640	640	640	1280	960
	768	768	768		
	960	960	960		
	1024	1024	1024		
	1280 (デフォルト)	1280 (デフォルト)	1280 (デフォルト)		

コーデック	AVID DNxHD 115	AVID DNxHD 175	AVID DNxHD 175x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ
ビットレート (Mbps)	1-115	116-185	116-185	85	120	185
デフォルトビットレート	115	175	175	85	120	185
水平解像度	1280	1280	1280	1280	1280	1280



## ビットレートと水平解像度 (HD 720p 59.94Hz)

コーデック	HD Mjpeg EVS	HD Mjpeg Standard	HD Mpeg- 2 Intra	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100	DVCPPro HD
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20-260	111	100
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100
水平解像度	640	640	640	1280	960
	768	768	768		
	960	960	960		
	1024	1024	1024		
	1280 (デフォルト)	1280 (デフォルト)	1280 (デフォルト)		

コーデック	AVID DNxHD 145	AVID DNxHD 220	AVID DNxHD 220x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ
ビットレート (Mbps)	1-145	146-220	146-220	102	145	220
デフォルトビットレート	145	220	220	102	145	220
水平解像度	1280	1280	1280	1280	1280	1280

### 注意

ダイナミックビットレート管理システムは、エンコードされたストリームのビットレートを、極力、目標に近く保持するために、各収録フィールドの圧縮テーブルを変更します。

高ビットレートは、より高画質な映像を意味しますが、ストレージ容量を少なくし、高帯域幅が要求されます。不適切な値は、ディスクパフォーマンスを低下させ、再生時に、映像をフリーズさせることもあります。



## ビットレートと水平解像度 (HD 1080i 50 Hz)

コーデック	HD Mjpeg EVS	HD Mjpeg Standard	HD Mpeg-2 Intra	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100	DVCPPro HD
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20-260	111	100
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100
水平解像度	960	960	960	1920	1440
	1152	1152	1152		
	1280	1280	1280		
	1372	1372	1372		
	1440	1440	1440		
	1536	1536	1536		
	1600	1600	1600		
	1920 (デフォルト)	1920 (デフォルト)	1920 (デフォルト)		

コーデック	AVID DNxHD 120	AVID DNxHD 185	AVID DNxHD 185x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ
ビットレート (Mbps)	1-120	121-185	121-185	85	120	185
デフォルトビットレート	120	184	184	85	120	185
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920



## ビットレートと水平解像度 (HD 1080i 59.94 Hz)

コーデック	HD Mjpeg EVS	HD Mjpeg Standard	HD Mpeg- 2 Intra	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100	DVCPPro HD
ビットレート (Mbps)	20-260	20-260	20-260	111	100
デフォルトビットレート	100	100	100	111	100
水平解像度	960	960	960	1920	1280
	1152	1152	1152		
	1280	1280	1280		
	1372	1372	1372		
	1440	1440	1440		
	1536	1536	1536		
	1600	1600	1600		
	1920 (デフォルト)	1920 (デフォルト)	1920 (デフォルト)		

コーデック	AVID DNxHD 145	AVID DNxHD 220	AVID DNxHD 220x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ
ビットレート (Mbps)	1-145	146-220	146-220	102	145	220
デフォルトビットレート	145	220	220	102	145	220
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920



## ビットレートと水平解像度 (HD 1080p 50 Hz)

以下のテーブル内の値は、最大6 x 1080pチャンネルで有効です。

コーデック	AVID DNxHD 240	AVID DNxHD 365	AVID DNxHD 365x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100
ビットレート (Mbps)	1–242	243–367	243–367	170	245	367	222
デフォルトビットレート	242	367	367	170	245	367	222
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920	1920

## ビットレートと水平解像度 (HD 1080p 59.94 Hz)

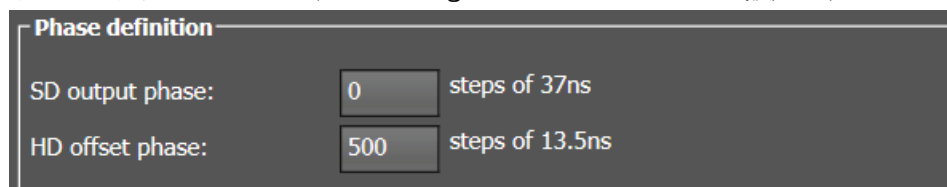
コーデック	AVID DNxHD 290	AVID DNxHD 440	AVID DNxHD 440x (10b)	Apple ProRes 422 LT	Apple ProRes 422 SQ	Apple ProRes 422 HQ	AVC-Intra 100 XAVC-Intra 100
ビットレート (Mbps)	1–291	292–440	292–440	204	293	440	222
デフォルトビットレート	291	440	440	204	293	440	222
水平解像度	1920	1920	1920	1920	1920	1920	1920

## 4.2.3. Phase Definition (位相調整)設定

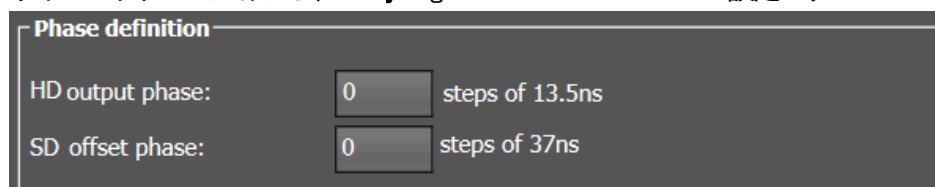
### NEW ! ユーザーインターフェース

Phase definition設定は、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンスモード)のServerタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、**Blackburst** genlockでのPhase definition設定です：



以下のスクリーンショットは、**Tri-Sync** genlockでのPhase definition設定です：



### SD Output Phase

有効性	パラメータは、 <b>Blackburst</b> genlockでのみ有効です。
説明	SD出力用のフェーズ調整を行えます。 値は、37nsステップで調整でき、これはSDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(37ns)単位、-12000ns～+15000 ns
デフォルト	0

### HD Offset Phase

有効性	パラメータは、 <b>Blackburst</b> genlockで、HDビデオ規格を使用している時のみ有効です。
説明	SD出力と比較したHD出力のフェーズのシフト調整を行えます。 値は、13.5nsステップで調整でき、これはHDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(13.5ns)単位、-1000ns～+1000 ns
デフォルト	0

### HD Output Phase

有効性	パラメータは、 <b>Tri-Sync</b> genlockで使用している時のみ有効です。
説明	HD出力のフェーズ調整を行えます。 値は、13.5nsステップで調整でき、これはHDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(13.5ns)単位、-30000ns～+32000 ns
デフォルト	0



## SD Offset Phase

有効性	パラメータは、Tri-Sync genlockでのみ有効です。
説明	HD出力と比較したSD出力のフェーズのシフト調整を行えます。 値は、37nsステップで調整でき、これはHDの1/2ピクセルに対応します。
値	ハーフピクセル(13.5ns)単位、-400ns～+400 ns
デフォルト	0



### 警告

- SD位相は、常にSDI出力に従って調整されます。  
内部CVBS出力は、対応するSDI出力に比べて48 x 37nsの遅れがあります。
- 内部CVBS出力は、内部でクロマのサブキャリア位相を調整できないため、  
直接ビジョンミキサー/ビデオエフェクト装置に入力できません。



## 4.2.4. Interpolation(補間)設定

### ユーザーインターフェース

Interpolationは、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンスモード)のServerタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのServerタブ上のInterpolation設定です：



### 一般的な説明

補間プロセスは、スローモーションリプレイ時の映像の縦方向ジッタ低減を目的としています。

この縦方向ジッタは、実際には、100%より低い速度で映像を再生するとき、フレームパリティの違反により起きます。

プロセスは、より透明性のある結果を出すための新しいフレームの再生成によりコンフィグされています。

これらのフレームは補間されなければならない、隣接するラインの最適な加重平均を作成し計算します。

2つの補間モードがあります：2ライン補正と4ライン補正。

これらは、互いに排他制御はありません。

- 2ライン補間は、縦方向のジッタを減らしますが、縦方向のバンド幅も減らします。
- 4ライン補間は、完全に安定した映像を得られますが、さらに縦方向のバンド幅を減らします。



#### 注意

全てのVTRIは、PLAY VARモード時に、補間を使用します。

### Vertical Interp. (Vertical Interpolation)

説明	2ライン補正をオン/オフします。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● No (デフォルト)</li> <li>● Yes</li> </ul>

### Four Lines

説明	4ライン補正をオン/オフします。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● No (デフォルト)</li> <li>● Yes</li> </ul>



## 4.2.5. PC LAN設定

### ユーザーインターフェース

PC LAN設定は、EVSサーバーのH3XPボードが、他のEVSハードウェアと通信し情報を交換できるように設定できます。PC LAN設定は、サーバーベースアプリケーション(第2ページ)とWebベースインターフェース(アドバンスモード)のServerタブ上にあります。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのServerタブ上のPC LAN設定です：

**PC LAN**

IP address:	10 . 129 . 110 . 21	Up	Up
Subnet mask:	255 . 255 . 254 . 0		
Default gateway:	10 . 129 . 111 . 254		



#### 注意

PC LAN設定は、Multicam Configurationウィンドウ内では、読取専用です。  
Multicam Setupウィンドウ内で、**Set LAN PC address**コマンドで設定できます。

### IP Address

<b>NEW</b>	サーバー上のH3XPボード上の内部スイッチモジュールのポート #1に接続するIPアドレス。
<b>説明</b>	PC LAN接続のステータスが、IPアドレスの横に表示されます。 冗長化がオンの時には、両方のPC LANのステータスが表示されます。
<b>NEW</b>	IPアドレス 0.0.0.0 と 255.255.255.255 は、許可されません。
<b>値</b>	接続ステータスは、 <b>up</b> または <b>down</b> です。

### Subnet Mask

<b>説明</b>	内部スイッチモジュールのポート #4に割り当てられるアドレススペース内の論理アドレス範囲。
-----------	---

### Default Gateway

<b>説明</b>	内部スイッチモジュールのポート #4が、外部ネットワークのアクセスポイントとして利用可能なネットワーク上のルーターのIPアドレス
-----------	--



## 4.3. Channelsタブ

### 4.3.1. 概要

以下のテーブルでは、Channelsタブの設定を示しています。

設定可能であれば、対応するカラム内に x が表示されています：

- サーバベースアプリケーションとWebベースインターフェース内のベーシック/アドバンスト表示モード内  
Webベースインターフェース内、設定は1つのページ上に全て表示されます。
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー(T2.X)内

Channelタブには、ビデオとオーディオチャンネル、レコーダーのタイプとコンフィグ、オーディオ形式とオーディオビデオ同期パラメータ、に関連する設定があります。

設定名	Basic	Advanced	Technical Setup
<b>Base settings</b>			
Inputs	X	X	X
Outputs	X	X	X
Base config	X	X	X
3D	X	X	X
3G/Dual	X	X	X
<b>SLSM settings</b>			
Number of cameras	X	X	X
SLSM speed	X	X	X
Parity	X	X	X
<b>Port settings</b>			
RS422 #1-#4		X	X
<b>Channels and control settings</b>			
OUT1-4 / IN1-4	X	X	X
Name	X	X	X
Main ctrl	X	X	X
Sec. ctrl	—	X	X
Mode	—	X	X
OSD	—	X	
<b>Audio settings</b>			
Audio connectors	X	X	X
Number of tracks	X	X	X
Audio full scale	—	X	X
Ancillary mode	—	X	X
Sample rate conv.	—	X	X
Audio monitoring group	X	X	X
Mon #1-#4	X	X	X
<b>Advanced audio settings (Inputs)</b>	—	X	—



Advanced audio settings (Embedded outputs)	—	X	—
Advanced audio settings (Digital AES/EBU outputs)	—	X	—
Advanced audio settings (Analog outputs)	—	X	—
Recorder settings			
Loop recording	—	X	X
Rec auto start	—	X	X
Clip Capacity	—	X	X
Rec capacity	—	X	X
Timecode settings			
LTC	—	X	—
User	—	X	X
Primary TC	—	X	X
SMPTE 334M packets management settings			
Decoding	—	X	X
Encoding	—	X	X
Custom 1 / 2	—	X	—
SD OUT Encoding	—	X	—
Timecode insertion settings			
IN Loop settings	—	X	—
SD OUT settings	—	X	—
HD OUT settings	—	X	—



## 4.3.2. Channels

### Base Settings

#### ユーザーインターフェース

Base設定では、プレイとレコードチャンネルに関するコンフィグの主な特徴を設定できます。



#### 警告

特定のベース設定(Inputs、Outputs、Base config.)では、変更を有効にするには、アプリケーションのリブート(オペレーションウィンドウからALT+Q)が必要です。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- サーバベースアプリケーションとWebベースインターフェースのベーシック/アドバンスド表示モード内、Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのBase設定です：

### Inputs (入力)

説明	設定内の論理レコードチャンネル数、SLSMLレコーダを含む。 チャンネル間のディスクストレージのパーティション、及びadvanced audio設定が、自動的にレコードチャンネルに適用されます。
値	サポートチャンネル数は、筐体とモードに依存します： ● XTnano: 1-8 (SportLight)、0-8 (Server)

### Outputs (出力)

説明	設定内の論理プレイチャンネル数。
値	● XTnano: 1-2 (SportLight)、0-4 (Server)



## Base Config.

説明	EVSサーバーが動作するモード。 使用可能なベースコンフィグは、サーバータイプと有効なライセンスコードに依存します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Server:</b> EVSサーバーが、サポートされた業界標準のプロトコル: Sony BW75、VDCP、Odetics、DD35 から制御できますが、Multicam production screensからでは制御できません。 ライセンスコード: 101</li> <li>● <b>SportLight:</b> EVSサーバーが、NanoリモコンまたはMulticam production screensから操作されるモード。 ライセンスコード: 80 ... 82</li> </ul>
デフォルト値	SportLight

## 3D

有効	パラメータは、 ライセンスコード23: 3D Dual Link用 ライセンスコード24: 3D 3G用 でのみ有効です。
説明	Dual Linkもしくは3G-SDI規格を使用して、3Dオプションをアクティブにします。 このオプションで、サーバーを、3Dビデオのレコード/プレイで使用可能です。
値	Yes / No (デフォルト)。

## 3G/Dual

説明	EVSサーバーが、3Dもしくは1080p規格で使用するインターフェースを設定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>● Dual Linkインターフェース: 1ペアのHD-SDIシリアルリンク、2.970 Gbit/sのビットレートを提供します。</li> <li>● 3G-SDIインターフェースは、XTnanoサーバーでは、サポートされていません。</li> </ul>
値	以下の値が使用可能です: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>No:</b> どんな場合でも有効</li> <li>● <b>Dual (3D):</b> Dual-Link for 3D ○ コード23 + 3D設定=Yes</li> </ul>
デフォルト値	No



### 警告

ライセンスコードで許可されたコンフィグのみが、起動できます。

例: コード22(1080p 3G)と23(3D Dual-Link)があっても、Multicam Configurationウィンドウ内で、3G3D Dual-Linkと選択できますが、3D 3Gでサーバーを起動できません。

3D 3Gコンフィグを起動可能にするには、コード24がアクティブでなければなりません。



### 注意

3G/Dualパラメータの1つのモード(Level-A、Level-B、Dual)で記録されたクリップは、他のモード(Level-A、Level-B、Dual)でも再生可能です。

## SLSM Settings

### ユーザーインターフェース

SLSM設定では、SLSMレコーダに特別なパラメータを設定できます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

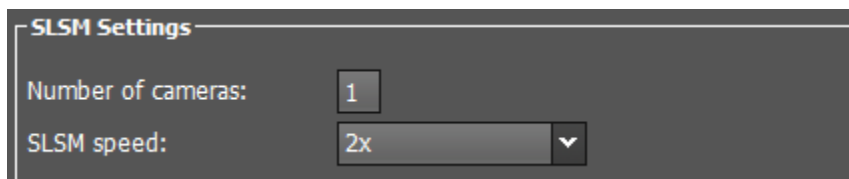
- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスト表示モード。  
(サーバーとWebベースインターフェース上)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)



#### 警告

SLSM設定は、ライセンスコード110(Supermotion)または26(U-Motion)が有効な場合にのみ使用できます

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのSLSM設定です：



### Number of Cameras

説明	使用するコンフィグでの、SLSMカメラの台数。 1台のSLSMカメラが、1つの論理レコードチャンネルに対応します。
値	カメラの最大数は、SLSM速度と、レコードチャンネルの全体数に依存します。 値の範囲： 0～2
デフォルト値	0

### SLSM Speed

説明	SLSMカメラが入力信号を記録するフレームレート、標準フレームレート(24FPS 50Hz、30FPS 59.95Hz)の倍数で表現されます。
値	2x、3x
デフォルト値	2x

### Parity

有効性	この設定は、SDコンフィグ時に表示されます。
説明	Identical(同一)か、alternate(代替)パリティかを設定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Identical</li> <li>● Alternate</li> </ul>
デフォルト値	Alternate

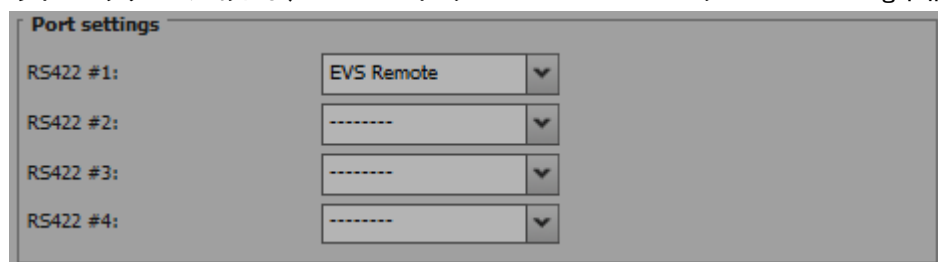
## Port settings

### ユーザーインターフェース

Port設定では、RS422ポートを、EVSサーバーと通信する各種外部制御機(EVSまたはサードパーティ)に割り当てできます。これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスド表示モード。  
(サーバーとWebベースインターフェース上)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのPort settings画面です：



### RS422 #1 – #4

説明	EVSサーバーの各RS422ポートに接続される、デバイス/コントローラのタイプを設定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EVS Remote: Nanoリモコン用 (コード 80)</li> <li>● Sony BVW75: (コード 118)</li> <li>● XtenDD35: (コード 118)</li> <li>● Odetics (Odetics FK): (コード 119)</li> <li>● VDCP (VDCP FK): (コード 119)</li> </ul>
デフォルト	RS422 #1 (のみ): Sony BVW75

#### 注意

Odetics FKとVDCP FKはポート設定から直接使用できませんが、RS422ポートにOdeticsまたはVDCPプロトコルを割り当てると、Channels and Control settings内のMain Ctrlフィールド上で、Fill and Keyモードが使用可能になります。



## Channels and Control settings

### ユーザーインターフェース

Channels and Control設定では、主に、どのコントローラが、どのPLAY/RECORDチャンネルをコントロールするか(Main/Secondary)を設定できます。

以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、ベーシックとアドバンスト表示モード。  
(サーバーとWebベースインターフェース上)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのChannel and Control settingsです：

Channel and control settings									
		Name	Main ctrl	Port	Sec. ctrl	Port	Mode	OSD	
OUT1	PGM1	PGM1	EVS Remote		-----		Exclus	Main	
OUT2	PGM2	PGM2	EVS Remote		-----		Exclus	Main	
IN1	REC1	REC1	EVS Remote		-----				
IN2	REC2	REC2	EVS Remote		-----				
IN3	REC3	REC3	EVS Remote		-----				
IN4	REC4	REC4	EVS Remote		-----				

### Name

**説明** PLAY/RECORDチャンネルのユーザー設定名。  
この名前は、OSDとIPDirectorソフトで使われます。  
名前は、最大24文字です。

### Main ctrl (Main Controller)

**説明** 指定PLAY/RECORDチャンネルのコントロールを許可されるメインのデバイス/コントローラーの名前。

**値** コントローラがこのリスト内で選択可能になるには、最初に、Port settings内でRS422ポートに割り当てられなければなりません。  
さらに、各コントローラに設定されたルールが、コントローラの割り当てに適用されます。  
(単独または他のコントローラとの組み合わせ)  
間違ったプロトコル選択/プロトコル組み合わせの場合には、エラーメッセージが表示され警告し、エラーを含むフィールドは、赤色にハイライト表示されます。

### Sec. ctrl (Secondary Controller)

**説明** 指定PLAY/RECORDチャンネルのコントロールを許可されるセカンダリのデバイス/コントローラーの名前。

**値** コントローラがこのリスト内で選択可能になるには、最初に、Port settings内でRS422ポートに割り当てられなければなりません。  
さらに、各コントローラに設定されたルールが、コントローラの割り当てに適用されます。  
(単独または他のコントローラとの組み合わせ)  
間違ったプロトコル選択/プロトコル組み合わせの場合には、エラーメッセージが表示され警告し、エラーを含むフィールドは、赤色にハイライト表示されます。



## Mode

説明	指定PLAY/RECORDチャンネルを、メインとセカンダリコントロール間でコントロールする方法を指定します (メインとセカンダリコントローラを設定可能なとき)
値	2つのコントロールモードが可能です: <ul style="list-style-type: none"><li>● <b>Exclusiveモード:</b> メインコントローラは、いつでも、セカンダリコントローラにコントロールを渡す、セカンダリコントローラからコントロールを受け取る、かを決定できます。</li><li>● <b>Parallelモード:</b> 他方のコントローラがコマンドを実行していない限り、どちらのコントローラでもコントロール可能です。 従って、自由に、コントロール権を受け渡しできます。</li></ul>

## OSD

説明	Parallelモード時に、どちらのデバイス(メインまたはセカンダリコントローラ)が、OSD表示文字を管理するかを指定します。
値	2つの値が可能です: <ul style="list-style-type: none"><li>● <b>Main:</b> OSD表示は、メインコントローラで管理されます。</li><li>● <b>Sec. :</b> OSD表示は、セカンダリコントローラで管理されます。</li></ul>



## コントローラ割り当てのルール

### XTnanoサーバーの主なルール

XTnanoサーバーでは、以下の主なルールが適用されます：

- SportLightベースコンフィグ：
  - 全てのNanoリモコンは、メインコントローラのリスト内の最初でなければなりません(ギャップなし)。このリスト内で、別のコントローラを、Nanoリモコンより上にはできません。
  - Nanoリモコンは、RECORD/PLAYチャンネルのメインコントローラに割り当てられなければなりません。
  - 他のコントローラは、プロトコル固有ルールを考慮して、PGMのセカンダリコントローラとして割り当てできます
  - RECORDチャンネルは、セカンダリコントローラを持つことはできません。
  - 1台のEVSサーバーのPLAYチャンネルで、Nanoリモコンに割り当て可能な最大数=4です。
  - 1台のNanoリモコンに、割り当て可能な最大チャンネル数=3です。
- Serverベースコンフィグ：
  - Nanoリモコンは、使用できません。
  - プロトコル固有ルールを考慮して、Nanoリモコン以外のコントローラを、PLAY/RECORDチャンネルに割り当てできます。



## プロトコル固有の割り当てルール

### スタンドアロンのプロトコル

以下のテーブルは、スタンドアロン(メインコントローラとしてのみ)での、各プロトコルと、PLAY/RECORDチャンネルの組み合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表しています。

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。

	Nano リモコン	VDCP	Sony	EditRec	Odetics	DD35	VDCP Mix	VDCP F&K	Odetics F&K	LinX
1 PGM							3			
2 PGM									2	
> 2 PGM										
1 REC	1									
> 1 REC										
1 PGM + 1 REC										
Several PGM + 1 REC										
Several PGM + Several REC										

1. 各レコーダー
2. 連続したPGMsのみ
3. Mix on one channelが有効なときのみ

## Exclusiveモードで使用するプロトコル

以下のテーブルは、exclusiveモード(メインコントローラまたはセカンダリコントローラ)での、各プロトコルと、PLAY/RECORDチャンネルの組み合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表しています。

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。

	Nano リモコン	VDCP	Sony	Odetics	DD35	VDCP Mix	VDCP F&K	Odetics F&K	LinX
<b>メインコントローラ</b>									
1 PGM									
2 PGM									
> 2 PGM									
1 PGM									
+ 1 REC <sup>1</sup>									
1 REC									
> 1 REC									
Several PGM									
+ 1 REC <sup>1</sup>									
Several PGM									
+ Several REC <sup>1</sup>									
<b>セカンダリコントローラ</b>									
1 PGM						3			
2 PGM									
> 2 PGM									
1 PGM									
+ 1 REC <sup>1</sup>									
1 REC									
Several PGM									
+ 1 REC <sup>1</sup>									
Several PGM									
+ Several REC <sup>1</sup>									

1. レコーダーは、セカンダリコントローラのexclusiveモードでは制御不可です。

この場合には、レコーダーは、スタンドアローンまたはparallelモードである必要があります。

2. Mix on one channelが有効なときのみ。



## Parallelモードで使用するプロトコル

以下のテーブルは、parallelモード(メイン、セカンダリ、両方)での、各プロトコルと、PLAY/RECORDチャンネルの組み合わせです。

緑色のセルは割り当て可能で、赤色は不可能を表しています。

セル内の番号は、テーブル下の説明に対応しています。

	Nano リモコン	VDOP	Sony	Odetics	DD35	VDOP Mix	VDOP F&K	Odetics F&K	LinX
1 PGM						3			
2 PGM									
> 2 PGM									
1 REC	1								
> 1 REC									
1 PGM									
+ 1 REC									
Several PGM									
+ 1 REC									
Several PGM									
+ Several REC									

1. EditRec.でのみ利用可能です

2. Mix on one channelが有効なときのみ。



## コントローラの組み合わせのルール

### Exclusiveモード – PLAYチャンネル

Secondary > Primary v	Nano リモコン	VDCP	Sony	Odetics	DD35	LinX	Odetics F&K	VDCP F&K	VDCP Mix
Nanoリモコン	–								
VDCP	–	–							
Sony	–		–						
Odetics	–			–					
DD35	–				–				
LinX	–					–			
Odetics F&K	–						–		
VDCP F&K	–							–	
VDCP Mix	–								–

### Exclusiveモード – RECORDチャンネル

Secondary > Primary v	Nano リモコン	VDCP	Sony	Odetics	DD35	LinX	Odetics F&K	VDCP F&K	VDCP Mix
Nanoリモコン									
VDCP		–							
Sony			–						
Odetics				–					
DD35					–				
LinX						–			
Odetics F&K							–		
VDCP F&K								–	
VDCP Mix									–



## Parallelモード – PLAYチャンネル

Secondary > Primary v	Nano リモコン	VDCP	Sony	Odetics	DD35	LinX	Odetics F&K	VDCP F&K	VDCP Mix
Nanoリモコン	–	*		*	*				
VDCP	–	–							–
Sony	–		–						
Odetics	–			–					
DD35	–				–				
LinX	–					–			
Odetics F&K	–						–		
VDCP F&K	–							–	
VDCP Mix	–	–							–

\*parallelモードのこれらのプロトコルの組み合わせには、操作上の制限があります。

## Parallelモード – RECORDチャンネル

Secondary > Primary v	Nano リモコン	VDCP	Sony	Odetics	DD35	LinX	Odetics F&K	VDCP F&K	VDCP Mix
Nanoリモコン	–	–	–	–	–	–	–	–	–
IPDP	–								
Sony	–		–						
Odetics	–			–					
DD35	–				–				
LinX	–					–			
Odetics F&K	–						–		
VDCP F&K	–							–	
VDCP Mix	–	–							–



## Recorder Settings

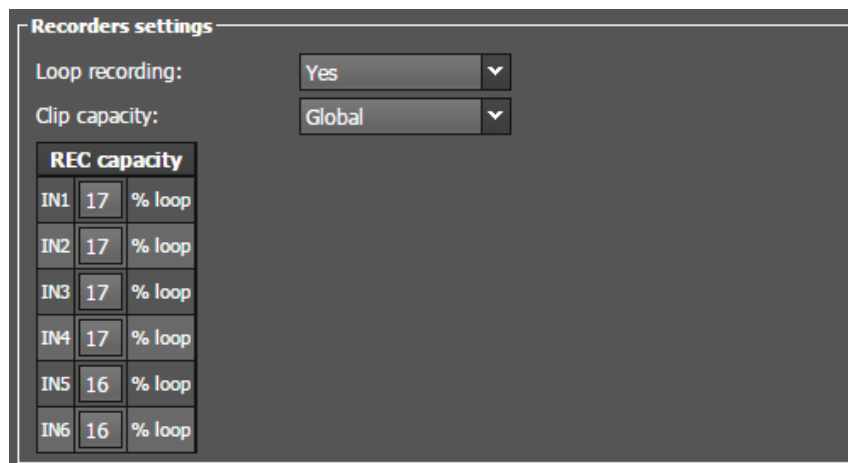
### ユーザーインターフェース

Recorders設定では、RECORDチャンネルに関する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスド表示モード。  
(サーバーとWebベースインターフェース上)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのRecorder settingsです：



REC capacity		
IN1	17	% loop
IN2	17	% loop
IN3	17	% loop
IN4	17	% loop
IN5	16	% loop
IN6	16	% loop

### Loop Recording

**説明** Loop recording設定は、EVSサーバーの全てのRECORDチャンネルのエンドレス収録をON/OFFします。

**値** Yes (デフォルト) / No  
SportLightコンフィグでは、'Yes'が強制されます。

### Clip Capacity

**説明** Clip capacity設定は、RECORDチャンネルの収録モードを設定します。

**値** 以下の値が使用できます： Global / Per channel

● **Global:**

このモードでは、クリップ容量は、異なるレコードトレイン間で共有されます。

例： 3レコードトレインが使われている場合に、REC1上で30分のクリップを作成すると、各レコードトレインから、等しく10分の記録容量を取得します。

● **Per channel:**

このモードでは、クリップ容量は、個別のレコードトレインのみに関連します。

例： 3レコードトレインが使われている場合に、REC1上で30分のクリップを作成すると、1番目のレコードトレインから記録容量を取得し、他の2つのレコードトレインの容量に影響を与えません。

**デフォルト値** デフォルト値は、ベースコンフィグに依存します：

● **Global (locked):**

○ SportLightコンフィグ

● **Per channel:**

○ Serverコンフィグ



## Rec Auto Start

有用性	この設定は、SpotboxかServerコンフィグのときに、表示されます。
説明	EVSサーバーのイニシャライズ後に、チャンネルの収録が自動的に開始されます。
値	Yes (デフォルト) / No

## REC Capacity



### 警告

このパラメーターは、変更を有効にするには、アプリケーションのリブート(オペレーションウィンドウからALT+Q)が必要です。

説明	このパラメータは、指定されたレコーダの2タイプの情報を持っています: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Recording Capacity: XX%</b>: 各チャンネルに割り当てられたディスクスペースのパーセンテージ。</li> <li>● <b>Loop / No Loop</b>: Loop Recording/パラメータが有効かどうかを示します。</li> </ul>
値	以下の値が、使用可能です: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Recording Capacity</b>: ユーザーが設定します。            全値の合計が、100%を超えない事。            デフォルトでは、収録容量は、全てのレコーダチャンネルに均等に割り当てられています。            例: 2 REC 4 PLAYコンフィグでは、収録容量は、各レコーダに対して、デフォルトでは50%です。</li> <li>● <b>Loop / No Loop</b>:            値は、Loop Recording設定に依存します:  <input type="radio"/> Loop Recodingが有効だと、Loop。  <input type="radio"/> Loop Recodingが無効だと、No Loop。</li> </ul>

### 4.3.3. オーディオ

#### Audio settingsとAudio monitoring

##### ユーザーインターフェース

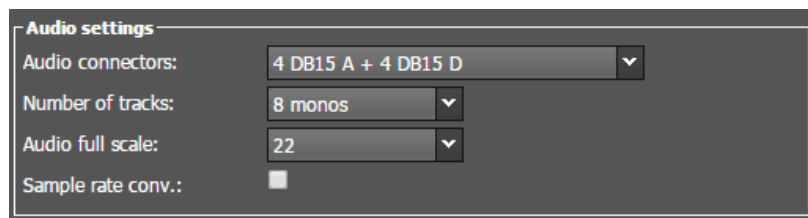
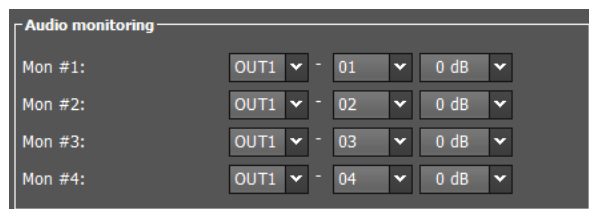
Audio settingsでは、オーディオコネクタの物理コンフィグとオーディオトラック数を指定できます。

Audio monitoringでは、どのオーディオ信号をモニタリングするかを指定できます。

これらのフィールドは、以下のインターフェースより有効です：

- Multicam Configurationウィンドウ、Channelsタブ内、アドバンスト表示モード。  
(サーバーとWebベースインターフェース上)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのAudio settingsとAudio monitoringです：

#### Audio Connectors

説明

ハードウェアコンフィグで使用可能なコネクタのタイプ。  
EVSサーバーで有効なオーディオフォーマット、Advanced audio settingsページ、は、オーディオハードウェアコンフィグに依存します。  
このフィールドで設定した値が、実際のハードウェアコンフィグに対して有効ではないことに注意して下さい。

値

以下のテーブルは、有効なハードウェアコンフィグとこのハードウェアコンフィグに基づき使用可能なオーディオ形式を示しています。  
\* 付きの値は、XTnanoサーバー最新世代の背面パネルで使用可能です。

ハードウェアコンフィグ	使用可能形式
● None*	E (Embedded) EY (Dolby E Embedded)
● 4DB 15 A + 16 BNC D	E – EY – A – D – DY
● 4DB 15 A + 4 DB 15 D*	E – EY – A – D – DY

デフォルト値

4DB 15 A + 16 BNC D または None

## Number of Tracks



### 警告

このパラメーターは、変更を有効にするには、アプリケーションのリブート(オペレーションウィンドウからALT+Q)が必要です。

説明	各ビデオチャンネルに付随するモノオーディオトラック数。
値	4 Monos (デフォルト)、8 Monos、16 Monos

## Audio Full Scale

説明	サーバーのアナログ出力の最大オーディオレベル (dB)。 オーディオフルスケールはヘッドルームより4dB高いため、間接的に、ヘッドルームを設定します オーディオフルスケールのデフォルト値=22 dB、ヘッドルームのデフォルト値=18dB。
値	範囲: [10.....30] dB
デフォルト値	22 dB

## Ancillary Mode

有用性	この設定は、SDコンフィグで表示されます。
説明	デジタルオーディオで使われるエンコード方式。
値	20 Bits / 24 Bits (デフォルト)

## Sample Rate Conv. (Conversion)

説明	入力サンプルレートが変換されるかを指定します。 このパラメーターは、デジタルAES/EBUオーディオ形式時のみで使用可能です。 このパラメーターが 'No'、の場合、信号が適格に同期されているか、確認が必要です。
値	Yes (デフォルト) / No

## Audio Monitoring: Mon #1 – Mon #4

説明	4つのオーディオモニタリングコネクタ(背面の左から右へ番号付)それぞれに、送られるオーディオのソースを指定します。
値	各オーディオモニタリングコネクタに対し、モニターするオーディオ信号は、ビデオチャンネル番号とオーディオモノチャンネル番号で指定します。 例: Mon #1の'OUT1-01'は、PGM1の1番目のオーディオモノチャンネルのオーディオ信号がモニタリングコネクタ1に送られることを意味しています。
デフォルト値	デフォルトでは、最初のPLAYチャンネルのオーディオ信号とオーディオモノチャンネル1~4(OUT 1-01 – OUT 1-04)が、それぞれMon #1からMon #4コネクタに割り当てられます。



## オーディオトラック数

### 序文

Audio設定内の**Number of Tracks**パラメータでは、各ビデオチャンネル(PLAY/RECORDチャンネル)に関連付けられるオーディオモノチャンネル(Multicam内で**Tracks**と呼ばれます)数を設定します。

各ビデオチャンネルに割り当て可能トラック数は、以下の要素に基づいて変わります：

- EVSサーバーでサポートされているオーディオモノチャンネルの最大数
- Multicamコンフィグで設定された、PLAY/RECORDチャンネル数

### トラックの最大数

#### XTnanoサーバー

下記のテーブルは、最大モノオーディオ数/ビデオチャンネルです。

コンフィグモード	Embedded
4-チャンネルコンフィグ	4*16 オーディオモノ (= 64トラック)
6-チャンネルコンフィグ	6*16 オーディオモノ (= 96トラック)
8-チャンネルコンフィグ	8*16 オーディオモノ (= 128トラック)

## Advanced Audio Settingsの概要

### 序文

Advanced Audio Settingsは、Multicam ConfigurationウィンドウのChannelsタブ内で設定します。  
サーバーベースアプリケーションでは、ページ3から表示され、アドバンスモードだけで可能です。  
ここでは、オーディオチャンネルのルーティング、ミュート、オーディオゲインの調整が可能です。

**Inputs**のAdvanced Audio Settingsでは、オーディオソースを、各RECORDチャンネルのオーディオモノチャンネルに、どのようにルーティングするかを指定できます。

**Outputs**のAdvanced Audio Settingsでは、オーディオモノチャンネルを、各PLAYチャンネル(embeddedオーディオ)に、各物理オーディオコネクタ(デジタルとアナログコネクタ)に、どのようにルーティングするかを指定できます。

サーバーベースアプリケーションでは、Advanced Audio Settingsは異なるページ上にあります:

Webベースインターフェースでは、オーディオ入力と各オーディオ出力タイプは、Channelsタブ内、Advanced Audio Settingsに、1つのテーブル内の異なるタブとして表示されます。



### 注意

デジタル、アナログ出力の設定は、オーディオハードウェアコンフィグを反映する  
**Audio Connectors**フィールド(Audio Settings内)に対応するコネクタが設定されているときのみ有効です。

## 一般的なテーブル構造

下記のスクリーンショットは、Inputs設定の一部です：

Advanced audio settings					
Inputs		Embedded outputs		Digital	
		IN 1		IN 2	
		CAM A		CAM B	
1	E	▼	1-01 ▼	E	2-01
2	E	1-02		E	2-02
3	E	1-03		E	2-03
4	E	1-04		E	2-04
5	E	1-05		E	2-05
6	E	1-06		E	2-06
7	E	1-07		E	2-07
8	E	1-08		E	2-08

テーブル内では、入力、出力設定に対して、以下のように情報が整理されています：

- 行は、EVSサーバーに保存されているA/V素材のオーディオモノチャンネルに対応します。  
行の数は、Audio settingsフィールドグループ内で設定されている**Number of tracks**に割り当てられた値に依存します。
- 列は、RECORDチャンネルまたはPLAYチャンネルに対応します。
- セル内の値は、オーディオモノチャンネルのルーティングを示します：
  - ソースから、EVSサーバー上に保存される素材へ(オーディオ入力)
  - EVSサーバー上に保存されている素材から、PLAYチャンネルへ(オーディオ出力)

## オーディオタイプとチャンネル数

下記のスクリーンショットは、Inputs設定の一部で、RECORDチャンネルからのオーディオ入力が、デフォルトでembeddedオーディオチャンネルにルーティングされる位置です：

Advanced audio settings					
Inputs		Embedded outputs		Digital	
	IN 1		IN 2		
	CAM A		CAM B		
1	E	▼ 1-01 ▼	E	2-01	
2	E	1-02	E	2-02	
3	E	1-03	E	2-03	
4	E	1-04	E	2-04	
5	E	1-05	E	2-05	
6	E	1-06	E	2-06	
7	E	1-07	E	2-07	
8	E	1-08	E	2-08	

テーブルのセル内の値は、割り当てられたオーディオチャンネルを示し、これは以下のようにコンフィグされます：

- 最初の1文字はオーディオタイプを示します。

(E=embedded、D=digital、A=analog、DY=Dolby Digital、EY=Dolby Embedded)

embeddedオーディオ、または **MADIオーディオ** 例： 1-01：

- ハイフンの前の最初の番号は、PLAYまたはRECORDチャンネルの番号を示します。
- ハイフンの後の番号は、オーディオモノチャンネルを示します。

digitalオーディオ(例： D-05)、analogオーディオ(例： A-01)

- 番号は、デジタル/アナログ入力または出力の番号を示します。



## オーディオInputs(入力)設定

### 序文

Advanced audio settingsでは、以下を設定できます：

- 収録時に、どのタイプのオーディオソースを使用するか。
- ソース素材のオーディオモノチャンネルを、どのように、EVSサーバーの記録素材に振り分けるか。
- 収録時に、オーディオゲイン、ミュートを適用するかどうか。

Advanced audio settings

Inputs		Embedded outputs		Digital outputs		Analog outputs	
	IN 1		IN 2		IN 3		IN 4
	CAM A		CAM B		CAM C		CAM D
1	E 1-01	E	2-01	E	3-01	E	4-01
2	E 1-02	E	2-02	E	3-02	E	4-02
3	E 1-03	E	2-03	E	3-03	E	4-03
4	E 1-04	E	2-04	E	3-04	E	4-04
5	E 1-05	E	2-05	E	3-05	E	4-05
6	E 1-06	E	2-06	E	3-06	E	4-06
7	E 1-07	E	2-07	E	3-07	E	4-07
8	E 1-08	E	2-08	E	3-08	E	4-08
9	E 1-09	E	2-09	E	3-09	E	4-09
10	E 1-10	E	2-10	E	3-10	E	4-10
11	E 1-11	E	2-11	E	3-11	E	4-11
12	E 1-12	E	2-12	E	3-12	E	4-12
13	E 1-13	E	2-13	E	3-13	E	4-13
14	E 1-14	E	2-14	E	3-14	E	4-14
15	E 1-15	E	2-15	E	3-15	E	4-15
16	E 1-16	E	2-16	E	3-16	E	4-16

all E   all D   all A   Tgl Dolby   all M   all None   IN1 on all   Show gain

## 例 1:

Inputs		Embedded outputs		Digital outputs	
IN 1		IN 2			
CAM A		CAM B			
1	E	▼ 1-01 ▼	E	2-01	E
2	E	1-02	E	2-02	E
3	E	1-03	E	2-03	E
4	E	1-04	E	2-04	E
5	E	1-05	E	2-05	E

行:3と列:IN2の交差位置の値 E2-03は、IN2(CAM B)コネクタに接続されているembeddedオーディオソースの3番目のオーディオモノチャンネルは、EVSサーバー上の同じ位置に記録されることを意味しています。

## 例2:

Inputs		Embedded outputs		Digital outputs	
IN 1		IN 2			
CAM A		CAM B			
1	E	1-01	E	2-01	E
2	E	1-01	E	2-01	E
3	E	1-01	E	2-01	E
4	E	1-01	E	2-01	E
5	E	1-05	E	2-05	E
6	E	1-05	E	2-05	E
7	E	1-05	E	2-05	E
8	E	1-05	E	2-05	E

上記に表示されるソースオーディオモノチャンネルの割り当ては、以下を意味しています:

- RECORDチャンネル(IN1またはIN2)の1番目のモノチャンネルのembeddedオーディオソースは、記録素材のモノチャンネル 1-4に保存されます。
- RECORDチャンネル(IN1またはIN2)の5番目のモノチャンネルのembeddedオーディオソースは、記録素材のモノチャンネル 5-8に保存されます。

**例 3:**

	Inputs	Embedded outputs	Digital outputs
	<b>IN 1</b>	<b>IN 2</b>	
	<b>CAM A</b>	<b>CAM B</b>	
1	D 01	D 05	D
2	D 02	D 06	D
3	D 03	D 07	D
4	D 04	D 08	D

上記に表示されるソースオーディオモノチャンネルの割り当ては、以下を意味しています：

- デジタルコネクタからのオーディオソースが、EVSサーバーに記録される素材に、使用されます。
- デジタルコネクタからのオーディオソース1は、EVSサーバー上の記録素材の1番目のモノチャンネルに割り当てられます。。。。

**例 4:**

	Inputs	Embedded outputs	Digital outputs
	<b>IN 1</b>	<b>IN 2</b>	
	<b>CAM A</b>	<b>CAM B</b>	
1	E 1-01	E 1-01	E
2	E 1-02	E 1-02	E
3	E 1-03	E 1-03	E
4	E 1-04	E 1-04	E
5	E 1-05	E 1-05	E
6	E 1-06	E 1-06	E
7	E 1-07	E 1-07	E
8	E 1-08	E 1-08	E
9	E 1-09	E 1-09	E

REC1からのオーディオモノチャンネルを、他の全てのRECORDチャンネルに送りたい時には、ソースオーディオモノチャンネルを上記のように割り当てます。

Webベースインターフェース内の、コマンド **IN 1 on all**で、より早く設定できます。



## オーディオOutputs(出力)設定

### 序文

Advanced audio settingsでは、以下を行います：

- EVSサーバーに保存されている素材のオーディオモノチャンネルを、PLAYチャンネルの出力モノチャンネルに割り当てます。
- 各出力モノチャンネルに適用する、オーディオゲインを設定します。
- 出力モノチャンネルをミュートします。

これは、3つのオーディオタイプに設定可能です：

embeddedオーディオ、digitalオーディオ、analogオーディオ  
(ハードウェアコンフィグ上に対応コネクタがあれば)

### ユーザーインターフェース

下記のスクリーンショットは、コンフィグ内の各オーディオタイプのデフォルトオーディオチャンネル割り当ての抜粋を示しています。

Embedded outputs

Advanced audio settings					
Inputs		Embedded outputs		Digital outputs	
		OUT1	OUT2		
		PGM 1	PGM 2		
1	E	1-01	E 2-01		
2	E	1-02	E 2-02		
3	E	1-03	E 2-03		
4	E	1-04	E 2-04		
5	E	1-05	E 2-05		

Digital outputs

Advanced audio settings					
Inputs		Embedded outputs		Digital outputs	
		OUT1	OUT2		
		PGM 1	PGM 2		
1	D	01	D 05		
2	D	02	D 06		
3	D	03	D 07		
4	D	04	D 08		

Analog outputs

Advanced audio settings					
Inputs		Embedded outputs		Digital outputs	
		OUT1	OUT2		
		PGM 1	PGM 2		
1	A	01	None		
2	A	02	None		
3	A	03	None		
4	A	04	None		



## 例

以下のスクリーンショットでは、以下の方法で、EVSサーバー上のA/V素材に設定されたオーディオモノチャンネルがPLAYチャンネルに割り当てられます：

オーディオ出力は、Dolby embedded形式です。

デフォルトでは、EVSサーバーに保存されているA/V素材のオーディオモノチャンネルは、PLAYチャンネルの対応するembeddedチャンネルに送られます。

この例では、モノチャンネル3から8の場合です。

モノチャンネル1 と2に対して、デフォルトマッピングが以下に変更されました：

- A/V素材のオーディオモノチャンネル1は、PLAYチャンネルのモノチャンネル2に送られ、全てのPLAYチャンネルにも適用されます。
- A/V素材のオーディオモノチャンネル2は、PLAYチャンネルのモノチャンネル1に送られ、全てのPLAYチャンネルにも適用されます。

Inputs	Embedded outputs		Digital outputs		Analog outputs
	OUT1		OUT2	OUT3	OUT4
	PGM 1		PGM 2	PGM 3	PGM 4
1	EY	1-02	EY 2-02	EY 3-02	EY 4-02
2	EY	1-01	EY 2-01	EY 3-01	EY 4-01
3	EY	1-03	EY 2-03	EY 3-03	EY 4-03
4	EY	1-04	EY 2-04	EY 3-04	EY 4-04
5	EY	1-05	EY 2-05	EY 3-05	EY 4-05



## オーディオ入力と出力のデフォルトマッピング

### 序文

以下のテーブルは、以下のコンフィグのオーディオ入力と出力のチャンネルマッピングを表しています：

- XTnano 筐体
- レコーダまたはプレイヤーの最大数
- オーディオハードウェアコンフィグ： 16 BNC Digital + 4 DB15 Analog

レコーダまたはプレイヤーが少ないコンフィグでは、無関係な行/列は、無視して下さい。

### オーディオ (embedded) 入力

デフォルトでは、ソース素材からのオーディオ embedded モノチャンネルは、以下のテーブルのように、EVSサーバー上に保存されるA/V素材にマップされます。

以下のテーブルは、4プレイヤー、オーディオコンフィグ=16トラック(モノチャンネル)です：

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4
Mono1	E1-01	E2-01	E3-01	E4-01
Mono2	E1-02	E2-02	E3-02	E4-02
Mono3	E1-03	E2-03	E3-03	E4-03
Mono4	E1-04	E2-04	E3-04	E4-04
Mono5	E1-05	E2-05	E3-05	E4-05
Mono6	E1-06	E2-06	E3-06	E4-06
Mono7	E1-07	E2-07	E3-07	E4-07
Mono8	E1-08	E2-08	E3-08	E4-08
Mono9	E1-09	E2-09	E3-09	E4-09
Mono10	E1-10	E2-10	E3-10	E4-10
Mono11	E1-11	E2-11	E3-11	E4-11
Mono12	E1-12	E2-12	E3-12	E4-12
Mono13	E1-13	E2-13	E3-13	E4-13
Mono14	E1-14	E2-14	E3-14	E4-14
Mono15	E1-15	E2-15	E3-15	E4-15
Mono16	E1-16	E2-16	E3-16	E4-16



## オーディオembedded出力

デフォルトでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのembeddedモノチャンネルにマップされます。

以下のテーブルは、4プレイヤー、オーディオコンフィグ=16トラック(モノチャンネル)です：

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4
<b>Mono1</b>	E1-01	E2-01	E3-01	E4-01
<b>Mono2</b>	E1-02	E2-02	E3-02	E4-02
<b>Mono3</b>	E1-03	E2-03	E3-03	E4-03
<b>Mono4</b>	E1-04	E2-04	E3-04	E4-04
<b>Mono5</b>	E1-05	E2-05	E3-05	E4-05
<b>Mono6</b>	E1-06	E2-06	E3-06	E4-06
<b>Mono7</b>	E1-07	E2-07	E3-07	E4-07
<b>Mono8</b>	E1-08	E2-08	E3-08	E4-08
<b>Mono9</b>	E1-09	E2-09	E3-09	E4-09
<b>Mono10</b>	E1-10	E2-10	E3-10	E4-10
<b>Mono11</b>	E1-11	E2-11	E3-11	E4-11
<b>Mono12</b>	E1-12	E2-12	E3-12	E4-12
<b>Mono13</b>	E1-13	E2-13	E3-13	E4-13
<b>Mono14</b>	E1-14	E2-14	E3-14	E4-14
<b>Mono15</b>	E1-15	E2-15	E3-15	E4-15
<b>Mono16</b>	E1-16	E2-16	E3-16	E4-16



## オーディオDigital出力

オーディオデジタル出力コネクタへのデフォルトマッピングは、設定したトラック(モノチャンネル)数により異なります。

### 8オーディオトラック

8トラック(モノチャンネル)のオーディオコンフィグでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのデジタルオーディオ出力コネクタに送られます。

以下のテーブルは、4プレイヤー、オーディオコンフィグ=8トラック(モノチャンネル)です：

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4
<b>Mono1</b>	D 01	D 09	None	None
<b>Mono2</b>	D 02	D 10	None	None
<b>Mono3</b>	D 03	D 11	None	None
<b>Mono4</b>	D 04	D 12	None	None
<b>Mono5</b>	D 05	D 13	None	None
<b>Mono6</b>	D 06	D 14	None	None
<b>Mono7</b>	D 07	D 15	None	None
<b>Mono8</b>	D 08	D 16	None	None

### 4 または16オーディオトラック

4または16トラック(モノチャンネル)のオーディオコンフィグでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのデジタルオーディオ出力コネクタに送られます。

以下のテーブルは、4プレイヤー、オーディオコンフィグ=16トラック(モノチャンネル)です：

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4
<b>Mono1</b>	D 01	D 05	D 09	D 13
<b>Mono2</b>	D 02	D 06	D 10	D 14
<b>Mono3</b>	D 03	D 07	D 11	D 15
<b>Mono4</b>	D 04	D 08	D 12	D 16
<b>Mono5</b>	None	None	None	None
<b>Mono6</b>	None	None	None	None
<b>Mono7</b>	None	None	None	None
<b>Mono8</b>	None	None	None	None
<b>Mono9</b>	None	None	None	None
<b>Mono10</b>	None	None	None	None
<b>Mono11</b>	None	None	None	None
<b>Mono12</b>	None	None	None	None
<b>Mono13</b>	None	None	None	None
<b>Mono14</b>	None	None	None	None
<b>Mono15</b>	None	None	None	None
<b>Mono16</b>	None	None	None	None





## オーディオAnalog

デフォルトでは、EVSサーバー上に保存されているA/V素材からのオーディオモノチャンネルは、以下のテーブルにあるようにPLAYチャンネルのアナログオーディオ出力コネクタに送られます。

以下のテーブルは、4プレイヤー、オーディオコンフィグ=8トラック(モノチャンネル)です：

	OUT 1	OUT 2	OUT 3	OUT 4
<b>Mono1</b>	A 01	A 05	None	None
<b>Mono2</b>	A 02	A 06	None	None
<b>Mono3</b>	A 03	A 07	None	None
<b>Mono4</b>	A 04	A 08	None	None
<b>Mono5</b>	None	None	None	None
<b>Mono6</b>	None	None	None	None
<b>Mono7</b>	None	None	None	None
<b>Mono8</b>	None	None	None	None



## オーディオルーティングまたはタイプの修正

### 序文

オーディオルーティング設定は、ChannelsタブのAdvanced Audio Settings内で可能です。

以下の変更が、可能です：

- 以下の方法で、表示されているオーディオチャンネルのオーディオタイプの同時変更が可能です：
  - サーバーベースアプリケーションで下部に表示されているショートカットキー
  - Webベースインターフェースのテーブルの下部に表示されているボタン
- 個々のチャンネルのオーディオタイプ： 手動で、オーディオタイプ値を変更。
- 個々のオーディオチャンネルのルーティング： advanced audio settingsテーブル内のセル値を変更。

### サーバーとWebベースインターフェースでの一括編集

EVSサーバー上で有効/現在のページ上で有効な時、以下のショートカットを使用して、ページの全てのオーディオチャンネルに、以下の編集動作を適用できます：

コマンド説明	コマンドキー (サーバーベース アプリケーション)	コマンドボタン (Webベース インターフェース)
全オーディオチャンネルをエンベデッドに	CTRL+E	all E
全オーディオチャンネルをデジタルに	CTRL+D	all D
全オーディオチャンネルをアナログに	CTRL+A	all A
全オーディオチャンネルをDolbyオーディオにトグル	CTRL+Y	Tgl Dolby
全オーディオチャンネルをNone(無音)に	CTRL+N	all None 一度に、all E、D、A に適用可能。
全オーディオ設定をデフォルト値にリセット(他のページも)	F5	–
REC1の全オーディオ入力チャンネルを他のRECORDチャンネルへ ルーティング (オーディオ入力のみ)	CTRL+0	Rec 1 on all
変更内容を適用	ALT+A	Apply

## サーバーベースアプリケーション内の個別編集

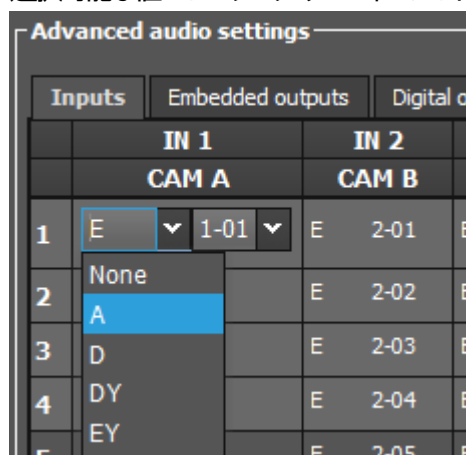
サーバーベースアプリケーションでは、EVSサーバー上で有効/現在のページ上で有効な時、以下の編集コマンドを使用して、個々のフィールド/セル値(オーディオタイプまたはオーディオルーターティング)を変更できます:

コマンド説明	コマンドキー
フィールド値を選択。	TAB
選択したフィールドで、選択可能な値のリストをスクロールダウン。	SPACEBAR
選択したフィールドで、選択可能な値のリストをスクロールアップ。	SHIFT + SPACEBAR
オーディオチャンネル数を、8チャンネルずつ増やす。 (オーディオチャンネル選択時に有効)	CTRL + RIGHT ARROW
オーディオチャンネル数を8チャンネルずつ減らす。 (オーディオチャンネル選択時に有効)	CTRL + LEFT ARROW
オーディオソースチャンネルのIDを、1つずつ増やします。 これは、IDを持つオーディオチャンネル-エンベデッドまたはMADI-の場合で、 チャンネル番号選択時に有効です。	CTRL + ARROW UP
オーディオソースチャンネルのIDを、1つずつ減らします。 これは、IDを持つオーディオチャンネル-エンベデッドまたはMADI-の場合で、 チャンネル番号選択時に有効です。	CTRL + ARROW DOWN

## Webベースインターフェース内の個別編集

Webベースインターフェースでは、セルの中で変更したい値をクリックします。

選択可能な値がドロップダウンフィールド内に表示され、個々に必要な値の選択が可能です:



## オーディオゲインとミュート設定の変更

### 序文

ChannelsタブのAdvanced Audio Settingsページ(3-6)では、オーディオチャンネルのデフォルトルーティングだけでなく、以下も変更可能です：

- 各オーディオモノチャンネルのオーディオゲインを個別に調整；
- オーディオチャンネルを個別にミュート。

サーバーベースアプリケーションでは、オーディオゲインとオーディオミュート情報はCTRL+Gコマンドで表示でき、表示をトグルできます。

Webベースインターフェースでは、オーディオゲインは、Advanced audio settings下のShow gainコマンドを選択して表示できます。

オーディオゲインは、0.75dB、3dB、6dB単位で、現在のオーディオレベルの-77.25dB～ +23.25dB間の範囲で調整できます。



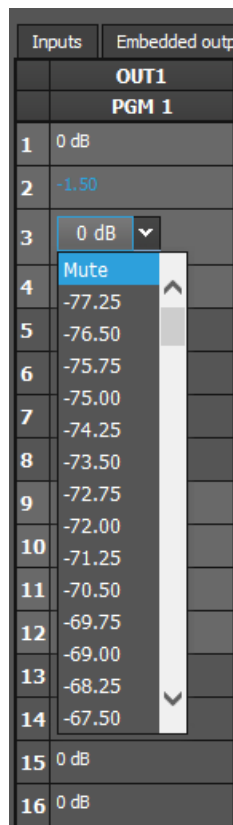
### 警告

オーディオ入力が、複数のトラックで使用される場合には、ゲインの値は全てのトラックで等しくなります。複製されたトラックの1つのゲインが変更されると、全てのトラックのゲインも変更されます。

そうでない場合には、以下のエラーメッセージが表示されます

“Incoherent input audio gains”

以下のスクリーンショットは、オーディオゲインとミュートの設定画面です：





## サーバーベースアプリケーション内

以下のテーブルは、サーバーベースアプリケーションのオーディオゲインの調整とオーディオチャンネルのミュート用のコマンドを示しています。

以下のコマンドは、選択し/オーディオゲイン表示がオンのときに、個々のチャンネルに適用されます。

コマンド説明	コマンドキー
オーディオゲインを表示/隠します。	CTRL+G
選択オーディオチャンネルをミュートします。	CTRL+M
選択オーディオチャンネルのミュートを解除します。	CTRL+U
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、0.75dB単位で増やします。	SPACEBAR
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、0.75dB単位で減らします。	SHIFT + SPACEBAR
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、3dB単位で増やします。	CTRL+ARROW RIGHT
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、3dB単位で減らします。	CTRL+ARROW LEFT
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、6dB単位で増やします。	CTRL+ARROW UP
選択オーディオチャンネルのオーディオレベルを、6dB単位で減らします。	CTRL+ARROW DOWN

## WEBベースインターフェース内

オーディオチャンネルのオーディオゲインを調整したりミュートにするには、以下を行います：

1. **Channels** タブ内で、Advanced Audio Settings の Inputs タブ または Outputs タブ を選択します。
2. **Show gain** ボタン をクリックします。  
オーディオタイプとルーティングデータに替わり、各モノチャンネルに適用されているオーディオゲインが、表示されます。
3. 目的のセル内で、変更したい値をクリックし、リストからオーディオゲインまたはミュート値を選択します。



## Dolbyオーディオ管理

### コンセプト

- **Dolby Digital または Dolby 5.1 または AC-3**は、最大6分離音声チャンネルを持つオーディオコーディングシステムです。  
(ノーマルレンジスピーカー(20Hz – 20,000Hz)用の5チャンネル: Right front、Center、Left Front、 Right Rear、 Left Rear)と、LFEまたはサブウーファー用の1チャンネル)
- **Dolby E**は、2チャンネルポストプロダクションと放送インフラを経由したサラウンドとマルチチャンネルオーディオの配布、または、従来のデジタルビデオテープ、ビデオサーバー、コミュニケーションリンク、スイッチャー、ルーターの2オーディオトラック上へのサラウンドオーディオの収録 用に最適化されたプロ用のコーディングシステムです。



## 使用可能なDolbyコンフィグ

### ケース1: 5.1オーディオ信号が、6つの独立したPCMオーディオチャンネルに符合化される

- XTNanoサーバーの全コンフィグで有効です。
- オーディオは、コンフィグに依存し、アナログ、デジタル、エンベデッドが可能です。
- AESオーディオでは、オーディオが正しくビデオにゲンロックしていれば、サンプルレートコンバータをオフにできます。

### ケース2: 5.1オーディオ信号が、2チャンネルDolby E標準に符合化される

- Dolby E オーバー AES/EBU リンク
  - Channelタブ、Multicam Configurationウィンドウ内で、Dolby E信号を伝えるチャンネルのペアのコンフィグを、“DY”に設定します。

これは、2つの効果を持ちます:

- 入力チャンネルのサンプルレートコンバータを、無効にします。
- 全てのトランジションを、強制的にハードカットとします。

もし、サンプルレートコンバータがオンでオーディオコンフィグがPCMオーディオオーバーAESとDolby EオーバーAES間のミックスなら、サンプルレートコンバータはPCMオーバーAES信号のみに適用されます。

- Dolby E Embedded (SDI/HD SDIストリーム内)
  - Channelタブ、Multicam Configurationウィンドウ内で、Dolby E信号を伝えるチャンネルのペアのコンフィグを、“EY”に設定します。  
これにより、強制的に、トランジションはハードカットになります。
  - サンプルレートコンバータのパラメータは、エンベデッドオーディオには適用されません。

Dolby Eトランジションは、以下の条件の限り、有効となります:

- コンフィグが、正しい
- Dolby Eを含むAESのストリームが、ビデオに正しく同期している

もし、オーディオタイプを、EYでなくE、DYでなくDIに設定したら、Dolby Eトランジションは、正しくありません(トランジションで2フレームのミュート)。

オーディオエフェクト(スクラブ、スローモーション)は、Dolby Eでは不可です。

もし、使用したら、ミュートになります。



## 4.3.4. タイムコードとデータ挿入

### Timecode Settings

#### ユーザーインターフェース

Timecode Settingsでは、EVSサーバーの指定レコーダ上での作業のリファレンスとして使用したい、タイムコードのタイプを指定できます。

Timecode Settingsを使用したタイムコードタイプの選択は、2つのタイムコードジャンプテーブルの管理に依存します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブの、アドバンストディスプレイモード内  
(サーバーとWebベースインターフェース)；
- NanoリモコンのTechnicalメニューの一部 (T2X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のChannelsタブ上のTimecode settingsです：

#### LTC

説明	最初のタイムコードジャンプテーブルに自動的に保存されるLongitudinal timecode (EVSサーバー上で設定された、または入力されたタイムコード) (LTCテーブル) 最初のタイムコードジャンプテーブルに保存されたタイムコードタイプを、変更することはできません。
値	LTC (編集不可)

#### User

説明	2番目のタイムコードジャンプテーブルに保存されたタイムコードタイプ(User TCテーブル)。
値	SD： <ul style="list-style-type: none"> <li>● LTC</li> <li>● VITC</li> </ul> HD： <ul style="list-style-type: none"> <li>● LTC</li> <li>● ATC LTC (Ancillary LTC Timecode)</li> <li>● ATC VITC (Ancillary VITC Timecode)</li> </ul>





## Primary TC

説明	<p>VGAの下部に表示されているタイムコードタイプで、指定レコーダ上に保存されたビデオ素材での作業に使用します。</p> <p>通常、LTCタイムコードは、ライブイベントでのオペレーションで使われます。</p> <p>VITCタイムコードは、ビデオ信号内タイムコードが内蔵されているため、テープからのビデオ素材のインジェストに使用されます。</p>
値	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>LTC</b>: LTCタイムコード、自動的にLTCテーブルに保存されます。 LTCフィールド内に指定します。</li><li>● <b>User</b>: ユーザー設定タイムコード、USER TCテーブル内に保存され、<b>User</b>フィールド内に指定します。</li></ul>
OSD表示	<p>この設定で選択した値に依存し、ユーザーOSDの下部に表示されるタイムコードは、異なる色になります</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● LTCタイムコードを選択すると、タイムコードの色は、白色になります。</li><li>● USERタイムコードを選択すると、タイムコードの色は黄色になります。</li></ul>



## Timecode Insertion Settings

### ユーザーインターフェース

Timecode Insertion settingsでは、チャンネルごとの、VITCまたはアンシラリタイムコードの管理ができます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブの、アドバンストディスプレイモード内（サーバーとWebベースインターフェース）。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでChannelタブのSDでのTimecode Insertion settingsです：

Timecode insertion settings					
Inputs		Outputs			
	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D	
IN LOOP					
D-VITC					
Lines	19-21 ▼	19-21 ▼	19-21 ▼	19-21 ▼	

Timecode insertion settings			
Inputs		Outputs	
	PGM1	PGM2	
SD OUT			
D-VITC	No ▼	No ▼	
Lines	19-21 ▼	19-21 ▼	
Userbits	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
CleanVBI	No ▼	No ▼	

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースでChannelタブのHDでのTimecode Insertion settingsです：

**Timecode insertion settings**

Inputs Outputs

	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D
IN LOOP				
D-VITC				
Lines	19-21 ▼	19-21 ▼	19-21 ▼	19-21 ▼

**Timecode insertion settings**

Inputs Outputs

	PGM1	PGM2
HD OUT		
ATC-LTC	No ▼	No ▼
Userbits	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ATC-VITC	No ▼	No ▼
Userbits	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
SD OUT		
D-VITC	No ▼	No ▼
Lines	19-21 ▼	19-21 ▼



## Inputタブ

### In Loop: D-VITC

D-VITC (Digital Vertical Interval Timecode) とユーザービットは、レコードコーデックのモニタリングSD出力上に常に書かれていて、ソースビデオ上と同じです。

### In Loop: Lines

説明	VITCが、レコードコーデックの出力コネクタに書き込まれるライン。
値	06-08 ~ 20-22
デフォルト値	14-16 (NTSC) 19-21 (PAL)

## Outputタブ

### HD OUT (in HD): ATC-LTC / ATC-VITC

説明	HD出力内へのエンベデッドタイムコード(ATC-LTCまたはATC-VITC)の挿入をオン/オフします。
値	ATC-LTCとATC-VITCフィールドに設定する値は、同じでなければなりません。 値は、以下です: <ul style="list-style-type: none"> <li>● No: 出力に新しいタイムコード挿入はありません。</li> <li>● In: 入力と同じタイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● LTC: LTCテーブルからのタイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● USER: ユーザー設定タイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● TC 0: 指定PGMからの出力ビデオ信号内で生成された全てのATC-LTCとATC-VITCタイムコードは、スタティックで、00:00:00:00に固定されます。</li> </ul>
デフォルト値	No

### HD OUT (in HD): UserBits

説明	HD出力内への、ユーザービットの挿入をオン/オフします。 ATC-LTCとATC-VITCフィールドに設定する値は、同じでなければなりません。 ATC-LTCとATC-VITCフィールド内でTC0を選択すると、 ユーザービット値も、どんな値を選択しても、スタティックで00:00:00:00に固定されます。
値	Yes (デフォルト) / No

### SD OUT (in HD/SD): D-VITC

説明	SD出力内へのエンベデッドタイムコード(D-VITC)挿入をオン/オフします。
値	D-VITCに設定する値は、以下です: <ul style="list-style-type: none"> <li>● No: 出力に新しいタイムコード挿入はありません。</li> <li>● In: 入力と同じタイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● LTC: LTCテーブルからのタイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● USER: ユーザー設定タイムコードを、出力に挿入。</li> <li>● TC 0: 指定PGMからの出力ビデオ信号内で生成された全てのD-VITCタイムコードは、スタティックで、00:00:00:00に固定されます。</li> </ul>
デフォルト値	No



## SD OUT (in HD/SD): Lines

説明	指定タイムコードが、入力のループ上に書き込まれるライン。
値	06-08 ~ 20-22
デフォルト値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 14-16(NTSC)</li> <li>● 19-21(PAL)</li> </ul>

## SD OUT (in SD only): UserBits

説明	SD出力内への、ユーザービットの挿入をオン/オフします。 D-VITCフィールド内でTC0を選択すると、ユーザービット値も、どんな値を選択しても、スタティックで00:00:00:00に固定されます。
値	Yes (デフォルト) / No

## SD OUT (in SD only): CleanVBI

説明	出力上で、VBI (Vertical Blanking Interface)情報をクリアするかどうかを指定します。 アクティブビデオライン内に記録されるVITCは、同じフィールド上の補間やパリティ違反のために、バリアブル再生の邪魔をします。 更に、サーバーが出力上にVITCを挿入、一方で既に別のライン上にVITCが存在すると、問題を引き起こします。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● No (デフォルト): VBIは、出力内でクリアされていない。</li> <li>● Always: VBIは、出力上で常にクリアされている。</li> <li>● If not OK: VBIは、正しくなければ、出力内でクリアされる。 (play var mode、vertical split screen、等)。</li> </ul>

## SMPTE 334M Packets management

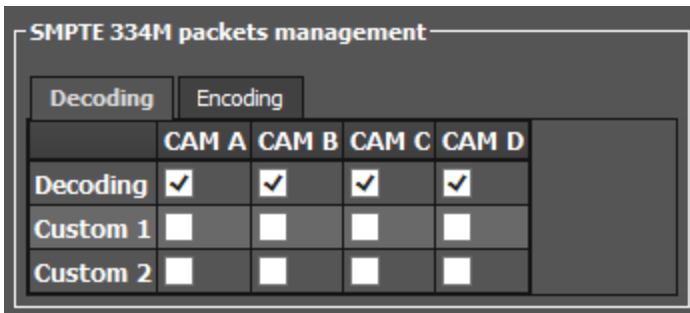
### ユーザーインターフェース

SMPTE Packets Management設定では、HDとSD信号内の垂直アンシラリデータスペース内に保存されたアンシラリデータパケットが、どのように扱われるかを設定します。

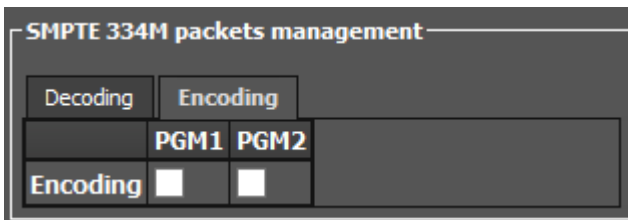
これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、Channelsタブ、アドバンスト表示モード、  
(サーバーとWebベースインターフェース)
- 一部は、NanoリモコンのTechnicalメニュー (T2.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのChannelsタブのSMPTE Packets management設定画面です：



	CAM A	CAM B	CAM C	CAM D
Decoding	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Custom 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Custom 2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



	PGM1	PGM2
Encoding	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### サポートされているパケット

サポートされているアンシラリデータパケットは、SMPTEスタンダード334M、291M(タイプ2 ANCパケット)に準拠している必要があります。

従来、SMPTE 292M信号内のクロミナンス(C)データストリーム上に載っているSMPTE 334M データパケットは、デコードされません。(HD)

SMPTE 334Mスタンダード内に記載されている全てのDIDは、サポートされています：

- 61 => 62
- 40 => 5F
- C0 => DF

これらのDIDは、出力チャンネル上のオリジナルライン上に保存、保管されます。

他のDIDは、保存されません。

最大バイト数/フィールドは、2014です。(720p)

保存されたSMPTE 334Mパケットは、ユーザーデータワード(UDW)プラスコンフィグバイトでコンフィグされます。

保存されたバイト数の計算には、これを考慮すべきです。

特定のアプリケーションへのDIDの割り当てについては、SMPTE RP 291-2006スタンダードを参照下さい。



## Decodingタブ

### Decoding

説明	各レコードチャンネル上のSMPTE 334M データパケットのデコードをオン/オフします。
値	Yes (デフォルト) / No

### Custom 1/2

説明	SMPTE 334Mデータパケットのカスタマイズされたデコードをオン/オフします。
値	Yes / No (デフォルト)

## Encodingタブ

### Encoding

説明	各プレイチャンネル(HD)上のSMPTE 334M データのエンコードをオン/オフします。
値	Yes / No (デフォルト)

### SD OUT Encoding

説明	各プレイチャンネル上のSDダウンコンバート出力上のSMPTE334M データのエンコードをオン/オフします。
値	Yes / No (デフォルト)



## SMPTEデータのデコードのカスタマイズ

必要に応じ、SMPTE 334M データのでデコードのカスタマイズが可能です。

非圧縮の8ビットデータをVANCデータスペース内に保持したければ、2つのライン(LaとLb)を選択可能で、NaとNb/バイト/フィールドを保存できます。(720p)

保存されたデータはSAV (Start of Active Video)後左揃えで、保存されるデータ(Na+Nb+レギュラーSMPTE 334M/パケット)の最大数は、2014を超えてはいけません。

この設定が必要なら、EVS担当と連絡を取り、保持したいバイト数とどのライン上かを指定して下さい。  
EVSは、特別にカスタマイズしたファイルを提供します。

このカスタマイズファイルは、Custom 1、Custom 2設定使用時にアクティブになります。

## ダウンコンバート出力上のSMPTE 334データエンコード

ダウンコンバートされた出力では、スイッチングラインとして指定されたラインの後の2番目のラインから、1つのSMPTE 334M/パケットがライン毎にエンコードされます。

別の言葉で説明すると、パケット/フィールドの最大数は、以下です：

- 8/パケット/フィールド： 525i (ライン12-19 と 275-282)
- 15/パケット/フィールド： 625i (ライン8-22 と 321-335)

制限は以下です：

- データはHD内と同じ順序で再エンコードされますが、必ずしも同じライン上ではありません。
- もし、VITCがダウンコンバート出力に挿入されると、SMPTE 334M データはVITCを持つライン上には挿入されません。





## 4.4. Networkタブ

### 4.4.1. 概要

Networkタブには、Gigabit Ethernetネットワークの設定があり、ビデオとオーディオデータのバックアップと転送に使用されます。

XTnanoサーバーでは、SDTネットワークは使用できません。

Net nameは、使用します。

以下のテーブルは、Networkタブの設定について記載しています。

以下で、設定が可能かを示しています：

- サーバーベースアプリケーションとWebベースインターフェースのベーシックまたはアドバンスド表示モード内
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内(T3.X)

設定名	Basic	Advanced	Technical Setup
Net name	X	X	—
<b>Gigabit Connection設定</b>			
Physical interface	X	X	X
Link aggregation	X	X	X
<b>Gigabit IP Configuration設定</b>			
IP address	X	X	X
Subnet mask	X	X	X
Default gateway	X	X	X

## 4.4.2. Net Name

### 序文

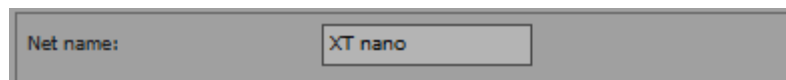
XTnanoサーバーでは、SDTIネットワークは使用できません。

しかし、Net nameは、便利です。

設定が可能です。

- Multicam Configurationウィンドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード  
(サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース内)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェースでの設定を表示しています：



### Net Name

説明	SDTIネットワーク上のマシン名。 これは、ネットワーク番号がEVSサーバーに割り当てられているため、必須ではありません。 しかし、XNetに接続されているサーバーの簡単な識別に便利なので、推奨されます。 Net Nameは、SDTIコードが有効でなくても表示されます。
値	Net Nameは、ユーザー設定で、8文字を超えることはできません。
デフォルト値	デフォルトでは、Net Nameは割り当てられていません。

## 4.4.3. Gigabit Connection

### 序文

Gigabit connectionでは、SDTIネットワークを経由せずに、オーディオとビデオデータのバックアップと転送を行います。Gigabit connection設定では、どのインターフェースがEVSサーバー上のGigabit接続を提供するかを、指定します。

Gigabit connectionは、以下のインターフェースのどれかで、以下の特徴を持ち、設定できます：

- 内部GbEボードには、2つの1GbEポートがあります。  
1GbEポートは、内部Gigabit接続の提供に使用できます。
- Gigabit-H3Xボードには、2つの1GbEポートがあります。  
これらのポートは、古い筐体上ではまだ使用可能で、Gigabit接続を提供します。  
しかし、これは、GbEボード上の1GbE接続の帯域より低帯域となります。



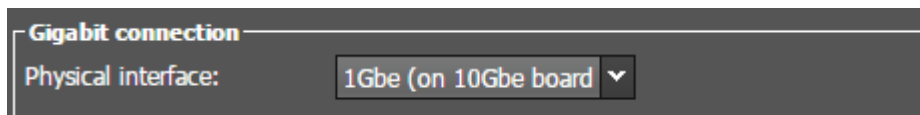
### 警告

Gigabit Connection設定を変更すると、適用には、アプリケーションのリブート(オペレーションウインドウよりALT+Q) が必要となります。

### ユーザーインターフェース

Gigabit connection設定は、以下にあります：

- Multicam Configurationウインドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード  
(サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース内)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内 (T3.X)



### Physical Interface

可用性	この項目は、サーバーが、Gigabit-H3XボードまたはGbEボード内蔵の場合のみ使用できます。
説明	Gigabit Ethernet接続を提供する物理インターフェースを指定します。
値	<p>以下の値を指定できます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>None</b> Gigabitインターフェースはありません。</li> <li>● <b>Gigabit-H3X</b> (新しい筐体では使用できません) Gigabit-H3Xボードの1GbE接続の1つまたは2つを使用できます。</li> <li>● <b>1 GbE (on 10GbE board)</b> 10GbEボード上の1GbE接続の1つまたは2つを使用します。</li> </ul>
デフォルト値	EVSサーバーにインストールされている最も効率的な物理インターフェイスに対応するデフォルト値

## 4.4.4. Gigabit IP Configuration

### 序文

Gigabit IP Configurationでは、Gigabit Connection設定内の**Physical Interface** パラメータ内にどのGbEコネクタが設定されているかにより、Gigabit-H3XボードまたはGbEボード上のGigabit接続のIPアドレスを設定します。



#### 警告

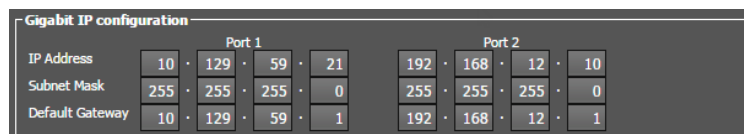
Gigabit settingsの変更は、適用するには、アプリケーションのリブート(オペレーションウインドウよりALT+Q)が必要です。

### ユーザーインターフェース

Gigabit IP Configuration設定は、以下にあります：

- Multicam Configurationウインドウ内、Networkタブ、ベーシックとアドバンスト表示モード内  
(サーバーベースアプリケーション(ページ1)とWebベースインターフェース)
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内 (T3.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのNetworkタブのGigabit IP Configuration設定画面です：



### Gigabit 接続の問題

Gigabitモジュールが存在しない時、または、Gigabit接続がダウンした時には、Gigabit IP Configuration設定の最初のラインに、以下のメッセージを表示します：  
!Not detected!

GbE ボードのGigabit接続がダウンすると、Gigabit IP Configuration設定の最後のラインに、以下のメッセージを表示します：

Connection problem

### IP Address (Port 1/Port 2)

説明	EVSサーバーのGigabit Ethernet接続のport1/port2(もしくはゲートウェイPC)に接続するIPアドレス。
値	IP addresses 0.0.0.0と 255.255.255.255は、設定できません。

### Subnet Mask (Port 1/Port 2)

説明	Gigabit Ethernet接続に割り当てられるアドレススペース内の論理アドレスの範囲。 両方のGbEポートのIPアドレスは、異なるサブネットマスクに属性さなければなりません。 そうでなければ、Multicamは、エラーメッセージを返します。
----	---

### Default Gateway (Port 1/Port 2)

説明	Gigabit Ethernetネットワーク上のルータのIPアドレス。 (外部ネットワークへのアクセスポイントとして動作します)
----	---



## 4.5. Monitoringタブ

### 4.5.1. 概要

Monitoringタブは、マルチビューワ出力設定、OSD情報の表示設定、ダウンコンバート出力コンフィグを含んでいます。以下の表は、Monitoringタブの設定です。

設定グループがどのページにあるか、各設定が可能かどうかを示しています：

- サーバーとWebベースインターフェース内のベーシックとアドバンスト表示モード内
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内(T4.X)

設定名	Basic & Advanced	Technical Setup
<b>Multiviewer設定</b>		
Layout	X	—
Audio Monitoring from video	X	—
Audio Monitoring left-right tracks	X	—
DB15 output	X	—
HD output format	X	—
<b>OSD設定</b>		
Genlock Error	X	X
Disk Error	X	X
<b>NEW !</b>	X	—
Tally		
<b>Monitoring設定</b>		
J3 Player (Char OUT)	X	X
J3 Recorder (Char OUT)	X	X
Char OUT J4	X	X
Char OUT J1	X	X
SD aspect ratio	X	X
SD edge enhancement	X	X

## 4.5.2. Multiviewer設定

### 序文

背面に2つのポートがあり、2つの独立したHD-SDIマルチビューワに接続できます。

これにより、以下のような使い方ができるようになります：

- 1台のEVSサーバーに対して、2人オペレータが独立して作業できます。
- 1人のオペレータが、1番目のマルチビューワでレコーダ表示、2番目のマルチビューワでプレイヤー表示で、作業できます。

**Multiviewer設定**では、各マルチビューワの設定が可能で、表示するチャンネルの組み合わせと数、オーディオとビデオ出力の設定も可能です。



### 注意

EVSサーバーの最新の背面パネルでは、マルチビューワのOUTコネクタは、O1～O2とラベル付けされています。

EVSサーバーの以前の背面パネルでは、O1 → HD-SDI、O2 → SD-SDI とラベル付けされています。

### NEW !

### MV4マルチビューワでのOSD

MV4マルチビューワのモニタリング出力は、個別のSDI Char OUTモニタリング出力(J3/J4)と比較して、以下のOSD情報の主な変更/改善を提供します：

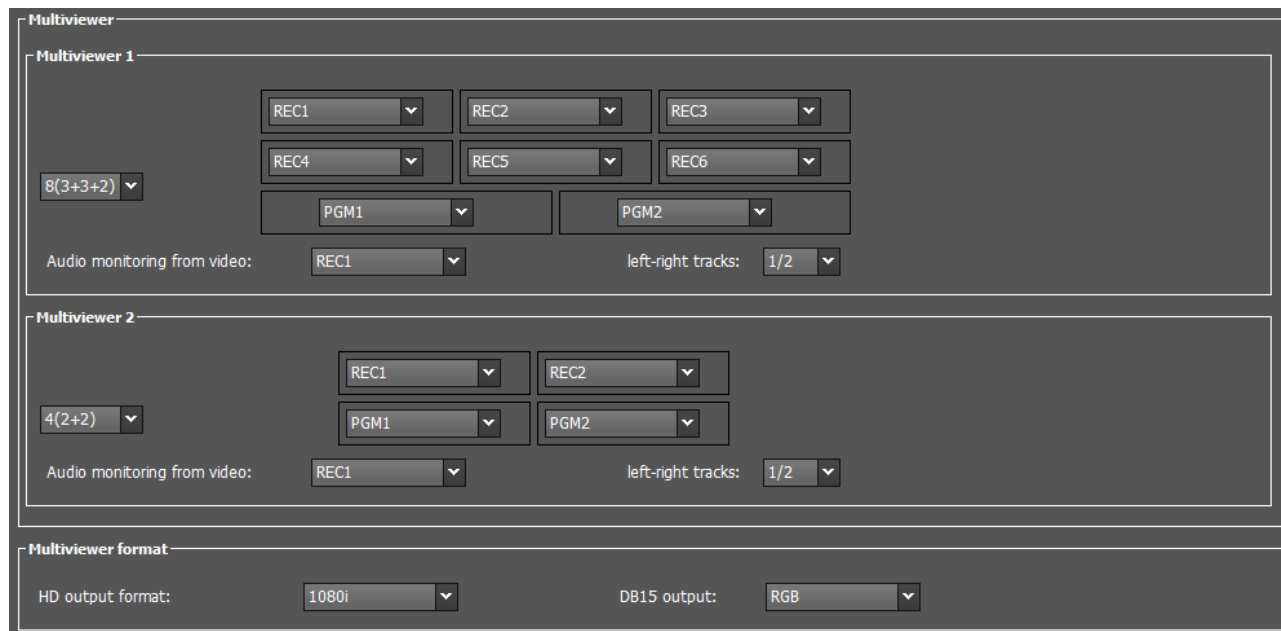
- フルスクリーン上にOSDを表示
- Tally情報をOSD内に組み込み
- チャンネル名を外部UMDからコントロール
- 右マージン上にオーディオメータを表示
- クリップIDと名前(最大24文字)を上右端に表示

## ユーザーインターフェース

Multiviewer設定は、Multicam Configurationウィンドウ内、Monitoringタブにあります。

Multiviewer設定は、マルチビューワボードがEVSサーバーに搭載されている場合にのみ表示されます。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブ内のMultiviewer設定です：



The screenshot displays the Multiviewer configuration interface. It is divided into three main sections:

- Multiviewer 1:** Contains dropdown menus for REC1, REC2, REC3, REC4, REC5, REC6, PGM1, and PGM2. A summary dropdown shows "8(3+3+2)". Below these are "Audio monitoring from video:" (set to REC1) and "left-right tracks:" (set to 1/2).
- Multiviewer 2:** Contains dropdown menus for REC1, REC2, PGM1, and PGM2. A summary dropdown shows "4(2+2)". Below these are "Audio monitoring from video:" (set to REC1) and "left-right tracks:" (set to 1/2).
- Multiviewer format:** Contains "HD output format:" (set to 1080i) and "DB15 output:" (set to RGB).

## Multiviewer 1-2

### ソースの最大の数

**NEW !**

MV4マルチビューワでは、4つのマルチビューワ内に表示されるソースの数の制限はありません。

Quad-MTPCマルチビューワでは、2つのマルチビューワ内に表示されるソースの累積数は、12チャンネルを越えてはなりません。

もし、リクエストしたレイアウトがサポートされていなければ、Multicamはエラーメッセージを表示します。

このため、以下のレイアウトの組み合わせはサポートされていません：

- 8 (Multiviewer 1) + 8 (Multiviewer 2)
- 8 (Multiviewer 1) + 6 (Multiviewer 2)
- 6 (Multiviewer 1) + 8 (Multiviewer 2)

## レイアウト

説明	Multiviewer 1からMultiviewer 2上に、ソースをどのように表示するかを設定します。
値	<p>以下のレイアウトが有効です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4 (2+2)</li> <li>● 6 (4+2)</li> <li>● 6 (3+3)</li> <li>● 8 (3+3+2) (必ずしも全サーバーで有効ではありません)</li> <li>● 1</li> </ul> <p>8 (3+3+2) のレイアウトは、Quad-MTPCマルチビューワのMultiviewer 2では使用できません。</p>
デフォルト値	● 4 (2+2)： 4Uサーバー用

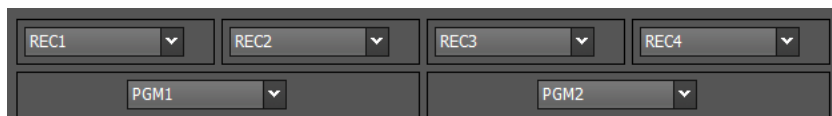
## 有効なレイアウト

有効なレイアウトは、以下の通りです：

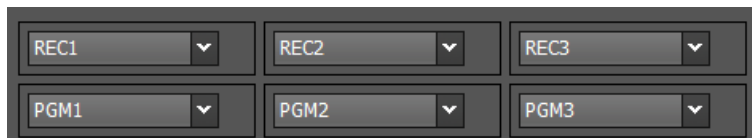
- 4 (2+2)： 4つの同一サイズのイメージ、上に2つ、下に2つ。



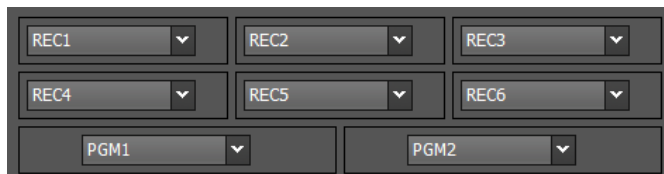
- 6 (4+2)： 4つの小さいサイズのイメージ(上)、2つの大きいイメージ(下)。



- 6 (3+3)： 6つの同一サイズのイメージ、上に3つ、下に3つ。



- 8 (3+3+2)： 6つの小さいサイズのイメージが最初の2列、2つの大きいイメージ(下)。  
このレイアウトは、全てのサーバーで必ずしも有効ではありません。



- 1： MV4マルチビューワで、どのコンフィグでも使用可能です。







## 1 ～ 6の表示

説明	<p>選択したレイアウト内の対応する表示にリンクするソースを指定します。</p> <p>以下を選択できます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 映像なし (none)</li> <li>● PLAYチャンネル (PGM)</li> <li>● RECORDチャンネル (REC)</li> <li>● 背面パネルのMultiviewer I1コネクタへの直接入力 (IN)</li> </ul> <p>直接入力値は、以下でのみ有効です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● MV4マルチビューワ</li> </ul>
値	<p>レコーダまたはプレイヤーチャンネルに有効な値で、Channelsタブ、Channel and control設定内で割り当てられた名前で、以下がデフォルト値です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● none</li> <li>● PGM1～PGM6</li> <li>● REC1～REC6</li> <li>● EXT1</li> </ul>

### Audio monitoring from video

説明	<p>SDI出力経由でモニタリングするオーディオのチャンネルを指定します。</p> <p>これは、各マルチビューワ用に個別に選択できます。</p>
値	<p>値のリストは、上記のマルチビューワ表示用に選択したチャンネルを含んでいます。</p>
デフォルト値	None

### Audio monitoring left-right tracks

説明	<p>モニタリングする選択チャンネルのステレオオーディオトラックのペアを指定します。</p> <p>これは、各マルチビューワ用に個別に選択できます。</p>
値	1/2、3/4、5/6、7/8、9/10、11/12、13/14、15/16
デフォルト値	1/2: デフォルトでは、ソースの最初のステレオペアが選択されます。



## Multiviewer Format

### DB15 output

説明	EVSサーバーの背面パネルのマルチピンマルチビューワ出力に適用する色モデルを設定します。 マルチピンマルチビューワ出力は、HD-SDI出力1に該当します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● RGB HD</li> <li>● YUV HD</li> </ul>
デフォルト値	RGB HD

### HD output format

説明	マルチビューワのHD出力のフォーマットを指定します。 両方のマルチビューワは、同じHD出力フォーマットを使います。
値	Quad-MTPCマルチビューワとMV4マルチビューワ(内部LANなし)の場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 720p</li> <li>● 1080i</li> </ul> MV4マルチビューワ(内部LANあり)の場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1080i</li> <li>● 1080p</li> </ul>
デフォルト値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 720p (EVSサーバーが720pコンフィグの時)</li> <li>● 1080i (その他のコンフィグ時)</li> </ul>

## 4.5.3. OSD設定

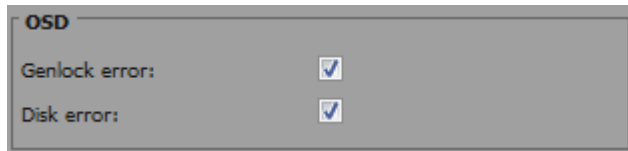
### ユーザーインターフェース

OSD設定では、モニタリング画面上に表示されるOSDと情報に関連する設定を指定できます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウインドウ内、Monitoringタブ
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内 (T4.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブのOSD設定を表示しています：



### Genlock Error

説明	出力モニター上のGenlock情報表示をオン/オフに設定します。 Genlockリファレンスが不正の時には、出力モニター上に、!GkV が表示されます。
数値	Yes(デフォルト) / No

### Disk Error

説明	出力モニター上のディスクエラー情報表示をオン/オフに設定します。 サーバーはRAIDディスクアレイを実装しているため、オペレーションはディスクが1台不良の場合でも継続して行えます。 もしオペレーションの最中に1台のディスクが切り離されると、!Raid が全出力モニター上に表示され、オペレータがアプリケーションをシャットダウンすると別のメッセージが表示され、ディスク交換とRAIDアレイの再コンフィグを促します。
値	Yes(デフォルト) / No

### NEW !

### Tally

説明	Tally信号が表示されるモニタリング出力を設定します。
数値	以下の値が有効です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Char OUT： Tally信号は、Char OUTモニタリング出力の個別OSD上に表示されます。</li> <li>● Multiviewer： Tally信号は、Multiviewerモニタリング出力のOSD上に表示されます。</li> <li>● Char OUT + MVW： Tally信号は、MultiviewerとChar OUTモニタリング出力の両方のOSD上に表示されます。</li> </ul>
デフォルト	Char OUT + MVW

## 4.5.4. Monitoring設定

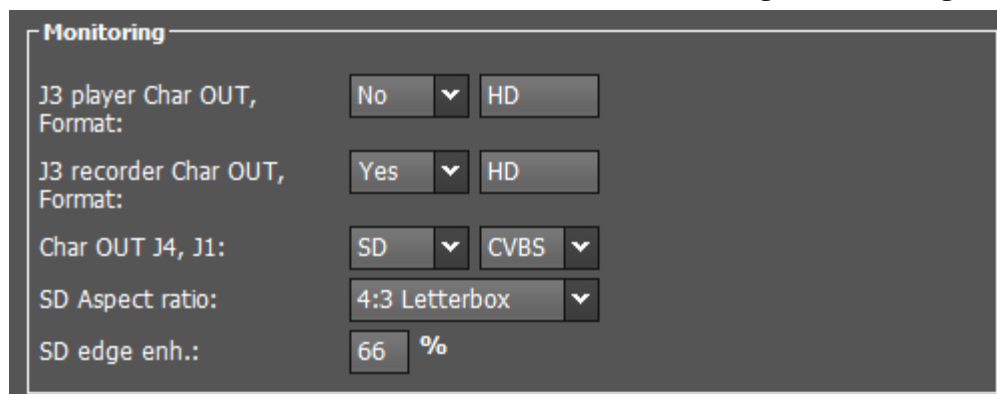
### ユーザーインターフェース

Monitoring設定では、モニタリング出力ラインとHD/SDダウンコンバージョンにリンクするパラメータに関連する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウインドウ内、Monitoringタブ
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内 (T4.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのMonitoringタブのMonitoring設定を表示しています：



**Monitoring**

J3 player Char OUT, Format: No ▼ HD

J3 recorder Char OUT, Format: Yes ▼ HD

Char OUT J4, J1: SD ▼ CVBS ▼

SD Aspect ratio: 4:3 Letterbox ▼

SD edge enh.: 66 %

### J3 player (Char OUT + Format)

説明	<p>プレイヤーチャンネルとして使用されるV3Xコーデックモジュール上のJ3Xコネクタの動作を指定します。</p> <p>以下のいずれかが可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クリーン (ダウンコンバート) 出力 (初期動作)</li> <li>● モニタリング出力 (J4の挙動と同じ)</li> </ul>
値	<p>Char OUT設定に、以下の値が可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● No: J3は、初期動作で使用されます。</li> <li>● Yes: J3は、モニタリング出力として使用されます (J4と同じ)</li> </ul> <p>V3Xボードでは、1つの動作が有効な時には、値は固定になります。</p> <p>Format設定の値は読み取り専用で、実際の出力フォーマットと同一となります。</p>
デフォルト値	No



### J3 recorder (Char OUT + Format)

説明	レコーダチャンネルとして使用されるV3Xコーデックモジュール上のJ3コネクタの動作を設定します。 以下のいずれかの動作が可能です： ● 入力のループ（初期の動作） ● モニタリング出力（J4と同一の動作）
値	Char OUT設定に、以下の値が可能です： ● No: J3は、初期動作で使用されます。 ● Yes: J3は、モニタリング出力として使用されます（J4と同じ） V3Xボードでは、1つの動作が有効な時には、値は固定になります。 Format設定の値は読み取り専用で、実際の出力フォーマットと同一となります。
デフォルト値	No

### Char OUT J4

説明	J4コネクタ上のモニタリング出力フォーマットを設定します。
数値	● SD ● HD
デフォルト値	システムに依存します

### Char OUT J1

説明	J1コネクタ上のモニタリング出力タイプを設定します。
数値	● CVBS

### SD aspect ratio

機能	このパラメータは、EVSサーバーがHDでコンフィグされている時有効です。
説明	HDビデオがSDIにコンバートされるアスペクト比を指定します。
数値	● 4:3 Letterbox: アクティブビデオの上と下に黒のストライプが置かれ、全幅を補償します。 ● 4:3 Crop: アクティブビデオの左と右の端が切り取られ、全高さを補償します。 ● 16:9: HDアスペクト比に対応します。 Anamorphicとも言います。
デフォルト値	4:3 Letterbox

### SD edge enhance.

説明	SDダウンコンバート出力ビデオを生成するときに使用する、エッジエンハンサーの強さを設定します。 された映像出力を生成する際に使われるエッジエンハンサー。の強度をコンフィグします
値	0～100
デフォルト値	66



## 4.6. Protocolタブ

### 4.6.1 概要

Protocolタブは、Sony BVW75プロトコルとEditRec機能で使用する設定を含んでいます。

以下のテーブルは、Protocol タブの設定です。

設定グループがどのページにあるか、各設定が可能かどうかを示しています：

- サーバーとWebベースインターフェース内のベーシックとアドバンスト表示モード内
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内(T5.X)

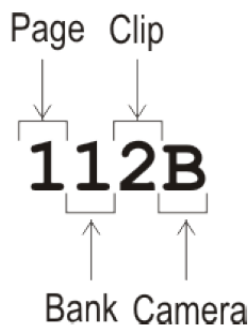
設定名	Basic	Advanced	Technical Setup
<b>Sony BVW設定</b>			
FFW/REW speed	X	X	X
Use guardband	X	X	X
List Remote CAM	X	X	X
SONY Parallel Status	X	X	X
<b>NEW !</b>			
<b>Tally/UMD設定</b>			
Protocol	X	X	—
UMD O/W	X	X	—
Display Index	X	X	—
<b>RS422 VarID設定</b>			
Uniqueness	—	読取専用	—
Length	—	読取専用	—
Format	—	読取専用	—
<b>VDCP visibility設定</b>			
Port #1...6	—	読取専用	—

## 4.6.2. クリップ識別子

### LSM ID

LSMIDは、EVSビデオサーバーの構造に基づいたクリップ識別子です。

LSMIDは、3桁の数字と1文字、例えば112Bで構成され、数字と文字はサーバー構造の以下の要素を示しています：



### UmID

UmIDは、固定長の8バイトIDです。

### VarID

VarIDは、可変長とフォーマットの32バイトIDです。

以下のVarIDパラメータを、設定する必要があります：

- 長さ (8バイト、32バイト)
- フォーマット (ASCII、バイナリ)
- ユニークレベル (local = サーバーレベル、global = ネットワークレベル) – このサーバーでは関連しません
- プロトコル可視化 (サーバーのNet Number一覧) – このサーバーでは関連しません

## 4.6.3. Sony BVW設定

### ユーザーインターフェース

Sony BVW設定では、Sony BVW75プロトコルで使用する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

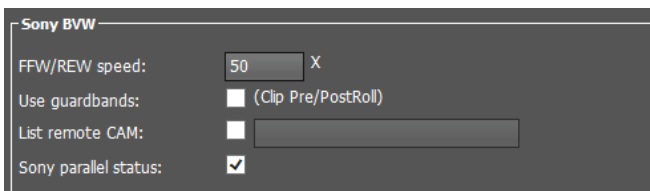
- Multicam Configurationウィンドウ内、Protocolタブ、ページ1、ベーシックとアドバンスド表示モード（サーバーとWebベースインターフェースインターフェース）
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内（T5.X）



#### 警告

Sony BVW設定は、ライセンスコード 118(Sonyプロトコルで動作するときに必要)が有効な時のみ有効です。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのSony BVW設定を表示しています：



#### FFW/REW speed

説明	プロトコルで使用する早送り/巻き戻し操作の速度を設定します。
値	標準速度の2～50倍
デフォルト値	50

#### Use guardband

説明	プロトコルで、OUTのガードバンドを有効にします。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Yes: プロトコルは、INとOUTガードバンドにアクセスします。</li> <li>● No: プロトコルは、INガードバンドのみにアクセスします。</li> </ul>
デフォルト値	No

#### List Remote CAM

説明	Xnetフィールド内で指定されたリモートサーバーのCAMレコーダーにアクセスできます。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Yes: ローカルサーバーとリモートサーバーのレコーダーが、使用可能です。</li> <li>● No: ローカルサーバーのレコーダーのみが、使用可能です。</li> </ul>
デフォルト値	No

#### SONY Parallel Status

説明	複数のコントローラがパラレルモードで使用されるとき、Sonyシリアルコネクションステータスをアクティブにします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes



## 4.6.4. Tally機能

### NEW ! 序文

Tally機能では、プロトコルがEVSサーバーのモニタリング出力上に、Tally情報を送ることが可能です：

- 以前のQuad-MTPCマルチビューワでは、制限されたTally情報が使用可能です。
- Tally情報は、SDI Char Outモニタリング出力経由でも使用可能です。

Tally情報は、異なるOSD要素に、赤色/緑色/琥珀色が適用されて、構成されています。

### 表示されるTally情報

モニタリング出力上に表示されるTally情報は、以下の要素に依存します：

- ハードウェアの構成
- モニタリング出力の選択（Char OUT、MVW）： Monitoringタブ、OSDセクション内のTally設定
- チャンネルの選択（Rec、Play、非表示）： Operationタブ、OSDセクション内のTally設定

以下のテーブルは、ハードウェアに依存してどのTally情報が表示されるかと、Monitoringタブ内のTally設定の要約です。

ハードウェア> Tally値V	SDI Char Out出力	Quad-MTPCマルチビューワ
Char OUT	チャンネル名ハイライト（上左）	何も表示されません
Multiviewer	何も表示されません	チャンネルサムネイル周りの色付きの枠
Char OUT + MVW	チャンネル名ハイライト（上左）	チャンネルサムネイル周りの色付きの枠 + チャンネル名ハイライト（上左）

更に、Operationタブ内のTally設定の値は、Tally情報をRECORDチャンネル、PLAYチャンネル、両方、または、まったく表示しないかどうかを決定します。



### 注意

Quad-MTPCマルチビューワ上のTally情報は、レイアウトの1つのチャンネルにのみ適用できます。

### Protocol TallyとGPI Tally

GPI Tallyは、protocol Tallyの独立したもので、同時にprotocol Tallyとして使用する事はできません。

GPI経由で送られたTallyコマンドは、GPIが設定されたチャンネルのモニタリング出力周りの赤色長方形として表されます。

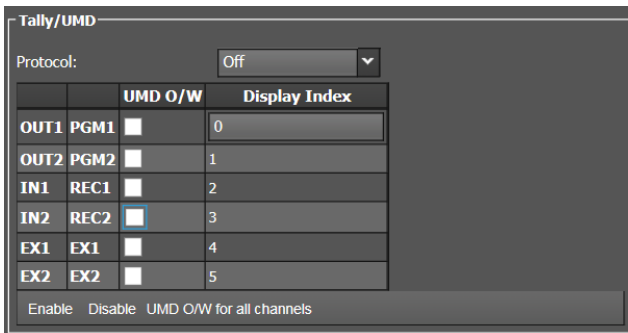
## 4.6.5. Tally/UMD設定

### NEW ! ユーザーインターフェース

Tally/UMD設定では、モニタリング出力(マルチビューワ、個別のOSD)上に表示されるTallyとUMD情報に関する設定を行う事が可能です。

Tally/UMD設定は、サーバーとWEBベースインターフェース内のMulticam Configurationウィンドウ内、Protocolタブ、basicとadvanced表示モードにあります。

以下のスクリーンショットは、WEBベースインターフェース内のProtocolsタブ上のTally/UMD設定です：



### Protocol

説明	UMDとTally情報を提供するコントロールシステムとの通信に使用するUMDプロトコルを設定します
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Off: 通信プロトコルを設定せず、Tally/UMD機能はオフです。</li> <li>● TSL 5.0: Tally/UMD情報を提供するコントロールシステムとの通信にTSLプロトコルを使用します。</li> </ul>
デフォルト値	Off

### UMD O/W

説明	<p>UMDプロトコルに、対応する外部MVW入力名、REC/PGM(Channelsタブ、Channel and Control設定、Nameフィールド)の、コントロールシステム内で設定された名前での上書きを許可します。一旦、チャンネル名が上書きされると、EVSサーバー上で設定されたオリジナルチャンネル名は復元できません。</p> <p>UMD O/Wフィールドをオフにしたら、再入力しなければなりません。</p>
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Yes: チャンネル名は、上書きされます。</li> <li>● No: チャンネル名は、保持されます。</li> </ul>
デフォルト値	No



## Display Index

説明	各EVSサーバー出力(REC/PGM、外部MVW入力)に割り当てられる表示番号。 これは、コントロールシステム内で設定される表示番号に、論理的に、対応します。 最初の番号のみ、手動で設定します。 以降の番号は、インクリメントして割り当てられます。
値	0 ~ 65,535 (TSL 5.0プロトコルでの最大値)
デフォルト値	10 (最初の番号)

## Collective Commands

以下のテーブルは、サーバーベースインターフェース内で使用可能な、Collectiveコマンドの名前、説明、キーボードショートカットを表しています：

コマンド	説明	ショートカット
Enable	モニタリング出力内に表示可能な全てのチャンネル(Rec/Play)と外部入力用の上書きコマンドを有効にします。	CTRL + Y
Disable	モニタリング出力内に表示可能な全てのチャンネル(Rec/Play)と外部入力用の上書きコマンドを無効にします。	CTRL + N

## 4.6.6. RS422 VarID設定

### ユーザーインターフェース

RS422 VarID設定とVDCP visibility設定は、読み取り専用VarID設定を表示します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

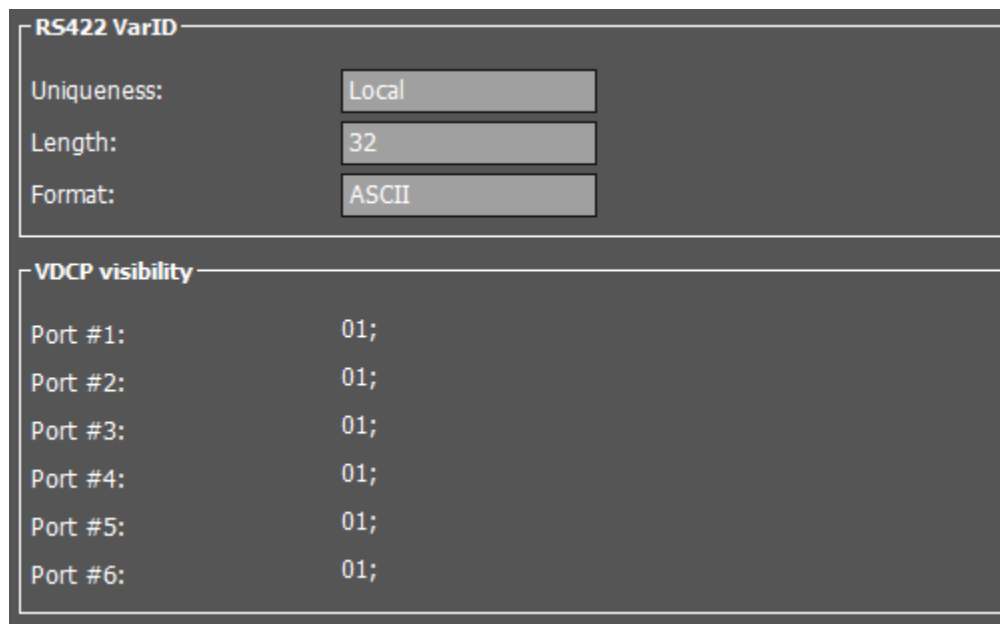
- Multicam Configurationウィンドウ内、Protocolタブ、アドバンスド表示モード  
(サーバーとWebベースインターフェース内)



#### 警告

VDCP visibility設定は、ライセンスコード119(VDCPプロトコルでの作業に必要な)が有効な時に使用可能です。

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのProtocolタブのRS422 VarIDとVDCP visibilityを表しています：



The screenshot shows a configuration window with two sections. The first section, titled 'RS422 VarID', contains three fields: 'Uniqueness' set to 'Local', 'Length' set to '32', and 'Format' set to 'ASCII'. The second section, titled 'VDCP visibility', contains a list of six ports, each with a value of '01;'.

RS422 VarID	
Uniqueness:	Local
Length:	32
Format:	ASCII

VDCP visibility	
Port #1:	01;
Port #2:	01;
Port #3:	01;
Port #4:	01;
Port #5:	01;
Port #6:	01;



## VarID設定とパラメータ



### 警告

VarID設定やパラメータを変更する必要がある場合には、EVSサポートにご連絡ください。

VarIDは、可変長とフォーマットを持つ、32バイトIDです。

VarID設定では、VDCPプロトコルが、サーバー上のクリップIDにアクセスするVarIDの使用を可能にします。

Multicam Configurationメニュー内のこのページは、パラメーター値を表示するのみです。

これらの値は、'varid.ini' ファイルから抽出され、この外部ファイルを編集することでのみ変更できます。

エラーや不定値の場合には、関連するパラメーターにはデフォルト値が使用されます。

## VarIDコンフィグファイル

VarIDパラメータは、コンフィグファイルに記載されています。

このファイル、varid.iniというファイル名のファイルは、C:\¥LSMCE¥DATA directory内に保存されています。

ファイルは、以下の構文を持っています：

```

.....
; VARID settings
;
;-----
;Parameter values and [default]
;
; Uniqueness= [Local] or Global
; Length= [32] or 8
; Format= [ASCII] or Binary
; Visibility= □、 1。。 29、*
;
;                                     default= empty is converted to local XT Net number
;                                     * for all XNet
;
;-----
Uniqueness=Local Length=32 Format=ASCII
1=
2=
3=
4=
5=
6=
.....

```



## Uniqueness

説明	このフィールドは、XTnanoサーバーでは関連しません。
値	強制的に“Local”になり、これは、VarIDがサーバーレベルでユニークであることを意味します。

## Length

説明	VarIDが、8 バイトの固定長か、32バイトの可変長かを指定します。
値	<ul style="list-style-type: none"><li>● 8: 固定長。</li><li>● 32: 可変長。</li></ul>
デフォルト値	32

## Format

説明	VarIDが、ASCIIか、バイナリのフォーマットを持つかを指定します。
値	<ul style="list-style-type: none"><li>● ASCII</li><li>● Binary</li></ul>
デフォルト値	ASCII

## VDCP visibility

説明	このフィールドは、XTnanoサーバーでは関連しません。
値	強制的にデフォルト値になりますが、考慮されません。



## 4.7. GPIタブ

### 4.7.1. 概要

GPIタブは、GPI入力と出力信号の設定を持っています。

以下のテーブルは、GPIタブの設定を表しています。

以下は、設定グループがどこにあるか(ページ)、各設定があるかどうかを表しています：

- サーバベースアプリケーションとWebベースインターフェース内
- NanoリモコンのTechnical Setupメニュー内 (T6.X)上で

設定名	Basic & Advanced	Technical Setup
<b>GPI設定</b>		
TTL GPIs set as GPIs	X	T6.1
<b>GPIs IN</b>		
Channel/Device	X	T6.2 to T6.3
Port	X	T6.2 to T6.3
Function	X	T6.2 to T6.3
Delay	X	T6.4
<b>GPIs OUT</b>		
Function	X	T6.5
Type	X	T6.5
Advance	X	T6.6
Pulse duration	X	T6.6
<b>NEW ! Tally Playlist設定</b>		
Tally	X	X
Add Clip to PL	X	X
Clips guardbands	X	X



## 4.7.2. GPI Settings

### ユーザーインターフェース

GPI settingsでは、GPI入出力機能に関連する設定を行います。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、GPIタブ
- NanoリモコンのTechnicalメニュー内 (T6.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内GPIタブのGPI settingsを表示しています。

GPI settings

TTL GPIs set as GPIs: In ▼

GPIs IN

#	Channel/Device	Port	Function	Delay
1	PGM1 ▼	-- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
2	PGM2 ▼	-- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
3	----- ▼	-- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
4	----- ▼	-- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
5	RMT1 ▼	-- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
6	RMT1 ▼	-- ▼	Previous ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
7	RMT1 ▼	-- ▼	Next ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
8	RMT1 ▼	-- ▼	Play ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr

GPIs OUT

#	Function	Type	Advance	Pulse duration
1	----- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
2	----- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
3	----- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr
4	----- ▼	----- ▼	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr	<input type="checkbox"/> 0 s 0 fr

### 注意

TTL GPIs set as GPIs/パラメータをInに設定すると、表示は上記のように、8 GPIs INと4 GPIs OUTラインを表示します。

Outに設定すると、表示的には4つのGPIs INと、8つのGPIs OUTのラインが表示されます。



## GPI TypesとFunctions

サーバー上では、3タイプのGPIsを使用できます：

- 入力1～4は、フォトカプラ絶縁入力です。
- 出力1～4は、リレー出力です。
- GPIs TTLラインは、4TTL入力または4TTL出力にコンフィグでき、どちらの場合でも番号5～8です。

使っているプロトコル次第では、以下の機能が有効で、下記のFunction/パラメータに記載されているように、GPIsに割り当て可能です。

- Sony: Play、Pause、Recue、Previous、Next、Skip
- DD35: Play、Pause、Recue、Previous、Next、Skip
- Odetics: Play、Pause、Recue、Next
- VDCP: Play、Pause、Recue、Previous、Next、Skip



### 注意

全てのプロトコルでは、デバイスプロトコルタイプ (Sony BVW75、Odetics)の替わりに、チャンネル割り当て(PGM1～PGM6)使用して下さい。

## TTL GPIs set as GPIs

説明	4つの設定可能GPIsを、入力または出力に設定します。
値	In / Out
デフォルト値	In

## GPIs IN – Channel/Device

説明	サーバーチャンネル、または対応するGPI入力ラインに接続されている外部デバイスを指定、すなわち、どのチャンネルまたはデバイスにGPIが送られるかを指定します。
値	下記の値が有効で、Channel and Control設定(Channelタブ、ページ1)内で割り当てられているチャンネルまたはコントローラの1つに対応しています： <ul style="list-style-type: none"> <li>● PGMx: GPIは、指定したPLAYチャンネルに送られます。</li> <li>● RECx: GPIは、指定したRECORDチャンネルに送られます。</li> <li>● RMTx: GPIは、Nanoリモコンに送られます。</li> <li>● &lt;Protocol Name&gt;: GPIは、サードパーティーコントロールデバイスに送られます。</li> </ul>

## GPIs IN – Port

説明	入力信号を受け取るサーバーのRS422ポートを指定します。 この設定は、デバイスがNanoリモコンまたはサードパーティーコントローラーのときに、関係します。
値	可能な値は、1～16です： これは、Port設定内(Channelsタブ、ページ1)で、Channel/Deviceフィールド内で指定されたコントローラが割り当てられるRS422ポートに対応しています。

## GPIs IN – Function

説明	GPI入力ラインに関連付ける機能を指定します。 設定したプロトコルに依存して、以下に記載された一部または全部の機能を使用できます。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Play:</b> 選択チャンネル上で、100%PLAYコマンドを送ります。</li> <li>● <b>Pause:</b> 選択チャンネル上で、PAUSEコマンドを送ります。</li> <li>● <b>Recue:</b> 選択チャンネル上で、オンエア素材のINポイントへのJUMPを送ります。 (プレイリストの場合には、プレイリストの最初のクリップのINポイントにジャンプします)</li> <li>● <b>Previous:</b> 選択チャンネル上で、プレイリストの前のクリップにGoToするコマンドを送ります。</li> <li>● <b>Next:</b> 選択チャンネル上で、プレイリストの次のクリップにGoToするコマンドを送ります。</li> <li>● <b>Skip:</b> 選択チャンネル上で、再生中のクリップをSKIPするコマンドを送ります。</li> <li>● <b>Tally:</b> 選択チャンネル上で、オンエアフラグをオン/オフします。 (このGPIは、IPDirectorでのみ使います)</li> <li>● <b>Mark IN:</b> 対応するRECORDチャンネル上に、INポイントを設定します。</li> <li>● <b>Mark OUT:</b> 対応するRECORDチャンネル上に、OUTポイントを設定します。</li> <li>● <b>Mark Tly:</b> ディレクターズカットのカメラアングル変更に基づいて、レコードトレイン上にINとOUTポイントを設定します。 ディレクターが切り替えた先のトレイン上にINポイントが設定され、ディレクターが離れるとOUTポイントを設定します。</li> <li>● <b>Exit ASP:</b> 現在の素材を最後まで再生せずに、可能な限り早くループを終了して、選択素材にJUMPするコマンドを送ります。 (このGPIは、IPDirectorのプレイリストで使用します)</li> <li>● <b>Exit OUT:</b> 現在の素材のOUTポイントに着くと、可能な限り早くループを終了して、選択素材にJUMPするコマンドを送ります。 (このGPIは、IPDirectorのプレイリストで使用します)</li> <li>● <b>None:</b> 値を設定しません。</li> </ul>
デフォルト値	None

## GPIs IN – Delay

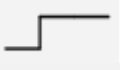



説明	サーバーが、入力信号を受けてから、入力に関連する機能を実行するまでの待ち時間(秒/フレーム)を設定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 00s00fr ~ 02s00fr</li> <li>● Disable</li> </ul>
デフォルト値	Disable

## GPIs OUT – Function

説明	出力ラインをアクティブにする機能を設定します。
値	以下の機能が、GPI OUTにトリガできます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Replace</b></li> </ul>



## GPIs OUT – Type

説明	指定機能にトリガするGPI出力信号を設定します。	
値	以下の値が使用可能です：	
● close		動作時、レベルがHIGHレベルに替わります。
● close pulse		動作時、立ち上がりエッジパルスが作成されます。
● open		動作時、レベルがLOWレベルに替わります。
● open pulse		動作時、立ち下がりエッジパルスが作成されます。

## GPIs OUT – Advance

説明	出力ラインにリンクしたタイムコードより先の出力が作成される時間(秒/フレーム)を指定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 00s00fr ~ 02s00fr</li> <li>● Disable</li> </ul>
デフォルト値	Disable

## GPIs OUT – Pulse duration

説明	パルスタイプ出力ライン用のパルスデュレーション(秒/フレーム)を設定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 00s00fr ~ 02s00fr (2フレームステップ)</li> <li>● Disable</li> </ul>
デフォルト値	Disable

## 4.7.3. Tally Playlist設定

### NEW ! 序文

TALLY Playlist設定では、タリー機能関連の設定を行います。

この機能は、ディレクターズカットとともに実行され、カメラ映像が切り替わるたびに自動的にクリップを作成し、プレイリストにそれらのクリップを追加します。

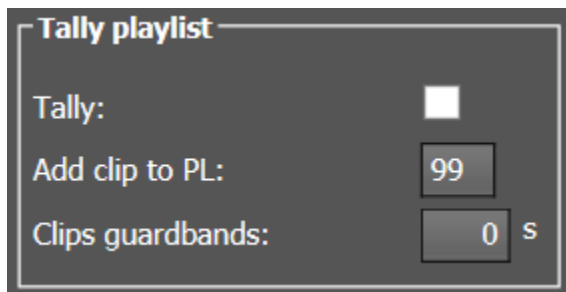
ディレクターがカメラアングルを変更するたびに、スイッチャーからGPI IN信号を受け、自動的にクリップを作成します

### ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、GPIタブ
- NanoリモコンのTechnicalメニュー (T6.X)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのGPIタブ上のTally設定です：



### Tally Playlist機能を有効化にする方法

タリー機能を使うには、以下を行います：

1. Tallyノパラメータを使って有効化します。
2. GPIs IN設定エリアに移動し、タリー制御で使用するGPI INを選択します。
3. Director'sCutが起動しているREC上のChannel/Deviceを設定します。
4. 機能を、Mark Tlyに設定します。

タリー機能が有効になり、以下のように動作します：

サーバーが 'Mark tally' GPI INを受けると、対応するレコードトレイン(例: CAM A)上にINポイントがマークされます。異なるレコードトレイン上(例: CAM B)で、2番目の 'Mark Tally' GPI IN を受けると、サーバーは、最初のレコードトレイン(CAM A)上にOUTポイントを、2番目のレコードトレイン(CAM B)上にINポイントをマークします。

この方法で作成された全てのクリップは、指定プレイリストに追加されます。



## Tally

説明	タリー機能を有効/無効化します。
値	Yes/No
デフォルト値	Yes

## Add clip to PL

説明	プレイリストのLSMIDを選択し、そこにタリーのクリップが追加されます。
値	10 ～99
デフォルト値	99

## Clips guardbands

説明	タリークリップのガードバンドの長さを、秒で設定します。
値	0～ 250
デフォルト値	0



## 4.8. Operationタブ

### 4.8.1. 概要

#### Operationタブ

Operationタブは、オペレーション設定を持つデフォルトタブとして使用可能です。

サーバーベースアプリケーションのベーシックモードで複数のページでコンフィグされています。

このタブには、アドバンスモードはありません。

以下の表は、Operationタブの設定です。

色々な設定が可能かどうかを示しています：

- サーバーベースアプリケーション/Webベースインターフェース内のベーシック/アドバンス表示モード
- Nanoリモコンの Operational Setup メニュー

#### OSD Settings

設定名	Basic	Operational Setup
OSD settings		1.x
Cue Number on OSD	X	X
OSD on outputs	X	X
OSD on inputs	X	X
Background	X	X
<b>NEW !</b> Tally	X	X
Audio meters OSD settings		1.x
Audio Meters	X	X
DB Adjust	X	X
Style	X	X
Thickness	X	X

#### Clips Settings

設定名	Basic	Operational Setup
Clips settings		2.x
Automake clip for cam A to F、A to D	X	X
Guardbands	X	X
Default clip duration	X	X
Autoname clips	X	X
<b>NEW !</b> Clip post-roll	X	X
Mark cue points	X	X
Preroll	X	X
Record trains OUTs	X	X
<b>NEW !</b> Freeze on cue points	X	X
Default copy/move	X	X



Codec target	X	X
Protocol receive page	X	X
Playlist receive page	X	X

## Playlist Settings

設定名	Basic	Operational Setup
<b>Playlist settings</b>		3.x
Video effect duration	X	X
Wipe type	X	X
Default playlist speed	X	X
<b>NEW !</b> Insert SLSM native speed	X	X
Insert in playlist	X	X
Confirm Ins/Del clips	X	X
Playlist loop	X	X
Playlist auto fill	X	X
Fade to/from color	X	X
Load playlist	X	X

## Miscellaneous Settings

設定名	Basic	Operational Setup
<b>Protection settings</b>		5.x
Protect pages	X	X
Confirm delete clips/playlists	X	X
<b>Push settings</b>		7.x
Push target	X	X
Codec target	X	X
Push target 1/2	X	X
Push mode	X	X
Push receive page	X	X
Push receive slots	X	X
<b>Audio settings</b>		8.x
Audio slow motion	X	X
Lipsync value	X	X
Aux track output	X	X

## EVS Controller Settings

設定名	Basic	Operational Setup
<b>Controller settings</b>		9.x
Effect duration for take	X	X
Fast jog	X	X
PGM Speed/Var max	X	X
Lever engage mode	X	X
Second lever range	X	X
Recall clip toggle	X	X



Record key	X	X
VGA & Remote sync	X	X
PGM/PRV mode	X	X
Internal loop mode	X	X
<b>NEW !</b> Loop button	X	X

## Special Effects Settings

設定名	Basic	Operational Setup
Special Effects settings		12.x
Set colour for	X	X
Colour	X	X
Custom Y	X	X
Custom U	X	X
Custom V	X	X
Epsio	X	X
IP address	X	X
Default tool	X	X
Auto mark	X	X



## 4.8.2. OSD設定

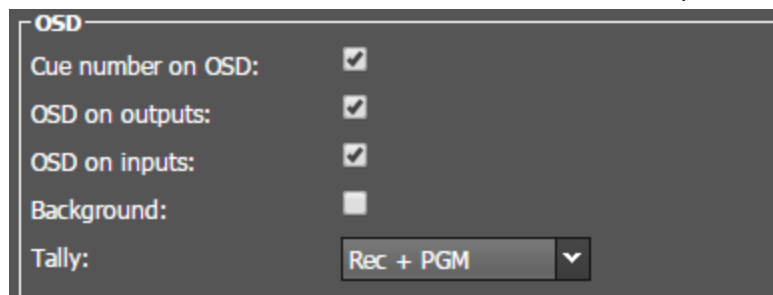
### ユーザーインターフェース

OSD設定では、OSD上にどの情報がどのように表示されるかを設定します。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、Operationタブ
- NanoリモコンのOperationalメニュー内(1.1)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブのOSD設定です：



#### Cue number on OSD

説明	レコードトレイン内のキューポイントを呼び出した時、出力モニター上のOSDのキューポイント番号の表示をオン/オフします。
値	Yes (デフォルト) / No

#### OSD on outputs

説明	PLAYチャンネル上のOSD表示をオン/オフします。
値	Yes (デフォルト) / No

#### OSD on inputs

説明	RECORDチャンネル上のOSD表示をオン/オフします。
値	Yes (デフォルト) / No

#### Background

説明	OSD表示に、濃い灰色背景を適用します。
値	Yes / No (デフォルト)

**NEW ! Tally**

説明	Tally信号が、RECORD、PLAYチャンネル上に表示されるかどうかを設定します。
値	以下の値が、設定可能です： <ul style="list-style-type: none"><li>● <b>No:</b> Tally信号は、全てのモニタリング出力上に表示されません。</li><li>● <b>Rec only:</b> Tally信号は、RECORDチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。</li><li>● <b>PGM only:</b> Tally信号は、PLAYチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。</li><li>● <b>Rec + PGM:</b> Tally信号は、RECORDとPLAYチャンネルのモニタリング出力上に表示されます。</li></ul>
デフォルト値	PGM + REC

## 4.8.3. Audio meters OSD設定

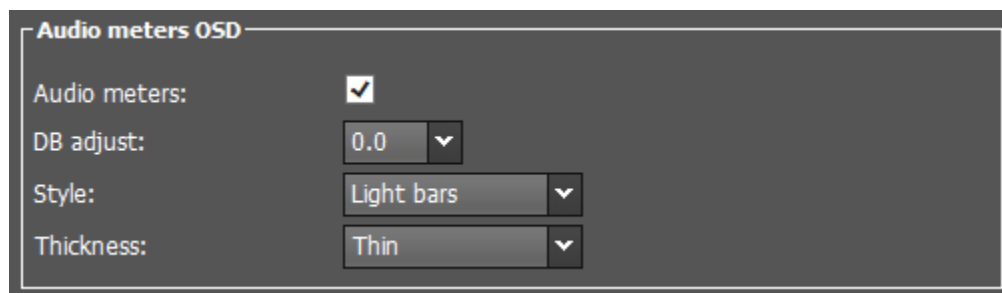
### ユーザーインターフェース

Audio meters OSD設定では、OSD上のオーディオメータ表示のオン/オフ、表示方法を設定します。

これらは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ内、Operationタブ
- NanoリモコンのOperationalメニュー内 (1.2)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブ上のAudio meters OSD設定を表示しています：



#### Audio meters

説明	OSD上のオーディオメータの表示をオン/オフします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

#### DB adjust

説明	表示オーディオメーターの値を調整します。
値	-83.2～0.0 dB、可増。 (低い値ではより大きく、値が増加するとより小さく)
デフォルト値	0.0

#### Style

説明	オーディオメーターのスタイルを設定します。
値	Light Bars、Glowing Boxes、Dark Boxes、Light Boxes、Dark Bars
デフォルト値	Light Bars

#### Thickness

説明	オーディオメーターの厚さを設定します。
値	Thin、Medium、Thick
デフォルト値	Thin

## 4.8.4. Clips設定

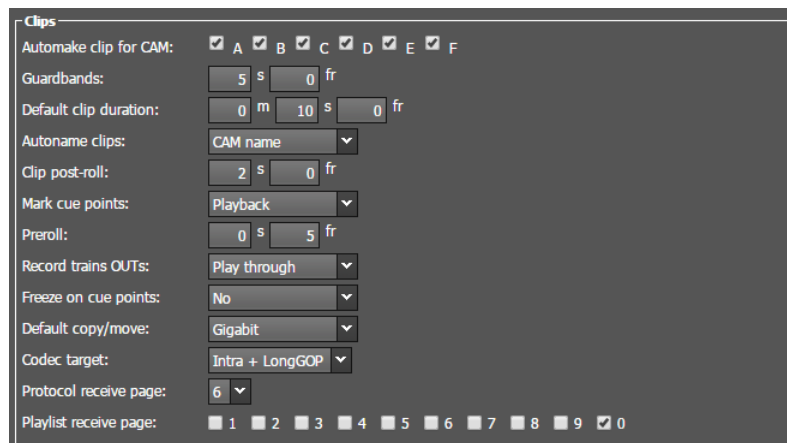
### ユーザーインターフェイス

Clips設定は、クリップ管理の様々な要素に関連しています：  
クリップ定義、ストレージの場所、メタデータ、キューポイント

Clips設定は、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンのOperationalメニュー内 (2.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのClips設定です：



### Automake clip for CAM A to F

有効性	このパラメータは、SportLightコンフィグでのみ表示されます。
紹介	クリップ作成時、IN/OUTポイントがマークされたカメラに対応するクリップは常に保存されます。 他のカメラに対しても、自動的に同じ動作を保存することが可能です。 論理チャンネルに適用されているカメラ文字のみが表示されます。
説明	指定カメラ(A～F)上でINまたはOUTポイントがマークされなくても、クリップを作成します。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

### Guardbands

説明	クリップ作成時に、クリップの前後に利用可能で保持するA/V素材(ガードバンド)の量を指定します
値	00s00fr～ 60s00fr
デフォルト値	05s00fr



## Default clip duration

説明	1つの基準点(INまたはOUT)で作成されるクリップのデュレーションを設定します。
値	Disable、または、00s01fr～ 4h。 'Disable'に設定すると、クリップ作成にはINとOUTポイント両方が必要です。 デュレーションは、以下に設定できます: ● 秒単位で、1分まで ● 分単位で、1分から4時間まで
デフォルト値	04s00fr

## Autoname clips

説明	この機能が有効な場合には、選択フィールドの値が、クリップ作成時の名前付けに自動的に使用されます。
値	以下のフィールドからの値が、クリップの自動名前付けに使用されます: ● <b>Disable:</b> クリップ作成時に、名前は付けられません。 ● <b>TC IN:</b> クリップ作成時に、クリップのINポイントのタイムコードが自動的に割り当てられます。 ● <b>CAM Name:</b> クリップ作成時に、RECORDチャンネルの名前が自動的に割り当てられます。 ● <b>ID Louth:</b> クリップ作成時に、クリップのID Louth(XNetネットワーク上のクリップのユニーク識別子)が自動的に割り当てられます。 ● <b>VarID 32:</b> クリップ作成時に、クリップのVarIDが割り当てられます。 このオプションを選択すると、クリップの名前割り当てに使用するVarIDは、この フィールドの最初の8文字に制限されます。
デフォルト値	Disable

## Clip post-roll

説明	Secondary clipメニューからpost-roll機能が有効な場合、クリップは、Clip post-roll/パラメータで設定されたデュレーション間OUTポイントを越えて再生します。 によって規定された期間OUT点以降まで再生します。 これは、Record Train OUTs/パラメータが'Freeze'に設定されている時には、レコードトレイン内でも有効です。
<b>NEW !</b> 値	00s00fr ~ 600s00fr
デフォルト値	02s00fr



## Mark cue points

説明	キューポイントタイムコードが、どのように記録されるか設定します。
値	2つの値が、選択できます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Live:</b> ライブ入力のタイムコードを基に、キューポイントを記録します。</li> <li>● <b>Playback:</b> メインPLAYチャンネル上にロードされているフィールドのタイムコードを基に、キューポイントを記録します。</li> </ul>
デフォルト値	Live

## Preroll

説明	キューポイント呼び出し時に使用するプリロールデュレーション。
値	0s01fr ~ 5s00fr
デフォルト値	0s05fr

## Record trains OUTs

説明	Multicamが、再生中に、レコードトレイン上にマークされたOUTポイントに到達した時に、フリーズするか、再生し続けるか、を設定します。
値	2つの値が、選択できます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Play through:</b> MulticamはOUTポイントへのカウントダウンはしますが、その点では停止せず再生を続けます。</li> <li>● <b>Freeze:</b> MulticamはOUTポイントへカウントダウンし、自動的にフリーズします:  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Post-rollがOFFの場合には、そのポイント上でフリーズ</li> <li>○ Post-rollがONの場合には、そのポイント+post-rollデュレーション進んでからフリーズ</li> </ul> クリップ再生時には、Multicamは、常にOUTポイント上でフリーズします。  (Post-rollがONの場合には、OUTポイント+post-rollデュレーション)。</li> </ul>
デフォルト値	Play through

## Default copy/move

説明	コピー操作の実行時に、優先的に、Gigabitネットワークを使用するかを指定します。
値	値は、強制的に“Gigabit”になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Gigabit:</b> GbEインターフェイス経由でのコピーが実行されます。</li> </ul>



## NEW ! Freeze on cue points

説明	再生中のクリップまたはレコードトレイン上のキューポイントに到達すると、Multicamがフリーズするか、しないか、を設定します。 この機能では、post-rollパラメータは考慮されません。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● No: クリップ/レコードトレイン再生時、再生はキューポイントを超えて再生します。</li> <li>● Clips + Trains: キューポイントが設定されたクリップ/レコードトレイン再生時、再生はキューポイント上でフリーズします。</li> <li>NEW ! ● Clips: キューポイントが設定されたクリップ再生時、再生はキューポイント上でフリーズします。</li> <li>NEW ! ● Record Trains: キューポイントが設定されたレコードトレイン再生時、再生はキューポイント上でフリーズします。</li> </ul>
デフォルト値	No

## Codec target

説明	リモートサーバーにクリップをコピーする場合に、クリップのどちらのエッセンスを使用するかを指定します。
値	XTnanoサーバーでは関連しないので、強制的に“ <b>Intra</b> ”になります。 ● <b>Intra</b> : イントラエッセンスのみがコピーされます。

## Protocol Receive page

説明	プロトコルにより作成されたクリップが保存されるページを指定します。 ページが一杯の場合には、クリップは次のページに保存されます。 このページ上に作成されたクリップ(最初のページが一杯の場合には他のページ)のみが、プロトコルから閲覧できます。
値	1 ~ 10(=0)
デフォルト値	6

## Playlist Receive page

紹介	この設定は、ローカルまたはネットワークプレイリストのコピー時に、ユーザーに全てのネットワーククリップのローカルコピーの自動的な作成を許可するコピー機能とリンクしています。
有効性	ライセンスコード111が有効な場合のみ、設定できます。
説明	PLST+CLIPコピー機能使用時、受け取ったクリップが保存されるページを指定します。 クリップページは、同時に、PUSHとPLST Receiveページに割り当てられます。
値	1 ~ 10(=0)
デフォルト値	0 (page 10)

## 4.8.5. Playlist設定

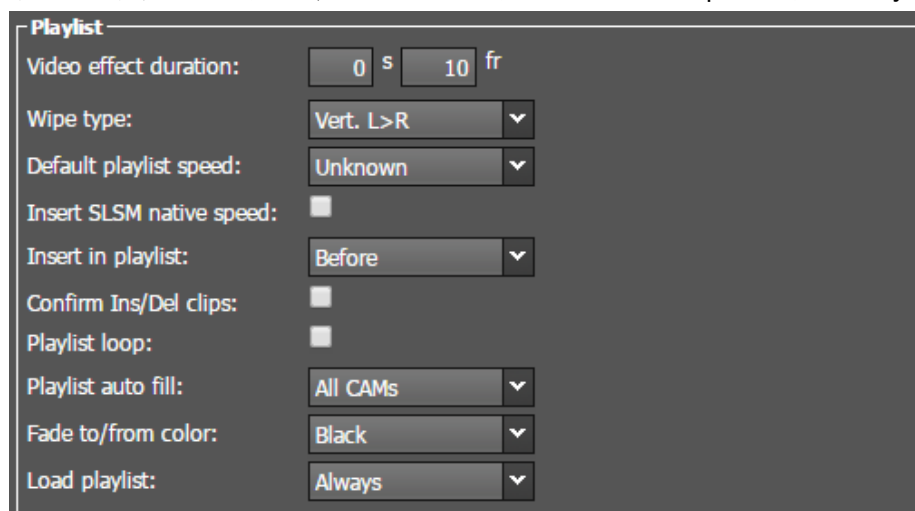
### ユーザーインターフェース

Playlist設定は、プレイリストの管理とエフェクトのさまざまな側面に関連します。

これらのフィールドは、以下のインターフェイス内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンのOperational setupメニュー内 (3.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのPlaylist設定です：



### 有効性

Playlist設定は、ライセンスコード111が有効な場合のみ使用できます。

プロトコル経由で、排他的に、プレイリストの作成と管理も可能です。

この場合には、Playlist設定は使用できず、プレイリスト関連の全てのパラメータは、制御アプリケーションまたはデバイスにより設定されます。

### Video effect duration

説明	ビデオトランジションエフェクトのデュレーションを設定します。 設定値は、Playlist Editモードのデフォルト値として使用されます。 1PGM+PRVモードのTAKEボタン使用時のビデオトランジションのデュレーションは独自のパラメータEffect for takeを持ち、OperationタブのEVS Controllerエリア内で設定します。
値	0s00fr ~ 20s00fr
デフォルト値	00s10fr

### Wipe type

説明	垂直ワイプエフェクトを設定します。
値	Vert. L>R / Vert. R>L
デフォルト値	Vert. L>R





## Default playlist speed

説明	プレイリスト内のクリップ再生で使用する、デフォルトスピードを設定します。
値	以下の値が可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Unknown</b>: プレイリスト内の前のクリップのスピードを、現在のクリップのリファレンスとして使用します。</li> <li>● <b>0%</b>: 各クリップの最後でプレイリストを強制一時停止します。</li> <li>● <b>1% ~ 100%</b>: 設定スピードを、プレイリスト素材用のデフォルトスピードとして適用します。</li> </ul>
デフォルト値	Unknown

## NEW ! Insert SLISM native speed

説明	プレイリストに挿入されたSLISMクリップが、自動的にネイティブ速度で再生されるようにセットされるか、 <b>Default playlist speed</b> パラメータで設定された値でセットされるかを設定します。
値	以下の値が可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>No</b>: SLISMクリップの再生速度は、<b>Default playlist speed</b>内で設定されている値に依存します。</li> <li>● <b>Yes</b>: SLISMクリップの再生速度は、自動的に、ネイティブ速度にセットされます。</li> </ul>
デフォルト値	No

## Insert in playlist

説明	クリップをプレイリストに追加する時に、プレイリスト内のアクティブクリップの前/後ろに挿入されるかを設定します。
値	After / Before
デフォルト値	Before

## Confirm Ins/Del clips

説明	クリップをプレイリストに追加、またはプレイリストからクリップを削除する時に、毎回、確認が必要かどうかを設定します。
値	Yes / No
デフォルト値	No

## Playlist loop

説明	PLAYモード内のプレイリストを、ループさせ、連続再生させるかどうかを設定します。
値	Yes / No
デフォルト値	No



## Playlist auto fill

説明	NanoリモコンのメインメニューからFill Playlist (F9)機能を使うとき、どのカメラアングルがプレイリストに追加されるかを設定します。
値	<p>以下の値が可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>All Cam</b>: 全てのカメラアングルのクリップが、プレイリストに追加されます。</li> <li>● <b>Prim+Sec</b>: プライマリとセカンダリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加されます。</li> <li>● <b>Primary</b>: プライマリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加されます。</li> <li>● <b>Secondary</b>: セカンダリカメラアングルに対応するクリップが、プレイリストに追加されます。</li> <li>● <b>Cam A、Cam B、Cam C、Cam D</b>: 設定されたカメラアングルに対応するクリップがプレイリストに追加されます。</li> </ul>
デフォルト値	All Cam

## Fade to/from color

説明	トランジションエフェクトの「fade to color」、「fade from color」、「fade to/from color」(V fade)で使用される色を設定します。
値	Black / White
デフォルト値	Black

## Load Playlist

説明	このパラメータは、2PGMまたは3PGMモード内でのみ使用されます。
値	<p>以下の値が可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Always</b>: 選択したプレイリストを、常に、PGM/PRVモードでロードします。</li> <li>● <b>Conditional</b>: Playlist Editモードに入ったときに1つのチャンネルのみがアクティブな場合には、選択したプレイリストを選択PGM上のみロードします。</li> </ul> <p>1つのNANOリモコンを使用して、複数プレイリストのロード/再生が可能です。</p>
デフォルト値	Always

## 4.8.6. Protection設定

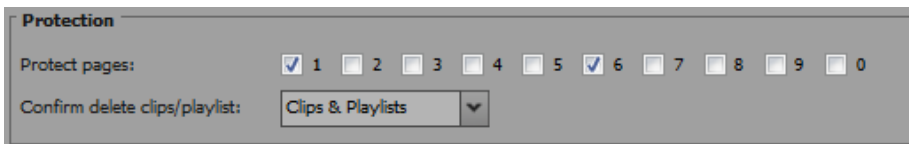
### ユーザーインターフェース

Protection設定は、EVSサーバー上に保存されているクリップを削除から防ぐ目的です。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンのOperational setupメニュー内 (5.1)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのProtection設定を表示しています。



### Protect pages

説明	そのページ上に保存されているクリップを過失による削除から保護するページを指定します。これらのページ上に保存されたクリップは、NanoリモコンのメインメニューのClear All Clips (F7)機能使用時にも、保護されます。
値	ページ 1～10 (=0)。 複数ページも、選択可能です。



#### 警告

サーバーベースアプリケーションアプリケーションのMulticam Setupウィンドウ内でClear Video Disksを選択すると、保護クリップを含む、全てのクリップが削除されます。

### Confirm delete clips/playlists

説明	クリップ/プレイリスト、または両方を消去するときに、確認要求をするように設定します。
値	以下の値が、可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Off: クリップとプレイリストは、即座に削除されます。</li> <li>● Clips: クリップ削除時に確認要求されますが、プレイリスト削除時にはありません。</li> <li>● Playlists: プレイリスト削除に確認要求されますが、クリップ削除時にはありません。</li> <li>● Clips &amp; Playlists: クリップ/プレイリストいずれの削除でも、確認要求されます。</li> </ul>
デフォルト値	Off



#### 注意

このパラメータは、Clear Video Disksコマンド(サーバーベースアプリケーションアプリケーションのMulticam Setupウィンドウ内)には適用されず、このコマンドは独自の確認メッセージを持っています。

## 4.8.7. Push設定

### ユーザーインターフェース

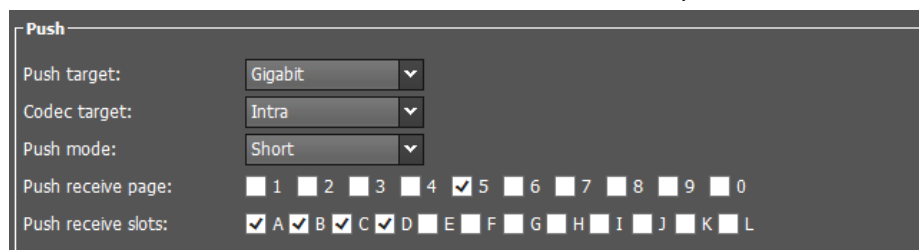
Push設定は、EVSサーバーのPush機能の管理に関連します。

Push機能では、ネットワーク上の他のマシンへ、GbEネットワーク経由で、クリップのコピーを簡単に送れます。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンOperational setup内 (7.1)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブのPush設定です。



### Push target

説明	<p>選択時に、どのEVSサーバーが、プッシュ動作のターゲットとしてリスト表示されるかを設定します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設定内のデフォルトTarget 1とTarget 2、または</li> <li>● デフォルトターゲット未設定時の、指定プッシュ動作のターゲット</li> </ul>
値	<p>値は強制的に以下になります：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Gigabit:</b> GbEネットワーク経由で到達可能なEVSサーバーのみリスト表示されます。 サーバーは、GbEサーバー名とIPアドレスで表示されます。</li> </ul>
デフォルト値	Gigabit

### Codec target

説明	プッシュ動作時に、クリップのどのエッセンスが使われるかを設定します。
値	<p>値は、強制的に“Intra”になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Intra:</b> クリップのIntraエッセンスのみがプッシュされます。</li> </ul>



## Push Target 1 / 2

有効性	これらのパラメータは、サーバーベースアプリケーションでのみ使用可能で、Webベースインターフェースにはありません。
説明	<p>オペレーターがNanoリモコン上の<b>PUSH</b>機能を使ったとき、クリップが自動的に送られるネットワーク上のマシンを設定します。</p> <p>この設定内で指定されたマシンは、クリップコピー時のデフォルトターゲットとしても使用されます。ユーザーは、2つのデフォルトターゲットを設定可能です： Target 1/ Target 2。</p> <p>クリップは、順番にプッシュされます。</p>
値	<p>値のリストは、<b>Target</b>設定に割り当てられた値に依存して、表示されます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ————：</li> </ul> <p>このパラメータ内にターゲットが設定されていないとき、ユーザーは<b>PUSH</b>機能要求時に、目的のターゲットを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;GbE server name and IP Address&gt;</li> </ul> <p>GbEサーバー名とIPアドレスがリスト表示され、GbEネットワーク上に属するターゲットに 割り当てられます。</p>
デフォルト値	———— (ターゲットマシン未指定)

## Push mode

説明	クリップが、 <b>PUSH</b> 機能を使いどのように送られるか、つまりオリジナルのガードバンド込みかそうでないか、を設定します。
値	<p>以下の値が、可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Short:</b></li> </ul> <p>クリップはShort INからShort OUTポイントまで送られ、転送先のサーバーのガードバンドが付加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Long:</b></li> </ul> <p>クリップは、Protect INからProtect OUTまで送られます。</p>
デフォルト値	Short

## Push receive page

説明	<p>他のネットワークオペレータが<b>PUSH</b>機能を使って送ったクリップが、最初に保存される自分のマシンのページを指定します。</p> <p>最初のページの優先スロットが一杯の場合には、次のページの優先スロット上に保存されます。</p>
値	<p>Page1 ~ 10 (=0)。</p> <p>ひとつのページが選択可能です。</p>
デフォルト値	(Page)5

## Push receive slots

説明	プッシュされたクリップが優先的に保存される、 <b>Push Receive Page</b> 設定で指定したページ上の開始クリップ位置(A~L)を指定します。
値	<p>スロットAからL。</p> <p>複数スロットを選択できます。</p>
デフォルト値	(CAM) A、B、C、D

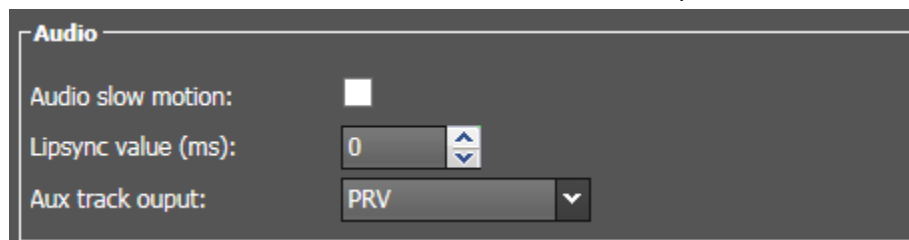
## 4.8.8. Audio設定

### ユーザーインターフェース

これらは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンのOperational setupメニュー内(8.1)

以下のスクリーンショットは、WebベースインターフェースのOperationタブ上のAudio設定を表示しています：



### Audio slow motion

説明	再生速度が100%以外のとき、オーディオトラックを再生するか、ミュートするかを設定します。
値	以下の値が、有効です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Yes: 再生中、オーディオトラックはミュートされません。</li> <li>● No: 再生中、オーディオトラックはミュートされます。</li> </ul>
デフォルト値	No

### Lipsync value (ms)

説明	ビデオとオーディオ信号間のディレイ値(ms)を設定します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● +値は、ビデオがオーディオより前です。</li> <li>● -値は、オーディオがビデオの前です。</li> </ul>
値	以下の値が、可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● PALの範囲: -41,458～14,708 ms → 848 ～3544サンプル、0 ms → 2838サンプル</li> <li>● NTSCの範囲: -34,625～12,125 ms → 688～ 2932(サンプル)、0 ms → 2350サンプル</li> </ul>
デフォルト値	0 ms

### 注意

この調整は、収録中に行います。

新しいリップシンク値は、次に収録される映像からのみ反映されます。



## Aux track output

説明	プレイリストのオグジュアリティラックが、どのオーディオ出力から再生されるか設定します。
値	<p>以下の値が、可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>PRV:</b> オグジュアリティラックは、通常、PRVチャンネルに割り当てられているオーディオ出力を使用します。PRVチャンネルがない場合、Aux Trackはどのオーディオ出力にも割り当てられません。</li> <li>● <b>PRV&amp;7-8/15-16:</b> オグジュアリティラックは、通常、PRVチャンネルが1つなら、PRVチャンネルに割り当てられているオーディオ出力を使用し、さらに他のチャンネルに割り当てられていない 7-8/15-16の全てのオーディオ出力を使用します。 このオプションは、PRVチャンネルなしでオグジュアリティラックが必要な場合に使用して下さい。</li> <li>● <b>PGM:</b> オグジュアリティラックは、通常、PGMチャンネルに割り当てられているオーディオ出力を使用します。</li> </ul>
デフォルト値	PRV

## 4.8.9. EVS controller設定

### 序文

EVS controller設定は、以下を集めています：

- Nanoリモコンのキー/レバー/ジョグの動作に関連する設定
- EVSサーバー自体に関連する設定



### 警告

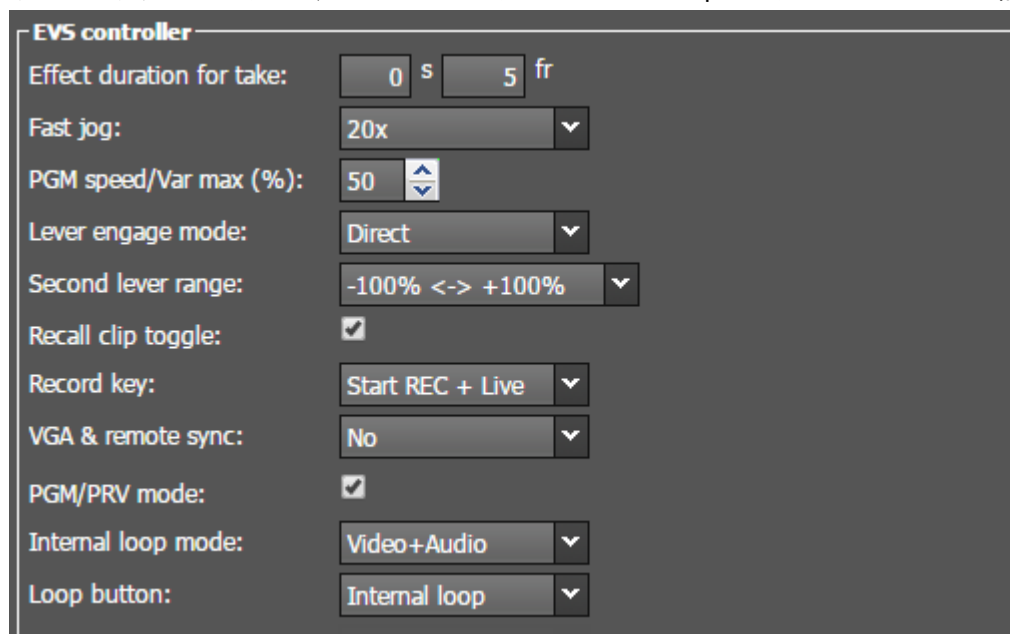
ほとんどの設定は、Nanoリモコン使用のベースコンフィグでのみ、使用可能/有効です。

### ユーザーインターフェース

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウインドウ、Operationタブ内

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのEVS controller設定画面です：



### Effect duration for take

説明	TAKEキーを使用し、2つのシーケンスをPGM+PRVモードでチェーンする時のトランジションのデュレーションを設定します。
値	値の範囲: 00s00fr ~ 20s00fr
デフォルト値	00s05fr

### Fast jog

説明	NanoリモコンをFast Jogモードで使用するとき、どの程度ジャンプするかを設定します。
値	1 ~ 20倍の値が可能です。
デフォルト値	20x

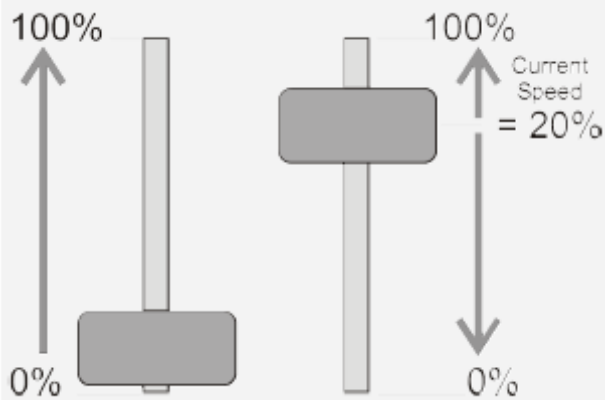


## PGM speed / Var max

コンテキスト	<p>再生中に、NanoリモコンのセカンダリメニューでPGM SpeedまたはVar Maxが有効になると、レバーレンジが調整され:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 0以外のレバー位置用の再生値のみが、セットアップ内のこのパラメーターで指定されているものです。 (PGM Spdモード オン)</li> </ul> <p>または、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レバーで設定スピード範囲は、のパラメーターで設定される値となります。 (VarMaxモード オン)</li> </ul>
説明	PGM SpeedまたはVar Maxコマンド使用時に、レバーに割り当てられる再生速度を設定します。
値	値の範囲: 1 ~ 400 %
デフォルト値	50%

## Lever engage mode

説明	レバーの位置に依存して、どのように再生速度が変わるかを設定します。
値	<p>以下の値が、可能です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Directモード:</b> レバーを動かすと直接かみ合い、結果としてレバーアーム位置で決定された目的の速度にジャンプします。</li> <li>● <b>Current speedモード:</b> レバーは現在の再生速度に到達したときのみかみ合い、一方、現在速度の反対側に方向にレバーを動かすと、直接の速度変更になります。</li> </ul>
デフォルト値	Direct





## Second lever range

コンテキスト	レバーは、ノーマルモードで使用され、クリップをスローモーション速度 0~100%間で再生します。セカンダリレンジが使用可能で、素材を他の速度範囲で再生します。 Nanoリモコンからセカンダリ速度にアクセスするには、SHIFT + LEVER/TAKEを押します。 プレイリストクリップの速度の編集時にも、セカンドレバーレンジが有効です。
説明	Nanoリモコン上で、セカンダリスピード範囲を指定します。
値	以下の値が、可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● -100% → +100%</li> <li>● 0 → +200%</li> <li>● -200% → +200%</li> <li>● 0 → +400%</li> <li>● -400% → +400%</li> </ul>
デフォルト値	-100% → +100%

## Recall clip toggle

説明	ファンクションキーを使用して、クリップのカメラ選択を可能/不可能にします： F キーを複数回押し、CAM A、CAM B、CAM C、CAM D、CAM E、CAM Fとブラウズします。
値	Yes / No
デフォルト値	Yes

## Record key

説明	Nanoリモコン上のRECORDキーの機能を変更します。
値	以下の値が、可能です： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Start REC+Live： RECORDキーを押すと、収録プロセスを開始し LIVEモードに切り替えます。</li> <li>● Live： RECORDキーを押すと、最後に収録された映像に切り替わるのみで、もしオペレーターにより事前に停止されていたら、収録は再開されません。</li> </ul>
デフォルト値	Start REC+Live

## VGA & remote sync

説明	VGAスクリーンとNanoリモコンの現在のクリップマシン/ページ/バンクが、どのように同期するか設定します。
値	<p>以下の値が、可能です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>No:</b> クリップマシン/ページ/バンクは、VGA画面上とNanoリモコン上で、それぞれ独立して選択できます。</li> <li>● <b>Yes:</b> クリップマシン/ページ/バンクは、VGA画面とNanoリモコン間で同期します。 片方で、ネットワークマシンのクリップに接続/ローカルマシンのクリップに戻る/新しいページやバンクを選択すると、自動的に、もう一方にも反映されます。</li> <li>● <b>Server:</b> クリップページ/バンクは、VGA画面上とNanoリモコン上で、それぞれ独立して選択できますが、ネットワークマシンのクリップに接続/ローカルマシンのクリップに戻ると、自動的に、もう一方にも反映されます。</li> </ul>
Default value	No

## PGM/PRV mode

説明	<p>Nanoリモコンのメインメニュー上のAボタンからアクセス可能な機能として、LCD画面上でPGM/PRVモードを選択可能です。</p> <p>そうでなければ、PGM/PRVモード選択は、Aボタンからアクセスできません。</p>
値	<p>以下の値が、可能です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Yes:</b> PGM/PRVモードは、NANOリモコンのAキーから使用可能です。</li> <li>● <b>No:</b> PGM/PRVモードは、NANOリモコンのAキーから使用できません。</li> </ul>
デフォルト値	Yes

## Internal loop mode

説明	Loopモードがオンになった時に、PGM1出力のどのコンポーネントがサーバーに書き戻されるかを設定します。
値	<p>以下の値が、可能です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Video + Audio:</b> PGM1のビデオとオーディオ信号の両方が、CAM A入力に書き戻されます。</li> <li>● <b>Video only:</b> PGM1のビデオ信号のみが、CAM A入力に書き戻されます。 これにより、オペレータは、Loop処理中も、ライブオーディオトラックの収録継続が可能です。 これは、例えば、編集に、音楽/ボイス/ライブサウンドを追加する時に便利です。</li> </ul>
デフォルト値	Video + Audio



### 注意

エンベデッドオーディオの場合には、LoopモードがVideo + Audio、Video onlyいずれに設定されても、オーディオは常にループされます。


**NEW !** Loop button

説明	SHIFT + LoopでのLoop機能の挙動を設定します。
値	<p>以下の値が可能です：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Internal loop：</b> Loopボタンを押すと、内部ループがオンになり、メイン出力PGM1がCAM A入力に書き戻されます。 Multicamコンフィグ内で最新のSLSMLレコーダが設定されていると、内部ループは、使用できません。</li> <li>● <b>Loop clip：</b> ロードしているクリップのShort INとShort OUTポイント間にいるときに、Loopボタンを押すと、クリップのShort INとShort OUTポイント間をループします。</li> <li>● <b>Loop clip bounce：</b> ロードしているクリップのShort INとShort OUTポイント間にいるときに、Loopボタンを押すと、クリップのShort INとShort OUTポイント間をバウンスループします。</li> <li>● <b>Disable：</b> Loopボタンを押しても、何も影響しません。</li> </ul>
デフォルト値	Internal loop

## 4.8.10. Special effects設定

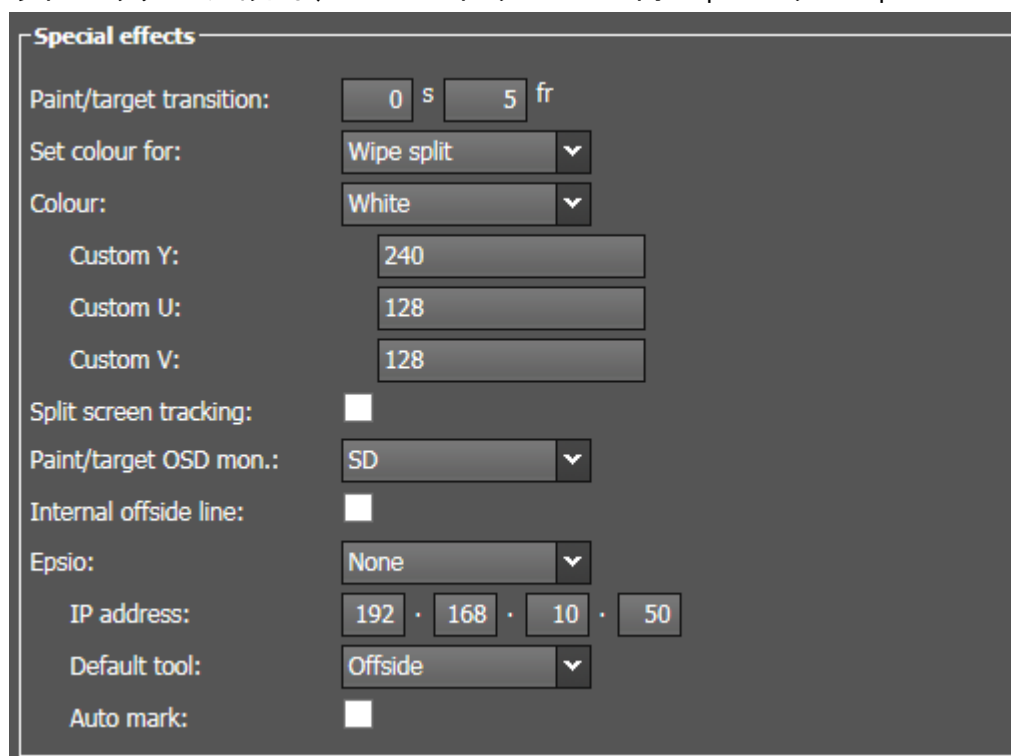
### ユーザーインターフェース

**NEW** ! Special effects設定では、ワイプトランジションエフェクトに使用する色やEPSIOの設定が可能です。

これらのフィールドは、以下のインターフェース内にあります：

- Multicam Configurationウィンドウ、Operationタブ内
- NanoリモコンのOperational setupメニュー内 (P12.X)

以下のスクリーンショットは、Webベースインターフェース内のOperationタブのSpecial effects設定を表示しています：




#### 注意

XTnanoサーバーに関連しない設定については、説明していません。

#### Set colour for

有効性	この設定は、ライセンスコード 111 と 87 で有効です。
説明	デフォルト色を、ワイプエフェクトの境界線に適用します。
値	● Wipe Split (強制値)



## Colour

有効性	この設定と以下の3つの関連するカスタム設定は、ライセンスコード 111 と 87 で有効です。
説明	Set colour for パラメータ値に従い、カーソル/ワイプ/スプリットエフェクトに適用するデフォルト色を設定します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● White</li> <li>● Black</li> <li>● Custom (Custom Y、U、V パラメータで設定)</li> </ul>
デフォルト値	White

## Custom Y

説明	Colour パラメータで使用するカスタム色のY値を設定します。
値	0 ~ 255
デフォルト値	240

## Custom U

説明	Colour パラメータで使用するカスタム色のU値を設定します。
値	0 ~ 255
デフォルト値	128

## Custom V

説明	Colour パラメータで使用するカスタム色のV値を設定します。
値	0 ~ 255
デフォルト値	128

## NEW ! Epsio

説明	Offside line パラメーターが Yes に設定されているとき、Nano リモコンより Epsio アプリの制御を有効/無効にします。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● None: Epsio と互換性はありません。</li> <li>● Live (offside line): Epsio Live アプリケーション(offside line 含む)を有効にします。 SHIFT+D キーで、Epsio Live メニューへのアクセスを提供します。</li> <li>● Zoom: Epsio Zoom 外部ツールを使ったズームシーケンス作成用の Epsio Zoom への接続が可能です。 SHIFT+D キーで、Epsio Zoom メニューへのアクセスを提供します。</li> <li>● Protocol 汎用 Epsio Service の NANO リモコンへの接続を可能にします。 これにより、Epsio で、NANO リモコン上のインタラクティビティ、ジョグとレバーコントロールへのアクセスの設定が可能です。</li> </ul>
デフォルト値	None



## NEW ! IP address

有効性	この設定は、Epsioフィールドに <b>Protocol</b> を設定すると、使用できません。
説明	Epsio/パラメータで、Epsio接続が有効になっているときに、ネットワーク上のEpsioワークステーションのIPアドレスを設定します。
値	xxx.xxx.xxx.xxx
デフォルト値	192.168.10.50

## NEW ! Default tool

有効性	この設定は、Epsioフィールドに <b>Zoom</b> または <b>Protocol</b> を設定すると、使用できません。
説明	Epsio/パラメータでEpsio Live接続が有効のとき、NANOリモコン上のEpsioLiveメニュー内でデフォルトで使用するツールを選択します。
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Offside</li> <li>● Arrow</li> <li>● Circle</li> <li>● Graphics</li> </ul>
デフォルト値	Offside

## NEW ! Auto mark

有効性	この設定は、Epsioフィールドに <b>Protocol</b> を設定すると、使用できません。
説明	Nanoリモコン上で、EpsioオペレータがEpsioメニューに入るたびに、レコードトレイン上にキューポイントを自動的に挿入する機能を有効/無効にします。
値	Yes / No
デフォルト値	No

## 5. モニタリング

### 5.1. サーバーモニタリング

#### 5.1.1. SERVER MONITORINGウインドウの概要

サーバーモニタリング画面は、VGAのオペレーショナルOperationalウインドウから、**SHIFT+F5**で表示されます。



##### 注意

このセクションは、サーバーベースアプリケーション内にのみあります。  
Webベースインターフェースには、ありません。



## 5.1.2. General Informationウィンドウ

### 序文

Server Monitoringセクション内のP1、General Informationウィンドウでは、EVSサーバーのシステム情報とメンテナンスコマンドを提供します:

```

SERVER MONITORING PAGE 1
Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST

System Information
Multicam version 14.
Chassis type
Serial number 24940
Facility Name XTNewADL
Net name XTNewADL
Net Number 16
SDTI Type Server
Local clips 80/10800
Network clips 80/32000

Date and Time
Date <dd/mm/yy> - time : 05/03/2016 - 07:28:07 <Synchronized with LTC>

Maintenance
Reset archive status <ENTER>
Resync to TC ref <ENTER>
Delete keyword file SAMPLE <ENTER>
Record train reset <ENTER>

TAB:SELECT PgDn:Pg2 ALT+Q:EXIT MULTICAM

```

### System Information

フィールド名	説明
Multicam version	EVSサーバー上で動作中のMulticamのバージョン
Chassis type	サーバー筐体のタイプ (関連するサーバー高さ)
Serial number	EVSサーバーのシリアル番号
Facility name	Multicam setupウィンドウ内、Toolsメニュー、Assign server facility nameオプションで、EVSサーバーに割り当てる名前(内部メンテナンス用)。
Net name	SDTIネットワーク上のマシン名。 必須ではありません。 しかし、動作中のコンフィグに結ばれているため、指定コンフィグで動作中のサーバーの識別が簡単に行えて便利です。 Net Nameは、SDTIロードが無効でも、表示されます。 これは、Multicam Configurationウィンドウ、Networkタブ、SDTIセクション、Net name/パラメータで設定します。
Net number	ネットワーク上のマシン番号(1~29)。 この番号は、ユーザー設定で、ネットワーク上の各システムでユニークでなければなりません。
SDTI type	SDTIネットワーク上のEVSサーバーの役割と権限。
Local clips	EVSサーバー上にローカル保存されているクリップの数(最大クリップ数に対する)。
Network clips	XNet上に保存されているクリップ数 (最大クリップ数に対する)。

### Date and Time

このセクションは、EVSサーバーの日付と時刻を表示します。

## Maintenance

このセクションは、以下のメンテナンス動作を実行するコマンドを提供します：

コマンド	説明
Reset archive status	NanoリモコンのArchive機能でアーカイブステータスがオンになっている全てのクリップのフラグをリセットします。
Resync to TC ref	サーバーのタイムコードを、タイムコードリファレンス再同期させます。
Delete keyword file	選択したキーワードファイルを削除します。 削除するキーワードファイルを選択するまでSPACEBARを押し、ENTERを押します。
Record train reset	フィールドカウンタがオーバーフローする前に、レコードトレインをリセットします。 リセットする前に、動作確認プロセスがあります。
Reconnect PC LAN	PC LAN接続を、再開始します。 このオプションは、HS870 MTPCボード内蔵のEVSサーバー上でのみ使用可能です。 これは、PC LANが切断され再接続された時に、EVSサーバーを再起動することを回避しますが、PC LAN接続ステータスは正しく更新されません。



## 5.1.3. Raid and Disk Statusウィンドウ

### 序文

2ページ目は、内部/外部ストレージからのディスクまたはRaidの情報を提供します。

```

SERUER MONITORING PAGE 2
SH+ESC:UGA EXPLORER Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST Za

RAID type
16 (4+1) raids + 04 spares

RAID status
01 02 03 04 05 55%07 08 09 10 11 12 13 14 15 16

External Arrays Status
EXT4 PSU1!
EXT3 OK
EXT2 OK
EXT1 FAN1! FAN3!
INT OK

Disks Status Display disks Highlight raid 01
EXT4!01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT3 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT2 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT1!01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 -- -- 19 20 21 22 23 24
11 12
INT2 07 08 09 10
05 06
INT1 01 02 03 04

Legend OK Disconnected Rebuilding Spare Not present

TAB:SELECT <-/>:CHANGE PgUp:Pg1 PgDn:Pg3 ALT+Q:EXIT MULTICAM-

```

### RAID type

Raid typeセクションは、Raidの数、Raidのタイプ(4+1または 5+1)、スペアディスクの数を表示します。

この情報は、変更できません。

### RAID status

このセクションは、各Raidを番号で表示し、ステータス表示に色コードを使用します。

Raidがリビルド中には、Raid番号の代わりにリビルドパーセントが表示されます。

この値は、リビルドプロセスの進捗状況を表示します。

### External Array Status

このセクションは、各外部アレイのステータスと潜在的な警告を表示します：

ステータス	意味
OK	アラートなし。
PSU1!、PSU2!	電源ユニットの問題。
FAN1!、FAN2!、FAN3!	ファンの問題。



## Disk Status

このセクションは、外部/内部アレイのディスクの情報(ステータスなど)を提供し、以下です:

色コード	Raidステータス
薄灰色	OK: ディスクは、Raid内で接続されています。
赤色	Disconnected: ディスクは、物理的に存在していますが、ソフトウェアにより切断されています。
オレンジ色	Rebuilding: ディスクは、リビルド中です。
緑色	Spare: ディスクは接続されていますが、Raid内に含まれていません。
灰色	Not present: ディスクは、物理的にハードウェアに接続されていません。

## ディスクステータス表示の変更方法

Displayフィールド内の選択に基づき、2つのタイプの表示があります: ディスク番号、またはRaid番号。

Spacebar、(+)(-) キー、矢印キーで変更できます。

## ディスク表示

ここでは、各ディスクをアレイ内の番号/もし無ければ灰色のーで表示し、ステータス表示に色コードを使用します。

```

Disks Status  Display disks      Highlight raid 01
EXT4!01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT3 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT2 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
EXT1!01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 -- -- 19 20 21 22 23 24
      11      12
INT2 07 08 09 10
      05      06
INT1 01 02 03 04
  
```

外部アレイは、最大24、最少 5 ディスクを持っています。

内部アレイコンフィグは以下の通りです: 1アレイ (6ディスク)、1アレイ (12ディスク)、2アレイ (各6ディスク)

## Raid表示

ここでは、各ディスクをレイド番号/もし無ければ灰色のーで表示し、ステータス表示に色コードを使用します。

スペアディスクは、spで表示されます。

```

Disks Status  Display raids      Highlight raid 01
EXT4!-- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- sp sp sp
EXT3 12 12 12 12 13 13 13 13 13 14 14 14 14 14 15 15 15 15 16 16 16 16
EXT2 07 07 07 08 08 08 08 08 09 09 09 09 09 10 10 10 10 11 11 11 11 12
EXT1!03 03 03 03 03 04 04 04 04 04 05 05 05 05 05 06 06 06 06 06 07 07 sp --
      02 02 02 02
      01 02 02 02
INT1 01 01 01 01
  
```

## Raidのディスクをハイライト表示する方法

Highlight Raidフィールドでは、薄い灰色の背景で、フィールドの右に指定されたRaid番号に属するディスクを、ハイライト表示可能です。



## 5.1.4. Timecode Statusウィンドウ

### 序文

Server Monitoringセクションのこのページは、EVSサーバーからのgenlock、アナログLTC、タイムコードステータスを表示します。

このページは、タイムコードがタイムコードジャンプテーブル内でどのように管理されるかの設定に使用します。

SERVER MONITORING PAGE 3												
SH+ESC:UGA EXPLORER				Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST								
<b>Genlock status</b>						<b>Analog LTC status</b>						
OK since 05/03/16 - 07:26:16						07:35:07:11 <OK> Drifts : 000						
<b>TimeCode Status</b>						<b>Recorders</b>						
						01	02	03	04	05	06	07 08 09 10 11 12
LTC	LTC jumps					001	001	001	001	001	001	
	LTC threshold					050	050	050	050	050	050	
	Peak alerts					001	001	001	001	000	000	
	Peak Limit <sec>					010	010	010	010	010	010	
	Frequency alerts					000	000	000	000	000	000	
	Frequency: Number					010	010	010	010	010	010	
	Frequency: Time					050	050	050	050	050	050	
USER	USER jumps					001	001	001	001	001	001	
	USER threshold					050	050	050	050	050	050	
TAB:SELECT <-/>:CHANGE PgUp:Pg2 PgDn:Pg4 ALT+S:Save ALT+Q:EXIT MULTICAM!												

### Genlock status

Genlock statusセクションは、以下の情報を提供します:

- Genlockステータス: OK、bad
- Genlockが正しく設定/リストアされた日付と時間

### Analog LTC status

Analog LTC statusセクションは、アナログLTCタイムコードの現在のステータスを表示し、Genlockと比較し検出されたドリフト回数も表示します。

使用しているMTPCボードに依存して、可能なステータス値は、以下です:

ステータス	説明
OK	タイムコードは、通常通り進んでいます。
Drift	受信されたタイムコードとGenlockが、同期していません。
Bad	受信されたタイムコードが、正しくありません。 例: PALタイムコードの代わりに、NTSCタイムコードを受信(freq.error)、 タイムコードの受信に妨害あり(bad signal)。
Lost	タイムコードが、ありません。

## TimeCode Status

### 序文

Timecode Statusセクションは、タイムコードジャンプテーブルの管理とモニタリングの設定を表示します。  
収録素材内で、タイムコード内の中断、ジャンプが起きると、このテーブル内に記録されます。  
タイムコードジャンプテーブル内の記録は、XTnanoサーバー上のビデオ素材の検索と計算に使用されます。

2つのタイムコードジャンプテーブルがあります：

- LTCタイムコード用のタイムコードジャンプテーブル
- Multicam Configurationモジュール、Channelsタブ、Timecode Settingsエリア、Userフィールド内で、ユーザーが指定したタイムコード用のタイムコードジャンプテーブル

### LTC Timecode

LTC	説明	デフォルト値
LTC jumps	指定レコーダで、サーバーが最後に開始されてから、LTCタイムコードジャンプテーブル内で計算されたタイムコードジャンプの数。	1
LTC threshold	LTCタイムコードジャンプテーブル内に新しいテーブルを作成するための、収録素材内のLTCタイムコード内のブレイク後、受信する連続するタイムコードの数。	50
Peak alerts	サーバーが最後に開始して以降のレコーダ用のピーク警告の数。 ピーク警告は、Peak Limitフィールド内に指定したピークリミットに到達するたびに、作成されます。 この場合には、このフィールドは、自動的に、1つ増えます。	0
Peak limits (sec)	収録素材内のタイムコード内のブレイクがピーク警告を作成するまでの連続するタイムコードの時間間隔(秒)。 ピーク警告が作成されると、Peak Alertsフィールド内の値は1つ増えます。	10
Frequency alert	サーバーが最後に開始して以降のレコーダ用の周波数警告の数。 周波数警告は、Xタイムコードジャンプが、Y秒以内に検出されると作成されます X値は、Frequency Numberフィールド内で設定します。 Y値は、Frequency Timeフィールド内で設定します。 この時、このフィールドは、自動的に、1つ値が増えます。	0
Frequency number	周波数警告が作成された以降のレコーダで検出されたタイムコードジャンプの数。	10
Frequency time	周波数警告作成後の、時間間隔(秒)。	50

### User Timecode

VITC	説明	デフォルト値
VITC jumps	指定レコーダで、サーバーが最後に開始されてから、VITCタイムコードジャンプテーブル内で計算されたタイムコードジャンプの数。	1
VITC threshold	VITCタイムコードジャンプテーブル内に新しいテーブルを作成するための、収録素材内のVITCタイムコード内のブレイク後、受信する連続するタイムコードの数。	50



## しきい値を永続的に変更する方法

このモニタリングページ内でThreshold(しきい値)を変更すると、現在のセッション内では保存されますが、EVSサーバーを再起動すると、変更は失われます。

変更を永続させるには、値を変更後、**ALT + S**を押します。

## 5.1.5. Timecode Monitoringウィンドウ

### 序文

Timecode Monitoringウィンドウは、動作中のコンフィグ内で使用される各種タイムコードを表示します。SDまたはHDで作業するかにより、少し異なります。

### SDレコーダ上のタイムコード

サーバーがSDコーデックで動作するとき、以下のタイムコード情報が表示されます：

- LTCタイムコード
- 各レコーダ上のVITCタイムコード

```

SERVER MONITORING PAGE 4
SH+ESC:UGA EXPLORER Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST Z>

TimeCode Monitoring
Analog LTC : 07:42:14:18 [ASCENDING]
      VITC
Rec1    00:00:40:03 [OFF]    1
Rec2    00:00:40:03 [OFF]    1
Rec3    00:00:40:03 [OFF]    1
Rec4    00:00:40:03 [OFF]    1
Rec5    00:00:40:03 [OFF]    1
Rec6    00:00:40:03 [OFF]    1

TAB:SELECT <-/>:CHANGE PgUp:Pg3 PgDn:Pg5 ALT+Q:EXIT MULTICAM!

```

### HDレコーダ上のタイムコード

サーバーがHDコーデックで動作するとき、以下のタイムコード情報が表示されます：

- LTCタイムコード
- 各レコーダ上のHANCタイムコード

```

SERVER MONITORING PAGE 4
SH+ESC:UGA EXPLORER Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST Z>

TimeCode Monitoring
Analog LTC : 07:35:44:09 [ASCENDING]
      ATC-VITC      ATC-LTC
Rec1    00:58:29:02 [ASCENDING] 00:58:19:04 [ASCENDING]
Rec2    00:58:23:13 [ASCENDING] 00:58:13:15 [ASCENDING]
Rec3    00:58:17:03 [ASCENDING] 00:58:07:05 [ASCENDING]
Rec4    00:09:48:20 [OFF]        1 00:09:48:20 [OFF]        1
Rec5    00:09:48:20 [OFF]        1 00:09:48:20 [OFF]        1
Rec6    00:09:48:20 [OFF]        1 00:09:48:20 [OFF]        1

TAB:SELECT <-/>:CHANGE PgUp:Pg3 PgDn:Pg5 ALT+Q:EXIT MULTICAM!

```



## 5.1.6. Log Management

### 序文

Log Managementウィンドウは、ログ管理専用メニューを表示します。

このウィンドウは、ユーザーフレンドリーで簡単なログの管理を可能にし、ログファイルはMulticam動作中にリモートコンピュータからアクセスできます。

SERVER MONITORING PAGE 5

SH+ESC:UGA EXPLORER

Sh+F4:Network Monitoring F9:CLIP F10:PLST

Za

Log Management Menu

MicroCode Logs

Multicam Logs

0	mC_Boot	- Critical	64	Mul_Gbe	- Critical
1	mC_HAL	- Critical	65	Mul_General	- Critical
2	mC_SYSMon	- Critical	66	Mul_Database	- Critical
3	mC_General	- Critical	67	Mul_Sdti_Cmd	- Critical
4	mC_GBE_Driver	- Critical	68	Mul_Console	- Critical
5	mC_SCSI	- Critical	69	Mul_Remote_0	- Critical
6	mC_Cache	- Critical	70	Mul_Remote_1	- Critical
7	mC_AvIndex	- Critical	71	Mul_Remote_2	- Critical
8	mC_DataTrfSched	- Critical	72	Mul_Remote_3	- Critical
9	mC_CnlMgr	- Critical	73	Mul_Remote_4	- Critical
10	mC_DataSave	- Critical	74	Mul_Remote_5	- Critical
11	mC_SystemBackup	- Critical	75	Mul_PlayList	- Critical
12	mC_Audio_Recs	- Critical	76	Mul_TimeLine	- Critical
13	mC_Sdti	- Critical	77	Mul_Incrust	- Critical
14	mC_SdtiUser	- Critical	78	Mul_Player_0	- Critical
15	mC_CnlLgRec	- Critical	79	Mul_Player_1	- Critical
16	mC_CnlLgPly	- Critical	80	Mul_Player_2	- Critical

TAB:SELECT <-/>:CHANGE

PgUp:Pg4

Sh+F1:Menu

ALT+Q:EXIT

MULTICAM

### ログファイルのタイプ

左のカラムは、マイクロコードに関連する項目を表示します。

右のカラムは、Multicamに関連する項目を表示します。

各項目は、2つの関連するログファイルを持っています：

- 通常のログファイル
- エラーのみ記録されたログファイル

### クリティカリティレベル

各項目は、変更可能なクリティカリティレベルを持っています：

- クリティカリティの最も低いデフォルトレベルは **Critical**で、クリティカルと重要なコマンドのみ記録します。  
これは、全項目のデフォルト値です。
- 中間レベルは**Normal**です。
- 最高レベルは**Debug**で、基本的に全コマンドを記録します。  
最高レベルは、認定されたEVSスタッフのアドバイスなしに選択してはいけません。

SHIFT+F1 を押すと、このウィンドウで使用可能な全コマンドの情報を提供するHelpスクリーンを表示します。



#### 警告

Debugモードに切り替えるときには、まず問題を再現し、ログを抽出し、最後にデフォルトのCriticalモードに戻してください。



## ログファイルの抽出

このウィンドウでは、Multicamが動作中にログファイルを抽出することができます。

Log Managementウィンドウが開いているときに、E を押しログファイルを即座に採取し、リモートコンピューターから一般的なFTPクライアントアプリケーション経由でアクセスできます。

抽出されたファイルは、C:\¥LSMCE¥DATA¥LOG内にあります。

ファイル名は下線で始まります：通常のログファイルMulticam\_Database.logは、アプリが動作中に抽出されると、\_Multicam\_ Database.logと名前変更されます。



### 注意

XNetMonitorから、XNetネットワーク上で動作しているサーバーのログを抽出できます。



## 5.2. プロトコルズ

### 5.2.1. 概要

EVSサーバーは、色々なプロトコルから制御可能です。

このセクションでは、サポートされているプロトコルについて簡単に述べます。

この説明の目的は、網羅することではなく、プロトコルの能力とサポートされている機能の簡単な概要を提供する事です。



## 5.2.2. Sony BVW75

### プロトコルの能力

このSonyプロトコルでは、以下が可能です：

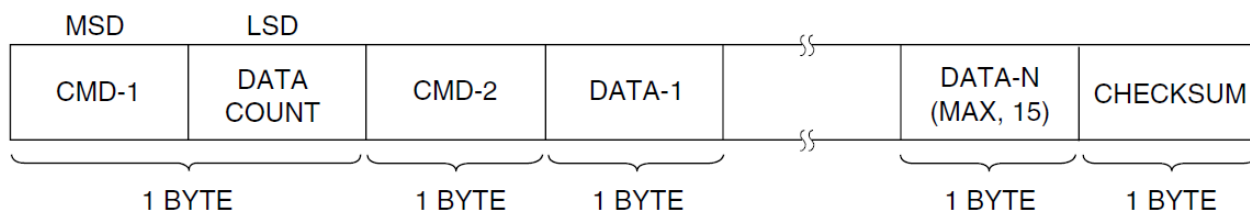
- トランスポートコマンドの使用
- チャンネルステータスの取得
- チャンネルTCの取得

### 特性

### ビットレート

38.4K bits/s

### コマンドコンフィグ



- CMD-1: コマンドカテゴリー
- DataCount: コマンド内のバイト数
- CMD-2: コマンド数
- Data-x: コマンドパラメータ
- CheckSum: 妥当性チェック

### 返信

Ack: コマンド受信と実行

名前	CMD-1	Data Count	CMD-2	CheckSum
コマンド	1	1	01	XX

Nack: エラー

名前	CMD-1	Data Count	CMD-2	Data-1	CheckSum
コマンド	1	1	12	ZZ	XX



## サポートされているコマンド

このテーブルは、サポートされているコマンドの要約です：

コマンド	リターン
00.0C Local Disable	10.01: Ack
00.11 Device Type Request	12.11.20.25 (PAL用) 12.11.21.25 (NTSC用)
00.0D Local Enable	10.01: Ack
20.00 Stop	10.01: Ack
20.01 Play	10.01: Ack
20.02 Record	10.01: Ack (カスタマイズ)
20.04 StandByOff	10.01: Ack
20.05 StandByOn	10.01: Ack
20.0F Eject	10.01: Ack (カスタマイズ)
20.10 Forward	10.01: Ack
2X.11 Jog Fwd	10.01: Ack
2X.12 Var Fwd	10.01: Ack
2X.13 Shuttle Fwd	10.01: Ack
20.20 Rewind	10.01: Ack
2X.21 Jog Rew	10.01: Ack
2X.22 Var Rew	10.01: Ack
2X.23 Shuttle Rew	10.01: Ack
20.30 Preroll	10.01: Ack
24.31 CueUp With Data	10.01: Ack
20.54 Anti-Clog Timer Disable	10.01: Ack (動作なし)
20.55 Anti-Clog Timer Enable	10.01: Ack (動作なし)
20.60 Full EE OFF	10.01: Ack (動作なし)
20.61 Full EE ON	10.01: Ack (動作なし)
20.64 Edit OFF	10.01: Ack (動作なし)
20.65 Edit ON	10.01: Ack (動作なし)
40.00 Timer-1 Preset	10.01: Ack
40.08 Timer-1 Reset	10.01: Ack
40.10 Set In	10.01: Ack
40.11 Set Out	10.01: Ack
44.14 IN Preset	10.01: Ack
44.15 OUT Preset	10.01: Ack
40.20 Reset In	10.01: Ack
40.21 Reset Out	10.01: Ack
40.30 Edit Preset	10.01: Ack
44.31 Preroll Preset	10.01: Ack
40.35 Color Frame Select	10.01: Ack (動作なし)
41.36 Set Timer Mode	10.01: Ack
40.40 Set Auto Mode OFF	10.01: Ack
40.41 Set Auto Mode ON	10.01: Ack
40.9E Superimpose	10.01: Ack (動作なし)



61.0A Request TCGen	74.08: GEN TIME DATA 74.09: GEN UB DATA 78.08: GEN TC & UB DATA
61.0C Request TimeCode	74.00 TIMER-1 DATA 74.04 LTC TIME DATA 74.05 LTC UB DATA 78.04 LTC TIME & UB DATA 74.06 VITC TIME DATA 74.07 VITC UB DATA 78.06 VITC TIME & UB DATA
60.10 Request IN	74.10 IN DATA
60.11 Request OUT	74.11 OUT DATA
61.20 Request Status	7X.20 STATUS DATA
60.2E Request Speed	7X.2E COMMAND SPEED DATA
60.31 Request Preroll	74.31 PREROLL TIME DATA
60.36 Request Timer Mode	71.36 TIME MODE DATA

## 5.2.3. XTENDDD35

### プロトコルの能力

XTendDD35プロトコルは、Sonyプロトコルの拡張版です。

このプロトコルでは、以下が可能です：

- チューニングなしでのクリップのプリロード
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

### 特徴

Sonyプロトコルと同じ特徴を持っています。

### サポートされているコマンド

このプロトコルは、Sonyプロトコルと同じコマンドと、以下のコマンドをサポートしています：

コマンド	リターン
60.81: Request current ID	7X.81
60.82: Get First ID	7X.82
60.83: Get Next ID	7X.82
60.84: Get First Delete ID	7X.84
60.85: Get Next Delete ID	7X.84
60.86: Get First ID Added ID	7X.86
60.87: Get Next ID Added ID	7X.86
67.91: Request ID duration	7X.91
27.82: Open File	10.01

EVSは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。  
これらのコマンドについての詳細は、EVSにご連絡ください。

## 5.2.4. Odetics

### プロトコルの能力

Odeticsプロトコルは、Sonyプロトコルの拡張版です。

このプロトコルでは、以下が可能です：

- チューニングなしでのクリップのプリロード
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

### 特徴

Sonyプロトコルと同じ特徴を持っています。

### サポートされているコマンド

このプロトコルは、Sonyプロトコルと同じコマンドと、以下のコマンドをサポートしています：

コマンド	リターン
00.11 : Device Type Request	12.11 : Device Type
2X.31 CueUp With Data (Odetics extention)	10.01: Ack
44.14 Preset IN (Odetics extention)	10.01: Ack
44.15 Preset OUT (Odetics extention)	10.01: Ack
40.40 Auto Mode Off	10.01: Ack
40.41 Auto Mode ON (Odetics extention)	10.01: Ack
A0.01 Auto Skip	10.01: Ack
AX.02 Record Cue Up With Data。	10.01: Ack
AX.04 Preview In Preset	10.01: Ack
AX.05 Preview Out Preset	10.01: Ack
A0.06 Preview In Reset	10.01: Ack
A0.07 Preview OUT Reset	10.01: Ack
Ax.10 Erase ID	10.01: Ack
A0.14 List First ID	8X.14 ID Listing
A0.15 List Next ID	8X.14 ID Listing
A8.18 ID Status Request	81.18 ID Status
A0.1c Longest Contiguous Available Storage。	84.1C Longest Contiguous Available Storage
A0.21 Device ID Request	88.21 Device ID
A8.20 Set Device ID	10.01: Ack

EVSIは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。これらのコマンドについての詳細は、EVSIにご連絡ください。





## 5.2.5. VDCP

### プロトコルの能力

Video Disk Control Protocol(VDCP)は、ビデオサーバー専用のプロトコルで、オートメーション用のデザインです。このプロトコルでは、以下が可能です：

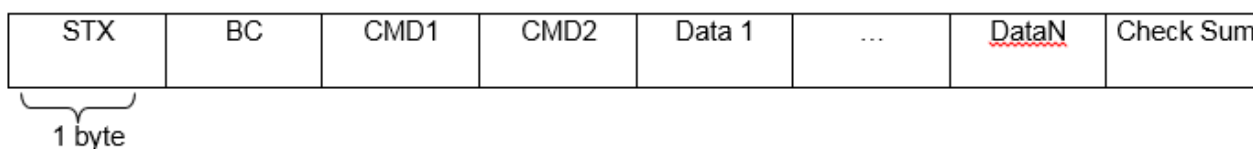
- 1つのシリアル接続で、複数のチャンネルを制御
- クリップのプリロードとチェーン
- クリップ作成
- サーバーデータベースの取得

### 特徴

### ビットレート

38.4K bits/s

### コマンドコンフィグ



- STX: 02
- BC: コマンド内のバイト数
- CMD-1: コマンドタイプ
- CMD-2: コマンド数
- Data: コマンドパラメータ(最大255データ)
- CheckSum: 妥当性チェック

### 返信

- Ack (0x04)またはNack (0x05)
- データで返信

### サポートされているコマンド

このテーブルは、サポートされているコマンドの要約です：

コマンド		リターン
VarIDモード	8-bytes IDモード	
80.15	00.15 Delete Protect	04 Ack
80.16	00.16 Undelete Protect	04 Ack
—	10.00 Stop	04 Ack
—	10.01 Play	04 Ack
—	10.02 Record	04 Ack
—	10.04 Still	04 Ack
—	10.05 Step	04 Ack



–	10.06 Continue	04 Ack
–	10.07 Jog	04 Ack
–	10.08 Var Play	04 Ack
A0.1D	20.1D Rename ID	04 Ack
–	20.1E Preset Standard Time	04 Ack
A0.1F	20.1F New Copy	04 Ack
–	20.20 Sort Mode	04 Ack
–	20.21 Close Port	04 Ack
–	20.22 Select Port	04 Ack
A0.23	20.23 Record Init	04 Ack
A0.24	20.24 Play Cue	04 Ack
A0.25	20.25 Cue With Data	04 Ack
A0.26	20.26 Delete ID	04 Ack
–	20.29 Clear	04 Ack
A0.2C	20.2C Record Init With Data	04 Ack
–	20.43 Disk Preroll	04 Ack
–	30.01 Open Port	30.81 Port Opened
B0.02	30.02 Next	B0/30.82 Next ID
B0.03	30.03 Last	B0/30.83 Last ID
–	30.05 Port Status	30.85 Status
–	30.06 Position Request	30.86 Position
B0.07	30.07 Active ID Request	B0/30.87 Active ID
–	30.08 Device Type Request	30.88 Device Type
–	30.10 System Status Request	30.90 System Status
B0.11	30.11 ID List	B0/30.91 ID
B0.14	30.14 ID Size Request	B0/30.94 ID Size
B0.16	30.16 ID Request	B0/30.96 ID Characteristic
B0.18	30.18 ID' s Added List	B0/30.98 Added ID
B0.19	30.19 ID' s Deleted List	B0/30.99 Deleted ID

EVSは、サーバーポテンシャルの利点を使用するために、幾つかのカスタムコマンドを追加しています。これらのコマンドについての詳細は、EVSにご連絡ください。



# **CONFIGURATION MANUAL**

## **Version 15.00 – August 2016**

2016年 11月 発行

**株式会社フオトロン**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105  
神保町三井ビルディング21階

OC2016.PHOTRON LIMITED、All rights reserved. Printed in Japan.